

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

TPP大筋合意後の課題

日本が挑む! 新たなステージへ

東芝問題から何を学ぶ

米利上げ見送りの背景

第67巻1号
28年1月号

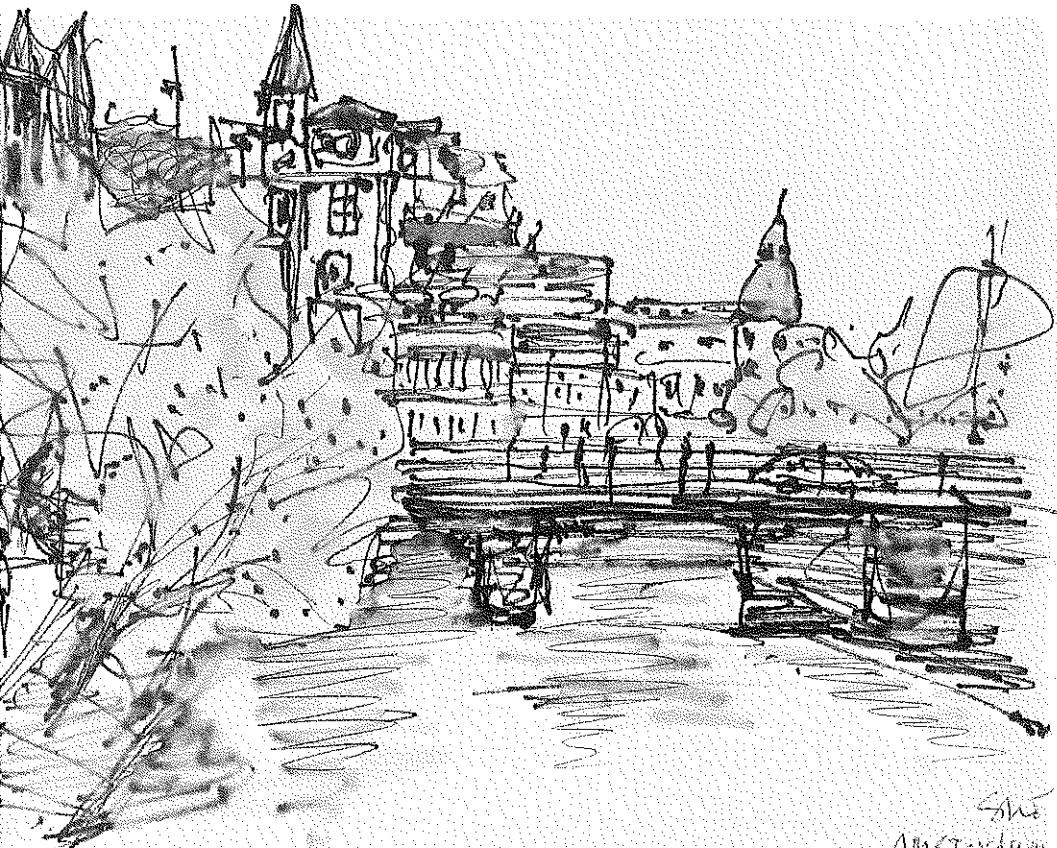
国会図書館永久保存書

城太
平蔵
竹中
裕司
水野
昌哉
櫻川

昭和経済
平成二十八年一月号

第六十七卷一号

公益社団法人 昭和経済会



Sche
AMSTERDAM.

オランダ アムステルダム

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊嚴をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

公益社団法人

昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

謹賀新年

昭和経済会

懸賞論文の応募

大らかに」の現世を渡りゆく喜」びみちて
先を臨みつ

応募規定

未発表のもの

四百字詰原稿用紙二十枚以内

年齢 職業を問わず

明けそめる富士が高嶺に白雪の輝きみつる
年をむかへん

元旦

(課題)

自由かつ独創的発想の内容を歓迎

会員各位の「繁栄を祈願申しあげます

日本経済の進む道
国際化の日本経済
地域経済の振興 等

締切 平成二十八年四月三十日

連絡先 昭和経済会事務局

E-mail:info@showa-ec.or.jp

TEL:03-6820-6000 FAX:03-3271-3104

新
春
一
月
号
·
目
次

謹賀新年
佐々木誠吾 (2)

わが回想記 堀江忠男(68)

卷頭言
佐々木誠吾 (3)

講演会記録

TPP大筋合意後の課題 「自由貿易圏の拡大主導を」 …石川 城太…(27)

一期一会 井浦 康之
(73)

日本が挑む！

歌の鑑賞

卷之三

昭經辨讐

東坡全集卷之三

光和上に見送りの背景 横川 昌吉 (3)

舊約全書

TPP大統合意と
早期発効へ批准急げ

謹賀広告

中川淳吉 (44)

詩刊贊助會員

講演会記録
加藤青延(49)

卷頭言

佐々木誠吾

東京銀座の中国の人々 観光立国だ

今日もオフィスを出て地下鉄日比谷線に乗るべくいつもの通り銀座通りを通つて行つたが、相変わらず人通りが多く賑やかであつた。中国は國慶節を迎えて一週間ほどの休日が続く関係で、中国からの多くの観光客が買い物に押し寄せて、バスを連ね大挙してやってきている。治安のよい平和な日本の観光を兼ねて、品質の良い日本の商品を買い求めて来るが、今日の銀座通りは大変な混雑ぶりである。周りにいるのは一見してわかることだが、中国人ばかりである。家族を連れて、恋人同士でと、和やかでほほえましい風景である。それとは別に、特

徴なのは、中國の人たちの購買意欲である。爆買いは、一向に変わる様子はない。この消費景気が影響して、百貨店の売り上げが伸びて、化粧品売り場などでは、昨年同期比九倍を記録するという異常さである。製品が確実なこと、品質が良いこと、日本商品の信用たるや大変なものである。化粧品、おもちゃ、薬品などの買い物袋を下げて、今の銀座は日本人がのけ者にされて、中国人の人気沸騰中である。日本の消費景気は軒並み、中国からの観光客によつてもたらされていると云つても過言ではない。通常、日本の商品は、雑貨類や小型機器などを含めると中國産と明記されたものが結構たくさんあるが、そうした中で中國の人たちから熱い視線を浴びて、こうして日本製品をじかに求められる場面を見ると有難く思うし、不思議に思うことである。余計なことを考えてしまうが、銀座6丁目の松坂屋は今、周辺を取り込んで大規模で開発中である。現在解体が進み、基礎部分が

出来上がつたころかと思われる。この中国の、日本における消費景気を背負つてやつてくる波に乗り切れず、傍観したまま忸怩たる思いでいるのではないだろうか。間隙をついて、三越、松屋、高島屋などが売り上げ増加を伸ばしてきている。どの店も店内の改装が進んで、商品の配置も魅力的に購買力をそそっている。風潮として店内のエレベーターを利用するよりもエスカレータにのるひとが多いのだろうか。面白い傾向である。エレベーターと云えば高島屋のレトロなエレベーターはそのまま使つているだろうか。あのジャバラの扉をきれいな女子店員が挨拶を交えながら開閉しているのも、客を寄せる懐かしい演出である。こうした消費景気は続いてもらいたいが、都会に集中するばかりで、地方経済は相変わらず冷え切つてている。一部の地域に集中した外国人に頼る消費景気、オリンピックまでにこうした傾向は続くかも知れないが、日本商品の信頼性は、永続して持続されて

いつてほしいと思うし、決して損なうようなことがあつてはならないと思う。消費景気ばかりではない。中国の経済減速は事実としても、中国人の多くが、今の中華経済に不信を抱き、海外に資金を移動させようと安全対策を講じていることは確かである。日本への不動産投資も盛んである。大きな資本だけでなく、個人投資家がいろいろと知恵を絞つて、東京の優良な地域での土地建物を見聞し賢く買つている。注意すべきことはこうした傾向が今後も続くとして、中国人投資家をだましたりすることのないよう、悪人が横行しないよう、日本自身が注意を喚起していく必要がある。せつかくの信頼を失うことがないように、日本の政策当局も商取引に犯罪行為が起きたりしないよう注意を喚起すべきところである。中国の人たちもそこはちゃんと心得て優良店の老舗を選んで、品物を選別していることであろう。中国から、東南アジアからの多くの観光客が、日本での滞在を

中国经济の減速とシリアの難民問題

心行くまで楽しんで、よい思い出を沢山作つて
もらひ、又訪ねてきてくれることを願つてゐる。
これこそ政府にはできない、民間による力強い
平和外交の証しである。世界からのお客さんた
ちを、我々は礼儀正しく、大事に迎えなければ
ならない。

今世界で問題になつてゐるには、二つの現象
がある。一つは、経済的には中国経済の減速で
あり、世界経済に与える影響は誠に大きい。二
つ目には、ギリシャ、イタリアを経由してヨー^{ーロッパ}諸国に入ろうとする、わけてもドイツを
希望するシリア難民の増大である。二つの問題
とも、対応次第では長期化する可能性がある。
しかしそうした問題についても、これからの中
國社会は英知の發揮によつて、歴史上の事象の
必然性として会得し、影響を最小限にとどめて
問題を解決していくことは間違ひない。

13億からの人口を抱する中国の経済動向
は、もはや減速状態に入つていて、危惧される
ところである。中国政府は今、バブル状況を上
手に克服して軟着陸を目指している。日本は過
去、政策の拙速もあつてバブル経済の破たんを
経験し、その後の長いデフレ経済のトンネルを

くぐつてきた。その結果、日本人は多くの苦しい体験を経てきた。中国は軍事大国を目指すことなく経済の発展に専念し、過去の日本の轍を踏まずに、政策が後手後手に回らずにクリアして、景気回復に着実な経過と成果を収めてもらいたいものである。経済が後手に回って、軍事優先になつたりしたら、それこそ皮肉である。今の中国が目指すところは旧態然の思想から脱却して、軍事大国にならずして、経済大国に盤石の基盤を作ることではないだろうか。経済社会の構造改革に努める時期に来た。驟進を続けてきた中国経済で、今回の経済の減速は、次のより高度な経済大国に成長するための試金石と解釈すべきであろう。階段を上り詰めて踊り場に出て、やや後退気味の足取りである。十年後の中国の経済はアメリカを抜いて世界トップだという人もいるし、十年後には今の中国はないという人もいて、評価はさまざまである。それだけに政治の舵とりは難しい。共産主義的

教条主義をかざして硬直化していたら、覇権主義的な思想を持つていたら、十三億の人口を擁する中国が、いつまで続くかわからないグローバル経済の真っただ中にいることは事実である。

E.Uを巻き込んで国際的論議になつてているのが、難民問題である。悲惨な難民の多くは、長期にわたり内戦状態が続くシリアからの難民であり、国際社会にとつてもはや人道的に看過できない問題となつてている。救済する方法と、問題発生の根元を断ち切らないとこれから先多くの犠牲者が絶えないことになる。幾多の困難に遭遇しながら危機を乗り越え、自由の地を求めて先ずを目指す国は、余裕のないギリシャやイタリアである。そこから多く人々が裕福なドイツを目指している。難民の多くは祖国の内戦や政治的混乱を避け、食料不足、医療不足、そして飢餓から逃れてくる貧しい人々や、弱い人々である。問題の発生の根源を解決しない限

り、難民の発生は続くであろう。それはシリアのアサドに対する対応である。革命の発生以来既に五年近くなるが、依然としてアサド政権が内乱状態の中でも存続している。そこに米ソの戦略的対立があつて、問題を複雑にしている。大国同士の思惑を排除して、柔軟に考える時期に来ている。米ソとも読みを誤った結果が、ここまで事態を悪化させたことを反省すべきである。アサドに期限的条件を付けて、暫定的に政権を認め、安定した基盤を作り、混乱に乘じて介入してきている不穏分子を排除すべきだろう。先ずシリア難民を食い止めるには、シリア国内の安定が必須条件である。米ソが互いに協定し合えば不可能なことはない。オバマ、ブッシュのかたくななる態度を改めるべきである。アサドの身柄を米ソが考慮して、協定に協力されればいい。さもないと人命を軽んじて、更に蛮行を繰り返しかねない。

世界的な株式市場を震撼させ連鎖的急落をもたらした中国经济の減速については、先般カトマンズで開かれていたG20の財務相・中央銀行総裁会議でも議論された。実効的な協議はなされなかつたが、中国の当局は、中国经济にバブル化現象があつて、近年過剰な設備や不良債権が発生し、この調整を余儀なくされている認識を示した。日本でもかつては長い間これを経験して、しかも長い間これを放置した苦い経験があるが、中国に対しては、同じ轍を踏むことのように忠告したい。2002年に不動産バブルを抑制するため総量規制を行つたが、長期間そのまま愚策に放置し、軟着陸に失敗した。そのため企業は委縮し、消費は低迷し、生産活動は停滞し、設備の改革的更新は遅れ、長期にわたるデフレ経済に陥つた。金融引き締めから経済の緩和への軟着陸に失敗したのである。これに依つて日本経済は多大の損失を蒙り、結果、国民は苦渋を強いられてきたのである。その間

にも東北大震災の大被害にあり、国力は衰退し、国民生活は深刻な状況にあつた。20数年の間のデフレ経済からの脱却が出来ず、安倍政権の誕生と、アベノミクスの登場によつてようやく経済に日が差し込み、折からの急速なグローバリズムの波に遅まきながら加わることが出来た。あのまま民主党政権が続いていたらどんなでもない結果になつて日本経済は立ち上がり、國民生活はどん底に落ちたのではないで、かと想像するだけでも身の毛がよだつ思いである。

ただでさえあの時の元首相の鳩山なんかは、氣でも違つたような奇怪な行動をして中国に行つて勝手な行動をとつてきてている。時代が暗く停滞すると人材不足をきたし、社会も平氣でああした人物を受け入れる結果になる。戦没者に礼を正し弔意を示すのは当然としても、戦没者の墓の前で土下座してみじめであり、ぶさまである。土下座することもないのではないか。

日本人として、弔意を上品に示す方法があるはずである。火星人とも云いながら狂つた頭の持ち主である。野党諸君は政権担当がままならず未経験者だから仕方がないが、民主党には鳩山に代表されるように政治も経済も分からぬ連中が沢山いた。苦勞なしの裸の王様を地で行くようなものである。そうした人物に引きずり回される國民こそ、不幸である。大臣になつて矢鱈にはしやいだりした者もいた。そうした例を見ると、一国の指導者たるものは冷静で落ち着きが必要である。日本には優れた官僚諸君がいるから、安心していられるのである。その官僚諸君も、組織の硬直から距離を置いて、切磋琢磨して國民のために尽力してもらいたい。

中国经济も曲がり角に來てゐるが、過剰な緊縮政策もそつたが矢鱈に締め付けるのではなく、経済の構造改革と、政府の組織改革も同時に進めて行こうとする内部からの機運が大事

で、効率化、透明性を求めていくべきである。習近平が断行している、腐敗化し切った官僚の体质改善はもとよりである。同時に考えられることは、かつての鄧小平の自由開放政策は思いきった英断であつたが、それにもまして欧米の政策的長所を学び取り入れることも大事である。国内の不満のはけ口に、対外拡大政策を取つたりすることは失策の愚である」とは、過去の歴史の教えるところである。



作品 関根常雄

ホルクス・ワーゲン車の不正欠陥の驚き

信用と伝統、科学と技術を誇る経済立国のドイツである。お手本となる国で、不正による不祥事が発覚して世界を驚かせている。EUの盟主であり、経済の牽引を果す立場のドイツ国で、代表的トップ産業で、かかる車両構造の不正事件が発覚したことは、ドイツに対する尊敬の念を根底から揺さぶるものであり、国家の威信にかかる重大問題として、我々は危惧の念を抱き誠に残念に思っている。この信用失墜はいかにして回復できるものか絶望的にすら感じている。ドイツの聰明、勤勉を旨とする国民的精神を傷つけて限りがない。EUで奮闘するメルケル首相はとてもなじみ深く、親近感を以いでいるので、その心中を察して余りある。WARUMU！ 何故だ、そのドイツが、産業界のトップが一体なぜなのだ、と自分自身に問いかけたい気持ちで一杯である。

ガソリンの消費量が少ないとされるデーゼル車である。ホルクス・ワーゲン車の排ガス試験を巡る問題は、車の検査、試験中だけに排ガスの規制基準にバスする装置が作動し、排出される有害物質を低下させるようなソフトを搭載していたのである。これは悪質きわまる行為である。これを見抜いた検査機関では、ホルクス・ワーゲン車が検査、試験中に自動的に検査にバスする仕組みのソフトを搭載していたという極めて計画的なものである。検査以外の通常の、例えば高速道路を走行中になると、排出する有害物質、中でも一酸化炭素や、特に窒素酸化物等には規制基準の40倍にも達する排出量を記録し、それだけ大気汚染をもたらしていることになる。今世界は、大気汚染の元凶である有害物質の除去に懸命の努力をしているさなか、ドイツはこうした車を監視の目を盗を巧みに抜けて既に1,100万台にも達して市場に販売していると云う。その衝撃は想像に余

りあるものである。その影響は世界中に及びつたり、産業的犯罪行為として糾弾すべきだとする意見が圧倒的である。こんなにかさまをやるとは、恥ずかしくて聞いていられない。

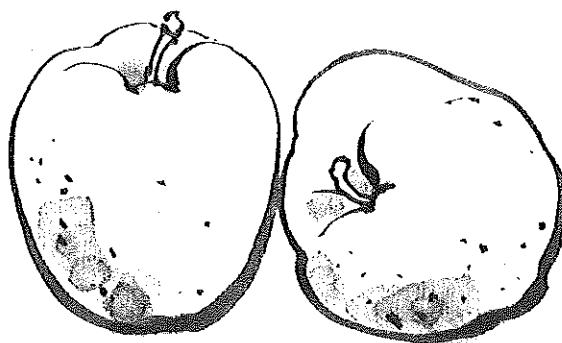
そもそもドイツの産業の水準は世界最高を行くものとして評価されているし、我々もそのように理解するところであった。分けても地球環境問題については政官民、国を挙げて取り組んでおり、原発反対の主張を貫いて、安心で安全なクリーンエネルギーの拡大に取り組んでいる現状を見て、全く信じられない不正行為であり、行つてはならない経済行為である。ドイツの産業を代表し、業界トップの企業において、かかる事件が発生したことは世界にとつても、世界経済にとつても大きな損失である。ドイツでも自動車産業のすそ野は大きいものがある。自動車産業に関連する部品産業を含めると、輸出に占める割合は2割に達すると云われている。もし不買運動とか、生産抑制などの措置を

受けたりすれば、規模が大きいだけに直ちに産業経済に与える景況が出て来るし、EUのみならず全世界に影響を与えるかねない問題にもなつてくる。憂慮に堪えない。ここは冷静になつて事件の解決にも英知を絞つていく必要がある。もとより検査の方法についても検証する必要があるが、不安が広がらないように原因究明に取り掛かり、はつきりした報告を待つしかない。競争社会にあつては常に王道をめざし、安易な手段の、悪意ともいいうべきとした風潮の蔓延を阻止するようでなければならない。

不正行為の発覚によつて、アメリカの司法当局はホルクス・ワーゲン車に対して制裁金をかけるというが、その額も二兆円以上にのぼるとされ、この種の影響はEUはじめ各国にも及んで莫大なものとなり、企業存立にも影響しかねない問題である。幸い我が国では、ディーゼル車の普及は敬遠されており、ハイブリッド車や、電気自動車に軸足を置いているので今の

ところ不安要素はなくて済んでいるが、これを
他山の石として、産業人、経済人が常に襟を正
して経営の現場にたずさわっていくことが望
まれる。謂われるとこのコンプライアンス、
セルフガバナンスの確固たる確立を順守して
経営にいそしむべきと思う次第である。

10月1日



作品 関根常雄

第二次安倍内閣の発足

重要テーマの未解決

第二次安倍内閣が7日発足した。明暗を分けている近時の内外情勢である。TPPの合意成立は大成功を収めた。中国経済の減速、少子高齢化による国内市場の縮小、国内経済の成長戦略の不透明感など、日本経済の中と周辺は課題山積である。こうした中で安倍内閣は未来に挑戦する内閣と位置付けて「一億総活躍社会」？の実現に取り組んでいくとした。GDP・600兆円の経済社会を達成するとしたのである。出鱈目なものでは困るが、それ相応に目標を大きく掲げることはいいことである。組閣は安産に了し、希望と期待をでっかく掲げて船出をした。

内閣改造は、十九人の閣僚のうち十人を交代させ、重要閣僚の留任を決めた。従来の骨格を維持したことは賢明であった。政府と国民に

つては、政策の継続性を保つ必要がある。重要な閣僚としてとどまつた大臣諸侯は、今までの経験と実績を踏まえ自信を以て職務に挺身して、安倍首相を支えて行つてもらいたい。進路の誤りなきことを国民に提示するにも、しっかりとした閣僚がいるのとのいのとでは、政局運営の優劣に特段の影響を及ぼすからである。首相の力が大きすぎて、大臣が及び腰の腰ぎんちやくばかりでも困る。首相は隠忍自重して事を冷静に見極め、権力に奢ることのよう自らを戒め、国とのと国民の安寧の道を確実に進んでもらいたい。首相が、平衡感覚を自然と身に着けていると感じたことは、課題を負う問題に対応して、敢えて異色的閣僚の人選を決め任命をしたことである。サプライズな点があつて、少しは刺激になり、国民の注目を集めることになつて良い結果であった。

少しはサプライズな点と云うのは、組閣に際し新しく入閣した大臣だ、河野太郎氏52才で

ある。河野洋平氏の息子である。政治家の家系としては三代目に当たる。政治家を代々継承していくことは望ましいことではないが、欠点は利権が絡みやすいこと、惰性に陥りやすいこと、地方自治に活力が失われていくことである。一応の区切りを設けるとか、旧来の選挙地盤から他の地域で立候補するとか、優秀な政治家としての人材確保も重要である。先代の河野洋平氏は党内でもハト派に位置し、かつて自民党に反旗を翻して離党、自ら新自由クラブを立ちあげた。彼はその間も含め政治家として糾余曲折を経、苦労する場面もあつたが、宮沢内閣では抜擢されて官房長官に就任して、中央舞台で活躍する場面が与えられた。昭和経済会では三回にわたって講演をしてくださっている。今回入閣した太郎氏は、洋平氏の流れを汲んでどのよう立派舞いをするか注目である。ハト派として信念堅持は、安倍首相にとつても必要欠くべからざるモノとなつてくるに違いない。イエスマ

ンばかりではマンネリズムに陥つて、活力の減退を招くことになる。安倍内閣は安保法案をめぐつて、国会審議の過程で更に疑心暗鬼を促し、国民の不信を大きく買つてゐる状況である。参議院選挙をにらんで、河野氏の発信力を期待した戦略とも受け止められる。小泉進次郎に代わる宣伝力を務めるには十分の有資格者である。

河野氏は原発ゼロの会の代表を務め、国会内外で主張を続けてゐる。どのような政治的姿勢を取つていくか、国民の彼にたいする期待が大きかつただけに注目だ。又、新国立競技場の建設問題についても、建設に踏み切らなくとも従来の施設を活用していけば課題の五輪の開催についても間に合うと、その発言については説得力がある。いずれも国民の注目するところで、敢えて言うとすれば、いずれも腰がんちやくの大臣の中につつて、異色的存在と云うべきところである。原発ゼロは、世界に求められる問題である。 Chernobyl 原発事故、そし

て福島第一原発の事故の規模と被害の恐ろしさを、世界中の人々が見聞きして経験してきたところである。しかし喉もと過ぎれば何とやらで、忘却症状の激しい人間どもである。改めて実体験しないと懲りないと憲でもある。もし後一基で同じような災害となつたら、日本経済は沈没である。ましてや地震国で象徴される日本である。更に連鎖してもう一基となつたら、冗談じやない。その時は、みんながお陀仏の時である。

因みに原発の安全運転中にも、使用済み核燃料棒はどんどん吐き出されて、未だに置き場所が決まらないでいる。この厄介者、強烈な放射能を吐き出している。破壊の惡魔の堆積場所が、そのままの未解決である。どうしたらしいんだ。人間の惡魔の発想を、どこで喰い止めらいいのか。終末論を持ち出すわけではないが、自分で演じた始末で自滅する人間社会の将来の姿が、恐怖に近いものとして迫つてくるようであ

る。これから原発施設の建設だけでも禁止する国際協定が、共同歩調で世界一致して図れないものだろうか。原発を取り巻く情勢は、刻々と変化してきている。そして人間の英知が勝つて、原発禁止へと動きつつある。負担はかかるにしても、クリーンエネルギーを原発に代えていくことは、未来に亘つて存続すべき人類にとって、もはや歴史的使命である。ましてや原発施設を外国に推進して、経済的利益を測ろうとする企業については何をかいわんやである。

今日も暗くなりつつある尾山台駅踏切辺りで、十人ほどの中年男性の諸君たちが、原発反対のチラシを配つてゐる姿があつた。安保法制反対と云ふことも書かれてあつた。同盟国に加わつて戦争に参加できるようになつたわけだから今までとは全く違つし、戦争法案と云われるのもむべなるかなである。筆者よ、そんな呑気なこと言つていては困るんだと、有識者や善良な市民から叱責を頂きかねない。研究すれ

ば、現行憲法の範囲内で集団的自衛権に近い自衛の措置はとれるはずである。口実をつけて憲法改正を目論むタカ派を勢い付けてはならない。いつの時代にもタカ派、ハト派がいて日本の戦後の国政を調整してバランスよく收めてきた。しかし絶対的に否定し、肯定する事案だつてある。原発反対（人類破滅の要因）、戦争反対、平和維持、人権・生活権・自由権尊重と云うテーマは、人間が地上に住む限り続いく事柄である。尾山台駅前でチラシを配つていた男性諸君らは地道で、小さな市民グループである。ご苦労様と言つてチラシを頂いてきたが、この運動は風化させてはならない。改めて、ゆつくりと勉強させてもらおうと思つていい。

10月11日



作品 関根常雄

仰天 習主席を大歓待のイギリス大英帝国

20日、エリザベス女王と一緒に金の馬車に乗つてバッキンガム宮殿を闊歩して、協力関係樹立の黄金時代を迎える英・中の蜜月ぶりである。そしてロンドンのバッキンガム宮殿で、エリザベス女王主催の華やかな晩さん会に出席した習主席は、笑顔満面に乾杯に応じていた。

エリザベス女王の習主席に対する歓迎の辞では、「中国との野心的な新たな高みを目指して未来の関係を築く超大国同志」と褒めちぎれば、受けて返した言葉の習主席も「中英両国は、更に輝かしい未来を目指して強固な関係を構築していく経済大国」とと称賛しあつて、ウインウインの関係だとお互いに賞賛し切つていた。結構なことである。黄金時代の到来にキヤメロン首相もお墨付きを与えて、政治の舞台でよいしょしている。さわざりながら国際社会に対する中国の対応には読み切らないところ

があるし、特に中国经济の減速と、特に対外軍事力の強化につながる言動については、懸念すべきところがあつてうかつなことはできない。米中関係が表面的には友好ムードを作り上げることに努力しているが、南沙諸島の領土拡張をはじめとして、本心と云えば互いにけん制し合っているのが現状である。偶発的な衝突はもとよりだが、米・中のような大国間の力の対立、緊張関係はよろしくない。

そうした懸念すべき状況ながら一方で例えば、今回の英・中関係の未来志向の経済外交の成果が上がればいいことだし、片や経済協力関係と地域はフラットになつてきてるので、米・中関係の悪化した、うやむやの関係を止める緩行地帯の効果を果すことになる。経済関係の緊密な関係は、政治の世界の関係に連結していく。それは直ちに、平和共存の繁栄の道筋を描くことになる。晩さん会の英中トップの挨拶のやり取りは大きさで表面的な、儀礼的なもので

はない。更にお互いが切磋琢磨して、改善に努力していく工程を築いていかなければいけない。人権問題のみを取り上げて、関係を阻止するばかりでは和解と共栄の道を目指す突破口は得られない。「先ず隗より始めよ」で、人権問題ばかりを取り上げていたでは、いつになつても話は前に進まない。やれるところからやつていく知恵も必要である。話がからまつて、いるような時には、これ先ず先手を打つて出ると一緒である。解決すべき人権問題は、後にそうした関係の継続の中に解決していく手立てもある。

ところで驚くべきことは、短期間で、今の中国は馬鹿にならない力を蓄積してきたことになる。いつこれ程の力を蓄えたのであろうか、いつこんな金持ちになつたのだろうか、平凡な質問を投げかけてしまふほどに驚いている。嘘じやないかと思うくらいである。或る雑誌によると、中国の統計は「まかしが多く、信ぴよう性に於いて當にならない」という。しかしやって

いることが並ではない。どこにそんな金があるのだろう。それも桁外れである。アメリカに行って航空機を300百機注文してくるし、インドネシアでは、日本と受注合戦の末に新幹線の受注を受けるし、今度の訪英でも開発資金として、気前よくどーんと9兆円余の支援を行うとう。軍事力だけではない、経済力でも力を誇示している。おつとりとしながら周近平のでかいからだが、ますますでかく見えてくる。大人の風格充分である。愛嬌があつていいのだが、ブーチンに駆け寄つて、いつ安倍さんの軽々しい姿とは、差がついてしまう。今やなりふり構わず、みんなが中国の経済力をあてにしている。約束が不渡り手形で終わらないことを期待している。かつての旧宗主国イギリスも、今の中の中国经济に頼る始末で、まさに攻守逆転の様相である。

それにしても例えば、外国に輸出される中国の新幹線技術は大丈夫なのだろうか。科学技術

の進歩が、実際にそこまで進歩しているのだろうか、疑念に思うことがある。以前、いろいろと報道されたことであるが、橋脚を走行中に脱線、地上に墜落した記憶がなまなましいが、車体を検証するのではなく現場に埋めてしまつたという珍事が報道されたことがある。原発施設の輸出にしても、単に経済力だけではない、技術力で安全・管理は行き届くようなレベルなのだろうか、心配になるところが多い。今回の英中間のビジネス案件は総額400億ドル、約7兆4000億に及ぶ。お互いの貿易拡大はいいとしても、顕著に改善されてきているとはいえない中国の秘密主義、隠蔽主義が、尚くすぶり続けているようだとしたら、折角の経済協力にも影を落とすことになるから、そうしたことのないように期待したい。

それと力の誇示による威圧的で、見境のない行動も問題である。政治的に未熟で、大国の政権にありがちな反対勢力を抹殺しようと/or>

権力主義的な風潮を良しとする傾向である。人権問題で大事なところであるが、そうした問題を含めて、経済関係の樹立によつて適宜改善されいくことだろう。今回の訪英についても経済を武器にして関係を強化しようとする魂胆がありありだとしても、聊か露骨としか受け止められかねない事案も多い。そうしたこと反映してか、噂によると、英國紙の多くが、中国の札束ばらまきの政策を甘受するのは、英國の価値観に背くのではないかとか、利益と信念のバランスを欠いた偏重さとか、米国との関係をこじれさせることが多く出ていているのではないか、ということである。同じような見解を持つ人が、沢山いるのではないだろうか。それほどに英國の中国歓迎ぶりは、一般市民にも計算高い印象に映るには度を越したものがある。とはいっても、いたずらに国際関係を緊張させるような事柄よりもましであり、有益な栄養剤である。平和外交の在り方についても今回の友好ム

ードを、それなりに評価すべき意義もあることは確かである。南沙諸島の浅瀬や岩礁埋め立てに発した中国の海洋進出、それに対抗する米国・日本など対立を危ぶむ風潮もあって、中国を取り巻く状況は決していいものはない。そうした状況を緩めるためにも、今回の英國・中國間の友好ムードの演出は大いに期待してもいいのではないか。その成果は大きい。

それにしても中国の経済拡大のスピードには驚くものがある。空なりに英知をつ發揮した成果であって、政・官・民の一一致した努力の成果と云うべきである。そして日中戦争終結20年を迎えた今日である。中国共産党一党支配の國を独立させ、毛沢東時代から進んで鄧小平の、經濟開放改革時代を経て幾ばくもたつていな現在、世界第2の經濟大国にのし上がった実力に着目したい。そしてかつての宗主國だった大英帝国に乗り込んで、大金をばらまいてイギリス人と、バッキンガム宮殿のエリザベス女王

も喜ばせてくる力量である。眞贋のほどは判らないが、平和の理念に立脚しないままに、多くの国を巻き込んで詐欺がまいなことをやつたら、将来の中国はなくなってしまうかも知れない。疑っていたではきりがない世の中のこと、アジアインフラ投資銀行の設立もそうだが、中国は、些細な南沙諸島の領有権を巡る思惑と争いをやめて、平和外交をダイナミックに世界に広めて、經濟で平和的に競争して行くことに徹していくば、大人の風格さもあらんと云う次第だろう。現実的且つ平和的手法を用いて、世界經濟の發展に寄与してもらいたいと願うものである。

10月24日

ミャンマーの議会選挙の結果

(スー・チー氏の未知数)

世界が注目し、一喜一憂していたミャンマーの総選挙が11月8日行われた。開票結果が着々として進み、その間の、緊張の度合いを深めていた。13日現在アン・サン・スー・チー氏

が率いる野党の国民党連盟、LNDが圧倒的な勝利をおさめ、議会の過半数を占めて大勝することが分かった。与党は大敗を認めた。立派な選挙結果が得られて、世界中がほっとしている。50年以上も続いた軍事政権の幕が落とされた。民主主義の勝利である。

一方、与党のインセイン大統領は、民意を尊重し平穏かつ着実に政権移譲を行うと声明を出した。1990年の総選挙の時のように、LNDの勝利を無視したようなことはしないという意味である。今回の選挙では、LNDが3分の2を獲得する勢いで、結果として議会の過

半数を占める数になる。圧勝を果したスー・チー氏は国民と共に選挙の結果について勝利を喜んで、祖国の未来が開けて行くと第一声を放った。オバマ大統領もスー・チー氏の人間尊厳の姿勢と、忍耐について世界を代弁するような賛辞と祝意を表したのである。

スー・チー氏も意気高揚して、興奮冷めやらぬ群衆を前に、自らも湧き出る情熱をひたすら抑制するような様子であった。大統領以上の地位に就くと宣言したりして、意味深なところもあって気にはなったが、あくまで民主主義の力強い浸透を目指してのことであろう。且つ活動家としての知名度は高いが、政治家としての力量才覚は別であって、不透明な点が多い。行政能力も未知数である。長年の軍政の仕返しに強權を以て臨んだりして、いたずらに国内の対立、混乱を招かないように、冷静沈着な手腕を望みたいところである。経済的には世界からミャンマーがアジアに残された最後のフロンチアと

云われるくらいに熱い視線を浴びている。ミャンマーの将来は、輝きのある魅力に満ちた国造りに邁進してもらいたいものである。そしてアジアの貧困を駆逐して、民主主義を築いた豊かなミャンマーに成長することを、それはアジアの平和と安定にもつながることだし、その模範生となることを期待し、念願しているからである。

11月13日

————— ☆ —————

11月14日の各紙朝刊ではスー・チーさんが率いる国民民主連盟が上下両院の664議席の過半数を取つて、来春にはNLD政権が樹立すると報じていた。スー・チーさんは二人の子供がいてイギリスの国籍を有しているので、大統領にはなれない。国家元首である大統領と、スー・チーさんの二重の権力体制になれば、内政が混乱しかねない。彼女も既に70才であ

る。建国の志、將軍の出と名門を誇る出身である。ブルジュア意識が強く、老いの一徹をむき出しにすることのよう期待したいものである。1988年LNDの設立以来、党を支えてきた活動家は、既に彼女以上の高齢者ばかりである。党の中からいかに優秀な大統領を選ぶかが当面の課題である。大統領には権限がなくすべてを決めるのは私である、と云つてはいる主旨はそこにあるのだろう。そして自分は大統領以上の地位にあるとも言つて、伏線を敷いている。立ち舞が微妙である。

11月14日の各紙朝刊ではスー・チーさんが率いる国民民主連盟が上下両院の664議席の過半数を取つて、来春にはNLD政権が樹立すると報じていた。スー・チーさんは二人の子供がいてイギリスの国籍を有しているので、大統領にはなれない。国家元首である大統領と、スー・チーさんの二重の権力体制になれば、内政が混乱しかねない。彼女も既に70才であ

チー氏の政治に拙劣性が炙り出されたりすると、その結果で、民意が混乱におちいるようだと、新政権に寄せる期待が大きかつただけに、その反動も危惧されるところである。軍政から軟禁状態にあつたとはいへ、スーチー氏の上級階級の日常生活と意識から、貧しい民衆の心をつかむことが出来るかどうか気になるところである。ましてや大統領以上の存在になるというような言動を以て、軍と同じような独裁的な手法を以て臨めば、先が読めなくなつてくる。先ず真に民主的な政治家としての志を堅持し、民衆の心をくみ取つていく雅量次第である。 急な改革を求めずに、穩健な体制作りに徹し、長年の軍政組織の弊害を解きながら、徐々に國內体制を民主化に進めて行くべきである。即ち軍と対立して、またもや民主化の道をとざされることのないように、慎重に対応すべきである。軍を取り込み、政治的関与を徐々に排しながら

包容力を以て対応することも、時に必要なことである。

11月14日

ミャンマーの軍政下のもと公正に選挙を終えて幸いなりき

軍政の長き支配に幕を閉じ民主政治に開けるミャンマー

仏塔の黄金に光るミャンマーの古き文化に新しい風

ミャンマーに民主政治の光さし熱氣あふるる青年の街

若者の力あふるるミャンマーの先に広がる青年の地よ

熱狂的国民合意を形成すあとはスーチー氏の力量やいかん

ミャンマーの先に問題山積の政治、経済、外交のこと

大統領以上の地位にあるといふ意味難解のことば怪しき

国内の治安を保ち經濟の再建こそは必須なり
き

ミャンマーのアジア地域の安定に尽くし平和
のかなめとやなれ

軍政の半世紀ののちミャンマーに民主政治の
風吹き抜けり

仏塔の光る歴史に改革と民主の風の光るミヤ
ンマー

民衆の期待に応え政権の良き運営に徹し行く
べし

11月14日



作品 関根常雄

ISによるテロ事件

花の都パリで14日午後9時ごろ、銃撃、爆弾テロが起きた。パリ街の6か所で起きた同時テロである。ISが、フランスによるIS施設への空爆攻撃に対する報復であることをインターネットで発表した。犠牲者は129人、負傷者は253人、そのうち重傷者は99人と伝えられている。痛ましい事件であり、悲劇である。平和を愛する全世界の人々に対する挑戦であり、その殘虐、蛮行によつて多数の犠牲者が出来しまつたことは痛恨の極みである。憎むべきこの暴力の惨劇を、何故食い止めることが出来ないのか忸怩たる思いである。犠牲者を悼み、愛すべき人々の命を奪つた憎むべき暴力行為を何としてでも排除しなければならない。自由、平等、博愛の精神を象徴するフランス国旗を世界に高々と一致団結して掲げようではないか。同時に、その根源を断ち切る努力が国際社会が

連携して追及していく必要がある。その場限りの、対症法的手法を以てしてではなく、抜本的な解決を真剣に考えていい適えならない。そうでないとテロの流れが止まず、暴力の繰り返しをして、眞の解決が得られない世界になつてしまふことを憂慮するのである。世界の、別けても大国の指導者たちが、こうした惨劇の発生を英知を以て解決する努力をしないといけない。

テロの発生の根源は明らかである。フランスは当然のことながら、国を挙げてこの憎むべきテロに対しフランスへの宣戦布告と受け止め、断固、テロの敵の殲滅を図るとオランダ大統領が宣言した。米、英、ロシア、フランス、トルコと云つた国々が連携して既にISに対する軍事行動を行つて、その拠点に対し激しく空爆を行つてゐる。IS包囲網の作戦が徐々になされつつあること結構なことである。テロの拡散を防止して、テロの温床を育てる貧困、格差、独裁を生む土壤を作らないよう国際社会

会が連携することも肝要である。今、テロに対する国際的な軍事的連携が進められている。同時に大規模の空爆で上手に凶暴なテロの拠点を襲撃していればいいが、標的を外して下に居る民衆をまきこんだりしないか心配でもある。杞憂に過ぎなければと思つていて。

I Sは、国内の混乱と脆弱化した国の間隙について、徐々に勢力を伸ばしてきている。特にイラク北部辺りから出て、更にシリアの国内事情に浸潤して、その震源地であることも疑いの濃い地点である。シリアの関与については米、露の対応に相違があつて、この調整を優先させなければならない。アサドの取り扱いが問題である。しかし解決できない問題ではない。シリアルアの内戦と混乱が続く限り、大量の難民が欧洲に流れ込んでくる。難民の問題解決もさることながら、難民に紛れ込んでI Sの武装勢力と組織化されたテロ集団が紛れ込むことは大きい。中東、EU各地に拡散されているI S

であるが、その正体がなかなかつかめないのである。そして攻撃は極めて組織化され、高度化されてきている。ロシアの旅客機墜落事件も、I Sのテロの関与が濃厚である。ロシアを含め、テロを企てているI Sに対する連携と包囲網の構築が、米ロ和解へのキッカケとなるようならば、世界にとって大いなる一步前進である。現時点でも、例えばアメリカとロシアの大団が、オバマとブーチンが、額を突き合させてフランクに政治的解決を優先させていけば、混乱の続くシリアの問題にしても解決は可能である。自己のことのみに、自国の利益のことのみを考えていたのでは、世界の平和と安寧の社会を手にすることはできない。歴史が諭すように人類は英知によつてのみ、生存を維持していくことを理解しなければならない。パリのテロ事件の悲劇を目の当たりに見て、言葉にならない悲しい気持ちで一杯である。

TPP大筋合意後の課題

「自由貿易圏の拡大主導を」

一橋大学教授

石川 城太



環太平洋経済連携協定（TPP）交渉は、今回も合意先送りかと思われたが、土壇場になつて大筋合意した。日本にとつては、菅直人首相（当時）が交渉参加の検討を表明してから実に5年、正式に交渉に参加もてから2年余りの月日が流れたことになる。

TPPの大きな特徴は、関税の撤廃や削減といった物品市場アクセスやサービス貿易の自由化のみならず、非関税分野（投資・競争・知的財産、政府調査など）や新しい分野（環境、労働など）を含んだ包括的協定を多数国で交渉しているという点である。

交渉は31分野にもわたり、12カ国には先進国・中進国・途上国が含まれるため、難航するの予想できた。実際には、新しい通商秩序の交渉に加え、例えば日米間の農産品と自動車分野の市場開放を巡る攻防や、ニュージーランド（NZ）の乳製品市場開放要求といった旧態依然の貿易自由化交渉が足かせになつた。

* * * *

の批准は予断を許さない。

今後は各国での議会承認など国内手続きに焦点が移る。発効のための条件は、域内総生産（GDP）の85%以上かつ6カ国以上の承認となつており、日米のどちらかが欠けると発効しない。安倍晋三首相は農業分野の対策を強く意識して、閣僚が参加するTPP総合対策本部を即座に立ち上げ、回会での承認に全力を尽くす姿勢をみせる。

米国ではオバマ大統領が批准に全力をあげるが、次期大統領の有力候補のヒラリー・クリントン氏が、微妙な言い回しではあるが「彼女が理解するところのTPP」に不支持を表明するなど、一筋縄ではないかろう。ただ、米国はTPPを経済と安全保障の両面で重視しており、最終的には批准すると思われる。

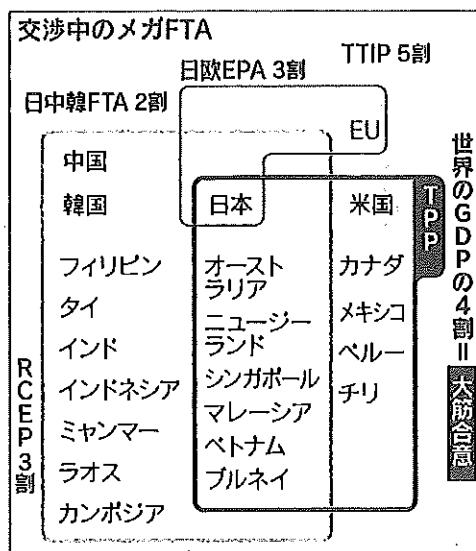
一方、TPPで国有企业改革を迫られるベトナム、国有企业改革やマレー系民族を優遇する「ブリュートラ政策」に制限が課せられるマレーシアで

日本では今回の合意内容についてTPP反対派と賛成派の双方から不満が漏れている。合意内容の細かい点について善しあしを議論すればきりがないが、アジア太平洋地域の一大経済圏形成に向けて極めて大きな一步となつたことは間違いない。今後の課題はTPPをさらに拡大発展させ、最終的にアジア太平洋自由貿易圏（FTAAP）の形成につなげることにある。

世界貿易機関（WTO）での多角的通商交渉（ドーハ・ラウンド）が停滞している状況でTPPはアジア太平洋地域での包括的な経済連携を促進させる。特に成長著しいアジア太平洋地域において、新たな貿易・投資の共通ルールをつくり上げていくことに大きな意義がある。

* * *

メガ自由貿易協定（FTA）の形成に大きなインパクトを持つ。特に東アジア地域包括的経済連携（RCEP）交渉には直接的な影響をもたらすだろう。なぜなら、RCEPの交渉国である東南アジア諸国連合（ASEAN）+6（日本・中国・韓国・インド・オーストラリア・NZ）16カ国のうち、日本を含む7カ国がTPPの交渉参加国だからだ（図参照）。



今後RCEP交渉国の中のいくつかの国はTPPへの参加を真剣に検討するだろう。

韓国は地域貿易協定に関して、2国間FTAを基本として積極的にFTAを推進してきた。その結果、国別貿易額に占めるFTA締結国割合は、日本が約20%なのに対し韓国は40%を超えている。韓国は欧州連合（EU）や米国ともFTAを結んでおり、自動車分野などで日本製品の競争力を影響を及ぼしている。TPPが発効すると韓国の優位性が失われる可能性もあり、韓国はすでにTPP参加を念頭にTPP交渉参加国と2国間協議を進めている。

ASEANでも加盟10カ国の中シンガポール、マレーシア、ベトナム、ブルネイがTPP交渉に参加している。今後ASEANへの貿易や投資の流れが大きく変わる可能性があり、タイやフィリピンなどの参加機運を再び高めると予想される。FTAのネットワーク拡大に乗り遅れまいとして非加盟国が加盟を争う現象、いわゆるドミニ

効果が生じる可能性が高い。

さらに、ASEAN加盟国の多くがTPPに参加することになれば、中国にも参加圧力がかかることになる。TPPでは国有企业改革や高い水準の知的財産保護が求められるので、中国がすぐに参加するとは考えにくい。中国はTPPに対抗するためにRCEP交渉を加速させるだろう。その結果、TPPとRCEPが併存すると予想される。

日本はTPPとRCEP以外にも2つのメガFTA、すなわち日中韓FTAと日欧経済連携協定(FPA)の交渉も進めている。日本が参加していないのは米国とEUの環大西洋貿易投資協定(TTIP)のみだ。日本が交渉を進めているメガFTA合計で世界のGDPシェアの約8割、既存FTAを含めると国別貿易額に占めるFTAメンバー一国の割合は7割以上となる。

中国は、日中韓FTA交渉で中韓FTAを先行させてきたが、TPP以外のメガFTA交渉で主導権をとるべく、今後RCEPのみならず日中韓

FTA交渉も進展させる可能性が高い。またTPP合意は停滞している日欧EPA交渉にも弾みをつけるだろう。

要するに、TPP合意によりメガFTA交渉における日本の存在感は一気に高まり、日本は複数の巨大な貿易圏の共通ルール形成で大きな影響を及ぼせる立場になつた。これらの交渉で、日本は望ましい共通ルールを策定すべくイニシアチブ(主導権)を発揮することが肝要である。

そして、日本が参加するメガFTAへの参加国を増やしていくことも重要である。参加国の増加は、国境を越える経済活動の一層の円滑化・活性化に直結する。

* * *

カナダの経済学者ジェイコブ・ヴァイナーは、地域貿易協定の締結は「貿易創出効果」というプラスの効果と「貿易転換効果」というマイナスの

効果をもたらすと指摘した。貿易創出効果は、締結国の間で新しく貿易を生み出し、輸入国でのモノの価格低下と輸入量の増加をもたらす。貿易転換効果は、輸入先を生産が効率的な国から非効率的な国へ転換させてしまうことで、結果として輸入国が輸出国に支払う価格を上昇させる。参加国が増えれば貿易転換効果が生じにくくなったり解消されたりする可能性が高まる。

さらに TPP 交渉では、自動車の原産地規則を

巡り日本とカナダ・メキシコが対立した。部品を含めた自動車の年産が TPP 域内と域外にまたがる場合、域内での生産割合がある水準以上ならば、その自動車の原産地が域内と認められて関税が免除される。

結局、日本に不利にならない水準に落ち着いたようだが、参加国が増えれば増えるほど、原産地規則を満たしやすくなるし、効率的なサプライチェーン（供給網）を構築しやすくなる。日本は東南アジアで強固なサプライチェーンを築き上げて

おり、それらの国々が TPP に参加すれば日本のメリットは大きい。

日本はこの機をとらえて、重層的かつ戦略的にアジア太平洋地域での貿易・投資の自由化と共通ルール策定をリードしていくべきである。そして将来の F T A A P の実現に向けて不可欠となる TPP と R C E P の融合に、リーダーシップを発揮してほしい。

いしかわ・じょうた 60年生まれ。ウェスタン・オンタリオ大博士。専門は国際貿易論

石川 じょうた

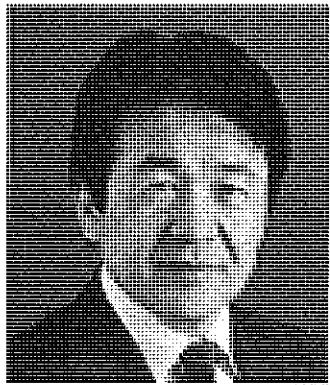
日本が挑む！

新たなステージへ

旧・三本の矢の方針を踏階さらなる発展形へ

慶應義塾大学 総合政策学部教授

竹中 平蔵



アベノミクスの「新・三本の矢」を冷静に読み解くと、旧・三本の矢で掲げた「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「投資を喚起する成長戦略」を着実に実行するための約束だとわかる。

まず、新第1の矢だが、「希望を生み出す強い経済」として20年ごろにGDPを100兆円積み上げ、14年度比2割増の600兆円にする目標だ。これを政治的な宣伝と郴捻（やゆ）する向きもあるが全く違う。

アベノミクスでは実質2%「名目3%」の経済成長を目指している。名目3%の成長が続くと約6年で2割の経済成長が見込める。600兆円という数字は実は大風呂敷でもなんでもない。これまでの方針のもと、確実に歩を進めるという力強いメッセージなのだ。

新第2の矢「夢を紡ぐ子育て支援」では、成長戦略と社会保障を結びつけて特に注力したい分野

を挙げている。子育て支援では幼児教育の無償化などで経済的な負担を軽くし、現在1・4程度の

出生率を1・8に回復させる目標だ。これは確かに難しいことではあるが、仕事と子育ての両立て労働参加率を高める効果も期待できる。日本の女性の労働参加率が男性並みになると、GDPが1.5%増えるという試算もある。

新第3の矢「安心につながる社会保障」は、介護離職ゼロを目指している。仕事を続けたいが、介護のためにやむなく離職する人は多い。これは実にもつたない話だ。個人の人生では所得機会を失うし、国民経済の面でも成長機会を逃す。介薩とうまく両立できれば成長戦略にも沿う形になる。こうして見ると、新・三本の矢で言わんとしていることは、これまでの二本の矢で掲げた成長戦略の発展形といえる。

世界の規制緩和のスピードに遅れる日本

旧・三本の矢で掲げた第1の矢の金融政策、第2の矢の財政政策の効果は比較的早く表れる。一方、第3の矢は、産業や企業を筋肉質にして強い経済をつくるのが目標だ。これは時間がかかる。筋トレを始めてもすぐに効果が表れないのと同じだ。第1、2の矢と第3の矢を同じ次元で比べるには無理がある。成長戦略は終わりがない息の長い話なのだ。

とはいっても構えている余裕はない。一例を示そう。私が所長を務める森記念財団の都市戦略研究所（東京・港）はこのほど、世界主要都市の総合力ランクイングをまとめた。東京の順位はロンドン、ニューヨーク、パリに次いで4位。今回が8回目の調査だが、東京は万年4位だ。

個別にみると東京のスコアは悪くない。だが、他の都市のスコアはそれを上回るスピードでよくなっている。1位のロンドンとの差はさらに広が

り、5位のシンガポールとの差も急速に縮まって

TPPは成長力確保の最大で最後のチャンス

投資環境改善を狙つて日本は法人税率を引き下げたが、英国やシンガポール、香港に比べるとまだ見劣りがする。日本は規制緩和を進めていが、世界はそれを上回る速さで改革を進めている。スピード感をもつた取り組みがぜひとも必要だ。

自治体の首長のリーダーシップも求められよう。例えば、国家戦略特区を活用して家事支援のため外国人労働者に門戸を開放する試み。子育てと仕事を両立し、女性の労働参加率を高めるという、新・三本の矢に沿う政策だが、国の積極的な音頭とりに対して地方が尻ごみしているケースもみられる。改革を実のあるものにする努力が大切だ。

貿易だけでなく、労働市場など幅広い分野での改革を促すTPPはいい意味での「ピアプレッシヤー（仲間からの圧力）」になる。外からの圧力がないと既得権益を持つ人たちの考えは変わらな

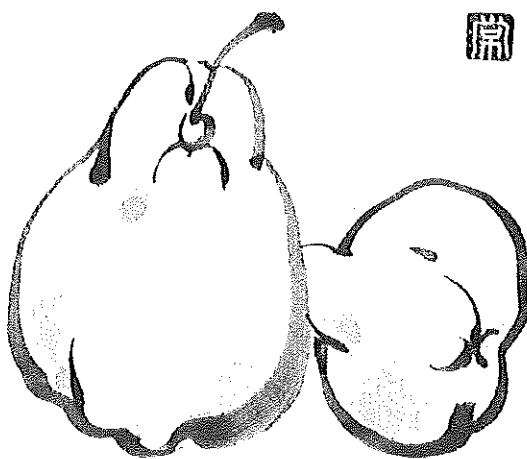
空港や、道路などインフラの運営を民間に委ねる。「コンセッション」は一定の成果を上げている。

仙台空港は運営権売却で企業グループと基本協定を結んだ。今後、他の空港や有料道路、水道などの分野で官業の民間開放が進む。改革の手綱を緩めることなく、加速させていくことが重要だ。やるべきメニューはそろっている。これを形にしていくことで成長戦略が実現する。

このほど大筋合意した環太平洋経済連携協定（TPP）も、将来に向けて間違いなく良い方向にかじを切つたといえる。経済学者の意見は常に百家争鳴だが、自由貿易を評価する点では完全に一致している。

い。TPPをテコに国内改革を進め、長期的な成長力を維持するという視座が重要だ。世界のGDPの4割を占めるTPPに参加したことは、成長力確保に向けた最大で最後のチャンスとなるだろう。

竹中平蔵



作品 関根常雄

東芝問題から何を学ぶ

「仮」も作れなかつた企業統治

日本経済新聞社論説副委員長

水野 裕司

「予算必達！」って強く言つちやいけないんです
か」。企業法務や危機管理で助言する中島茂弁護士は、ある経営者から真面目な顔で聞かれた。東芝の歴代3社長が社内に圧力をかけて利益目標の達成を迫つた問題を受けてだ。

もちろん、「経営者が予算必達を厳しく言うのも利益を重視するのも当たり前のこと」と中島氏。利益の水増しが東芝の決定的な問題なわけだが、議論の混乱もみられると中島氏は心配する。

なぜ歴代トップは目標必達へ過度なプレッシャーをかけたのか。収益力を高く見せなければならない事情でもあつたのだろうか。市場関係者などには疑問もくすぶる。

東芝をめぐつては上司の意向に逆らわない、逆らえない企業風土が問題とも指摘される。権力に従順な日本の企业文化が東芝問題の根にあると海外メディアは発信した。

このように利益の減額訂正が総額2248億円にのぼつた東芝の会計不祥事にはいろいろな見方がある。ただ、はつきりしている点がある。コーポレートガバナンス（企業統治）の仕組みの設計に不備が多々あつたことだ。東芝が新経営体制を発足させる30日の臨時株主総会を前に、この問題を改めて考えたい。

コーポレートガバナンスとは「最高の権力をを持つ経営トップに対し、下から効かせるもの」と会社法に詳しい上村達男・早大教授は言う。トップをけん制するシステムを備え、監督機能を強める

ことで、株式会社は投資家や資本市場の信頼を得られる。

第三者委員会の調査報告によると東芝では、経営トップが社内カンパニーから工事損失引当金の計上の承認を求められた際、これを拒否したり先延ばしの方針を示したりしていた。カンパニーのトップも自ら「不適切」な会計処理を指示していた例があった。

それらを厳しくチェックするのが内部統制システムだが東芝はどうだったか。第三者委報告をよくみてみよう。

まず、本社やカンパニー、関係会社などへの監査を担当する経営監査部。実際の主な仕事は各カンパニーの経営などへの「コンサルタント業務がほとんど」で、会計処理の適否を見る業務は手薄だったとしている。

次に、各カンパニーの経理部や本社財務部。経理部は会計処理が適切かどうかを点検する役割があつた。しかし、引当金の計上が必要な事実を知りながら、何らの行動もとらない場合がみられた。財務部には、「カンパニーの経理部が実態と異なった辻つま合わせの資料を作成して会計監査人に説明することを認識しつつ、それを制止することなく容認」した例があつたという。内部監査部門をカンパニーから独立させて設けてもいなかつた。

「今までだけでも不正を防いで取締役会の監督機能を支える内部統制システムはかなり貧弱だったことがわかる。

取締役会の監督機能も十分に働いていなかつた。受注後に数百億円の損失発生が明らかになつても、取締役会への報告はなかつた。報告事項のルールが不明確だつたと第三者委はみている。

監査委員会も、パソコン部品取引での利益かさ上げで委員の一人が懸念を指摘したにもかかわらず、委員会として審議するなどの対応はとらなかつた。財務・経理に関する監査を担当する常勤監査委員が社内出身者だったことを第三者委は問題

点に挙げる。

東芝は2003年に社外取締役が経営を監視する委員会等設置会社に移行し、企業統治改革の先進企業とされてきた。今回の問題でそのガバナンス体制は、「仏作つて魂入れず」だったと言われる。

実態は内部統制や監督機能を働かせる仕組みがあちこちで脆弱だった。建物でいえば柱の一本一本がしつかり建っていないのに、委員会設置金社の看板を掲げていたようなのだ。企業統治の器づくりが不十分だったことを考えと、「仏」を作れてもいいなつた、といえないだろうか。

東芝問題では担当した新日本監査法人の会計監査が適正だったかという指摘がある。金融庁が監査法人の監督を強化する動きも出ている。ただ資本市場が投資家の信頼を得るには、何より企業自身がしつかりガバナンスを効かせ、信認されるとが先決だ。

これまでに東芝が発表したガバナンス改革の内

容は第三者委報告を受けてのものだけあって、取締役会、監査委員の構成見直しや内部監査の独立性確保のための組織改革など、基本的な点を網羅したメニューになつていて。ほかの企業にとっても「仏」を作る手引になるだろう。

米利上げ見送りの背景

中国バブルに懸念強く
世界需要不足が誘発

慶應義塾大学教授

櫻川 昌哉



米連邦準備理事会（F.R.B.）は9月、利上げを見送った。2008年のリーマン危機後の大規模な量的緩和が奏功し、インフレ率は2%前後で推移する一方、懸案だった失業率も目標とする5%前後に落ち着きつつある。国内条件は整い、7年近くに及ぶゼロ金利政策に終止符を打つ絶好のタイミングであった。

イエレンF.R.B議長は17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）後の会見で、米経済をみる限り利上げは適切としながらも、海外情勢を巡る不確実性の増大を踏まえ、金利据え置きを決めたと述べた。

直接的な原因は、中国リスクに端を発する世界同時株安だ。中国が8月中旬に3日連続の人民元切り下げを実施したことを受け、市場では通貨危機を招くのではないかとの懸念から世界同時株安が起きた。1997年7月にタイがタイバーツの対ドル為替レートの切り下げを実施したことをきっかけに起きたアジア通貨危機をほうふつとさせ

る。

海外の動向がF R B の手足を縛る結果になつたようみえる。本稿では利上げ見送りの背景をもう少し深く探る。

* * * *

まず、浮上しているのが、米国経済は力強さをいまだ回復していないとの説だ。ローレンズ・サマーズ元米財務長官（ハーバード大教授）が問題提起したこと为契机に、米国経済は長期停滞期に入つたのではないかとの議論が起きている。ほぼゼロの政策金利からインフレ率を差し引いた短期実質金利はマイナス2%だ。昨今の2%強の経済成長率個この低金利が支えているにすぎず、むしろマイナスの実質金利は長期停滞の予兆だとの見方が浸透しつつある。

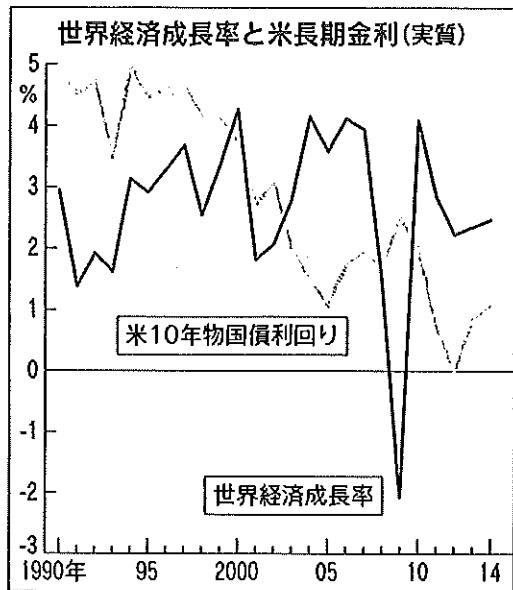
米国は金融危機を経た国の中では成長トレンドの下方シフトの規模は小さい。停滞期に入つたか

どうかの見極めにはもう少し時間が必要だが、長期停滞論が利上げの重荷になつてゐることは事実だ。

次に、F R B が重視した世界経済を巡る懸念の背景には、中国リスクへの厳しい見方がある。図は、世界の経済成長率と米10年物国債の利回りを示したもので、インフレ率を差し引いた実質値で表記している。成長率はおおむね2～4%の範囲に収まっている。一方、世界の長期金利の代理変数である国債利回りは長期的な低落傾向にある。90年代には、金利が成長率を上回つてゐるが、この状況は00年を前後に一変する。21世紀になると実質金利は低下を続け、成長率が金利を上回る時期が増えてくる。主流派のマクロ経済学では、金利は成長率を必ず上回り、バブルはめつたにしか起きないし、ゼロ金利も短期間しか持続せず、財政規律を守らないと国債は暴落するはずである。しかし現実には、バブルは世界で頻発し、ゼロ金利は長期化し、財政規律が緩んでも国債

は暴落していない。

なぜ主流派のマクロ経済学は説明力を失いつつあるのだろうか。有力な説の一つは、過剰貯蓄がもたらした世界的規模での需要不足だ。そして需要不足を生み出しているのが想定外の2つの要素だ。



まず、アジア通貨危機の影響を挙げることがで
きる。90年代のタイ、インドネシア、韓国など
のアジア諸国は、海外からの資本流入により経
済発展を進める典型的なキヤッチャップ型経済であ
った。ところが、海外金融機関の一斉の資金引き
揚げにより、アジア経済は一瞬にして沈んだ。危
機から学んだアジア諸国は、海外からの借り入れ
を抑制して、輸出主導型の成長を目指すようにな
る。

00年代になると、先進国は全体として經常收
支赤字国になり、成長率の高い新興国が黒字国に
なるという状況となる。行き過ぎた金融のグロー
バル化は、短期的な資本移動を活発化して、株式
相場や外国為替相場の乱高下を引き起こして、新
興国経済に負荷を与えることになる。そして金融
発展の抑圧と安全資産への逃避を促し、新興諸国
への投資の停滞と世界的な金利の下落をもたらす。
2つ目の要素が、これらの新興国の中で象徴的
な存在ともいえる中国の台頭である。市場経済と

はいいがたい中国は、50%を超える異常ともいえる高い貯蓄率を背景に、脆弱な金融システムを引きずりながら、急速な経済成長と經常収支黒字を実現してきた。14年の段階で、国内総生産(GDP)の世界シェアは14%に近づいており、中国が成長すればするほど、世界の需要不足は拡大するというゆがんだ構図になつてている。

世界的な需要不足を埋め合わせるようにして頻発しているのが資産バブルだ。過剰な貯蓄により生み出された資金が、株式市場や住宅市場に流れ込む。金利が成長率を下回るので、金融機関はレバレッジ（過剰負債）を高めて資産を購入するため、市場は過熱してバブルが生まれやすい。

アジア通貨危機により還流した資金で、まず米国の株式市場でITバブルが起き、その後住宅価格が高騰する。リーマン危機で欧米のバブルが崩壊すると、ゼロ金利で米国から流出した資金が新興国に流れ、バブルが起きる。そしてリーマン危機以降の世界経済をけん引したのが中国バブルに

支えられた好景気だ。こうした構図が、低成長下の世界的な株高を生み出した。

中国リスクの行方は予断を許さない。アジア通貨危機にみるよう、小国はバブル崩壊から金融危機へと一気に進む傾向があるが、大国は危機の発生までにタイムラグがある。日本では不動産バブル崩壊から金融危機の発生までに5年、米国では住宅バブル崩壊からリーマン危機までに1年半を要している。対外資産の豊富な大国の中でもまた、不動産バブルの崩壊から金融危機へと事態は急変するリスクを依然として抱えている。

今回の株価暴落に対して、中国政府は付け焼き刃的な株式市場改革や財政金融政策で対処しようとしている。しかし、機関投資家の空売り禁止、国有企业の配当の強制的な引き上げなどの措置は、市場から理解を得られていない。また、さらなる元切り下げは資本逃避ひいては通貨危機を誘発する恐れがあるため、もはや政策手段の切り札としては使えないであろう。

過剰資本の調整、不良債権処理、為替制度改革などの構造調整が望まれるが、経済効率性を重視したこれらの政策を地道に進めるだけの政治力があるだろうか。金融システムが脆弱な中国が、自らの危機を適切にコントロールできると考へるのは楽観的すぎるかも知れない。

* * * *

さくらがわ・まさや 59年生まれ。大阪大博士（経済学）。専門は金融論、マクロ経済
げを目指すことにならうが、その規模は小幅にとどまると予想される。需要不足の世界経済の中で、ゼロ金利が低成長下の株高と好景気を支えるという構図はそう簡単には変わらないだろう。金利正常化をめざす中央銀行が想定するほど現実の経済は強くない。たとえ利上げに転じても、F.R.B.が持続的な利上げができる環境ではないことは明らかである。

世界の経済成長率は、新興国の失速や欧州の停滞を受け2%台とすでに低い水準にある。もし中国に金融危機が発生したら、新興国のみならず先進国も甚大な影響を被り、世界の経済成長率は1%台に失速するであろう。米国が利上げを踏みとどまつたのは、中国リスクがもたらす最悪のシナリオを避けるためだ。金融政策の判断で、米国が国内要因よりも海外要因を重視するのは異例ともいえる。

中国リスクが落ち着けば、F.R.B.は早々に利上

一月四日、戈

TPP大筋合意後の課題

日本、早期発効へ批准急げ

東京大学教授

中川 淳司

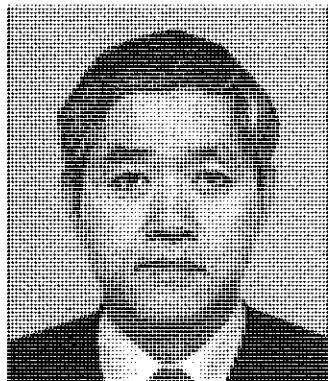
環太平洋経済連携協定（TPP）交渉に参加する12カ国は今月5日、大筋合意に達した。2010年3月の交渉開始から5年半、日本の参加を起点としても2年余りに及んだ交渉は実質的に妥結した。

交渉参加国は現在、条文の精査などの技術的な作業を進めている。来年1月にも交渉参加12カ国は協定本文と付属書に署名する見込みだ。世界の国内総生産（GDP）の約4割を占める人口8億人の巨大な自由貿易圏が実現に向けて大きな一步を踏み出した。

TPP大筋合意の意義は何か。大筋合意を受けた日本は今後いかなる政策対応をとるべきか。本稿では、通商政策と国内対策に分けて対応のポイントを整理したい。

* * *

検討の出発点として、TPPの歴史的な文脈を確認しておこう。先進国と新興国の対立などが原因で、01年に始まった世界貿易機関（WTO）



の多角的通商交渉（ドーア・ラウンド）は長期間停滞し、いまだに妥結のめどが立っていない。代わって先進国はTPPをはじめとする広域自由貿易協定（FTA）交渉に通商政策の軸足を移してきた。

その背景にあるのは特に1990年代以降、サプライチェーン（供給網）のグローバル化が急速に進んだことだ。世界的に展開される事業活動を円滑に進めるため、関税などの国境障壁の削減だけでなく、通関手続きの簡素化（貿易円滑化）、サービス貿易や投資の自由化・円滑化、さらには規制・制度の国際的調和や透明性・予測可能性の向上を含む広範囲な規制・制度環境の整備が求められている。

機動性を欠くWTOに代わり広域FTAがその役割を果たすことが期待されている。交渉参加国は高水準の貿易・投資の自由化と広範囲で高水準の貿易・投資ルールを盛り込み、TPPを「21世紀の通商協定のモデル」とすることを目指して

きた。大筋合意と同時に公表された詳細な合意の概要を見る限り、この目標はおおむね達成されたと評価できる（表参照）。交渉中の他の広域FTAの交渉にも弾みがつくことが期待される。

TPPの主な合意内容

供給網グローバル化の促進策	対応するTPPの章
関税引き下げ	物品の市場アクセス、繊維及び繊維製品
貿易円滑化	原産地規則及び原産地手続、税関当局及び貿易円滑化、透明性及び腐敗行為の防止
非関税障壁の撤廃	衛生植物検疫（SPS）措置、貿易の技術的障害（TBT）、国有企業及び指定独占企業、競争力及びビジネスの円滑化、規制の整合性
投資の自由化・円滑化	投資、競争力及びビジネスの円滑化、規制の整合性
許認可の迅速化・透明性向上	政府調達、透明性及び腐敗行為の防止
人的資源開発	国境を越えるサービスの貿易（教育サービス、職業訓練サービスなど）、協力及び能力開発
法制・経済制度の調和	電子商取引、投資、環境、労働、知的財産、競争政策、国有企業及び指定独占企業

大筋合意でTPPが直ちに発効するわけではない。最終合憲・署名後に各国が協定を批准するための国内手続きを完了し、必要な数の批准がなされて初めて発効する。

協定の最終条項は発効にいくつかのケースを想定している。署名から2年以内に全交渉参加国が批准した場合、最後の国の批准から60日後に発効する。この条件が満たされない場合、原則として、域内GDP（13年）で85%を超える6カ国が批准すれば発効する。米国（域内GDP比60・4%）と日本（同17・7%）のどちらかが欠ければ、「85%超」という発効条件が満たされない。発効には日米両国の批准が絶対条件となる。

* * *

大筋合意を受けて今後日本が取り組むべき通商政策の課題は2つある。一つはTPPの早期発効の実現だ。日本はTPPの合憲内容に沿った国内

法の改正など必要な国内手続きを進め、協定署名後できるだけ速やかに国会承認と批准の手続きを済ませる必要がある。日本が早期にTPPを批准すれば、米オバマ政権にとって議会に早期批准をアピールする強い追い風になる。

もう一つはTPP大筋合意をテコとして、日本が進めていた他の3つの広域FTA、すなわち、EU連合（EU）との経済連携協定（EPA）、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）、日中韓FTAの交渉を加速させることだ。

大筋合意したTPPの内容は他の広域FTAの交渉でも参照される可能性が高い。現にEUは米国との環大西洋貿易投資協定（TTIP）の交渉で、TPPが盛り込んだ国有企業を規制する規定や分野横断的な規制の整合性に類似の規定を提案している。他の広域FTAでTPPが参考・採用されれば、TPPを軸として広域FTAの内容が収れんし、事実上の世界標準が形成される可能性が出てくる。

このシナリオが実現する鍵を握るのは日本だ。主要先進国の中でも日本だけが有力な新興国である

中国、インドと広域FTA（RCEP）を交渉しているからである。RCEP交渉の経緯をみると限り、中国やインドがTPPルールを参考し、その採用に直ちに同意することは期待できない。しかし、日本はTPPルールの採用が供給網のグローバル化にふさわしい規制・制度環境の整備につながり、両国の持続的な経済成長に必要不可欠なことを丁寧に説明し、粘り強く説得すべきだ。

を約束することで他の交渉参加国の合意を取り付けた。

重要5品目以外の農林水産物についても新たに関税の撤廃を約束した。即時ないし段階的に関税を撤廃する農林水産物の品目は81%にのぼる。

工業製品を含めた全品目でみれば95%という自由化率は、日本がこれまで結んだEPAの中で最高だ。農林水産物の輸入が拡大し国内価格が引き下げられれば、消費者には朗報となる。他方で、国内生産者にとっては輸入競争の激化による悪影響が懸念される。

発効の時期には不確定な要素が残るもの、大筋合意でTPPの内容は確定した。それを踏まえた国内対策を早急に立てる必要がある。日本は交渉で重要5品目（コメ、麦、砂糖類、牛・豚肉、乳製品）について現行の輸入制限の大枠は維持しながら、無税の輸入枠の関税や関税率の引き下げ

* * * *

今月9日、政府はTPP総合対策本部を設置し、国内対策の基本方針を決めた。基本方針の別紙「農林水産分野に係る基本方針」は、農林水産業の体质強化を対策の筆頭に掲げるとともに、重要5品目にに関する追加的措置を盛り込んだ。コメについては輸入米を国家備蓄に回して国内の主食用米の生産への影響を食い止める。麦と砂糖類については国産品の安定供給を図るための環境整備を進め

る。牛・豚肉と乳製品については国内生産者の經營の継続・発展のための環境整備を進める。

総じて国内生産者を輸入競争から保護する守りの姿勢が目立つが、守りに徹するだけでは将来の展望は開けない。TPPを農林水産業の構造改革の好機ととらえ、輸出市場の拡大機会を最大限に活用する攻めの農林水産政策を開拓する必要がある。農林水産業の構造改革のために打つべき手は、安倍政権が13年12月に策定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」などの政策文書に示されている。

TPPが農林水産物の輸出拡大に積極的に活用できる」とを確認しておきたい。一つは地理的表示の括用だ。「シャンパン」や「バルメザンチーズ」など、商品の特性がその原産地と密接に関連している商品の名称を地理的表示として保護する仕組みである。

TPPの知的財産の章では地理的表示の保護を広範囲に認めた。日本もこれを見越して6月に地

理的表示法を施行している。「夕張メロン」「魚沼産コシヒカリ」「津軽りんご」などの地理的表示を保護して產品のブランド力を高め、輸出市場の拡大と輸出増につなげることが期待できる。

科学的な裏付けなしに日本の農林水産物の輸入を制限している国に、措置の撤廃を求めて働きかけることも重要である。TPPの衛生植物検疫（SPS）措置の章ではそのために、輸出国が輸入国と協議する手続きを設けた。TPPは安全・安心な日本の農林水産品を輸出市場で積極的に売り込んでいくうえで有効な政策手段となる。

なかがわ・じゅんじ55年生まれ。東京大卒、同大法学博士。専門は、国際経済法

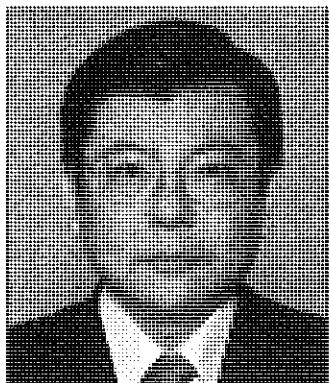
中　一　吉　二

前回に続く

講演会記録

NHK解説委員

加藤 青延



問題なのは、東南アジアとか中東とかいう辺りです。この辺りでADBに参加していないのに、AIBに入った国はどういう得があるのかといふことで見ると、サウジアラビアは非常に大きい存在なのです。サウジアラビアがなぜ中国のAIBに参加することを言つたのか。これがもう一つの、世界の動きの中で注目すべき点ではないかと思つております。と言いますのは、石油は今安くなりました。どうしてこんな安くなつたのかといふことです。石油は元々は一バレル一ドルだったのです。それが石油ショックのあと暴騰し、どんどん高くなりました。アメリカにとつては中東は非常に重要な、関与すべき地域であります。そのたびにイラク戦争を起こしたり、湾岸戦争もありました。ところが、アメリカにシェールガスが出来て、だいぶ中東に対する見方を変えてしまつたのです。自分たちが産油国だということです。だったら、そこまで中東を重視することはないということになりました。

アメリカの今までの中東の要といいますと、イラン革命が起きた後というのは、一つはイスラエルです。そして、もう一つがアラブの代表としてサウジアラビアです。この二つをしつかり押されておいて、そしてイランに対抗する、こういう構造であつたわけです。

しかし石油が大したことないということになつて、もう自分たちでとれる、最近はイランも近づいてきたし、今はかつてのような対抗策をとつていません。むしろアメリカがだいぶイランに近づいてきているというような、アメリカの中東政策の変化に非常にサウジアラビアは敏感になつています。ですからアメリカがシェールガスをやることに対して大変な反発をいたしております。シェールガス漬しにかかってきています。

そして石油価格がこんなに安くなつても、なお増産するわけです。普通だつたら安くなつたら少し減産して価格を上げるように持つていったほうがいいのですが、そうではありません。シェール

ガスのコストを考えたときに、安くして潰してやるという構造に今はなつています。

つまり、本来はアメリカの盟友であり、一番重視されるべきサウジアラビアが、今、反米になりました。はつきり言いますと、中国がそれを狙つていき、うまく抱き込んだからです。逆に言うと、サウジアラビアがアメリカを牽制し出したということでしょう。そういう形になつているのです。

A I I B の今回流れを見ますと、いろんなところで今までアメリカがさんざんやつてきたといいますが、ちゃんとした「ブレトン・ウッズ体制」を維持してくれたら、そりやなかつたのですが、ニクソン・ショック以降、アメリカだけが結構得しているという体制に対して、いろんなところから石油でも金でもそうですが、反発があるのです。そこにもうまく中国が入つてきました。これを構造的に見ておいたほうが意味が深くなると思います。

しかしそうは言つても、それでは日本はどうす

ればいいのですかということあります。

私が一番申し上げたいのは、今、世の中が冷戦期と全く違う構造で動き始めているということです。これは言わずもがなことです、冷戦期のころは、政治体制、安全保障の体制、経済体制が完全にブロック化されていました。そして、あとは第三世界があるのですが、これが全然だめでした。つまり、ソビエトを中心とした東側、アメリカを中心とした西側が、一つのブロック化されているのです。その中でやりたい放題ですが、お互いに経済では余り交流しないから、ねじれが起ころなかつたのです。

ところがソビエトが崩壊して、冷戦が終わりました。ちょうど終わつたころに、ソビエトの崩壊と中国の台頭がほぼ逆転する形でできたのです。中国の本格的な台頭というものが、一九九〇年代以降、大きな発展をしてくる中で、中国はロシアの歴史的な状況の変化を見てきました。ソビエトの崩壊を見ていて、政治的なものは維持しながら

ら、経済でどうすればいいかということで、経済で自分たちを攻めてくる軍事圧力を抑止する政策というのが、すごいねじれの構造をつくつてしまつたということだと思います。最近では米中戦略・経済対話というのが開かれまして、これを見ていますと、これは毎年やつているのですが、アメリカと中国というのは毎年毎年、ワシントンが北京に行つたり、北京がワシントンに行つたような、すごい大移動が起つてゐるのです。ことしは物すごい数の、四百人ですか、閣僚と官僚を含めて四百人、北京からだーつとアメリカに行つてしまつたのです。そのほかにも、それに関連した経済界の代表も行つてしまつます。前の年もそうですが、ワシントンから閣僚が多く役人を連れてどんどん北京に行つてしまつて、そこで物すごい待遇を受けていました。

この戦略・経済対話というのは、何でそんなことになつたかというと、もともとは経済だけでいた。安全保障というのはまた別でやつていたので

す。次官級がやつていたのです。それをくつつけてしまつたのです。米中というの、安全保障も経済も併せて話をしなかつたら話が合いません。一緒にやらなければだめなのです。テーブルは別ですが、ともかく一緒にやつて一緒に決めていかないと、ねじれてしまつて、どうにもならないということで、「ワシントンの丸」と「北京の丸」とでやつているのです。最近は安全保障も含め、外交安全保障、それから経済を含めて、一度に対話をやるということをやるわけです。

ですから私たちも、これから先に安全保障と経済をどうやって総合的に考えていかなければいけないのか。このねじれの中で中国とは、安全保障上対立しているから、経済的にも対立すべきだと、あるいは経済的に仲よくしなくちゃいけないから、安全保障上も仲よくしなくちゃいけないとか、そういう運動ではなくて、安全保障上、ねじれても経済的にはうまく引き出していくかなくちゃいけないと思うのです。そういう形の総合戦略とい

うのをやらないとうまくいかなくなつてしまいます。アメリカと中国の間で、今回もそうですが二百項目以上の合意を得ました。特に、環境問題とか温暖化とか、あるいは空軍のお互いの飛行機同士の連絡と衝突を回避するシステムをつくるとか、いろいろなことで合意をしたということを発表しておりますが、米中もだいぶぎくしやくしながらも、ねじれの中で握るところを模索しているという状況です。

中国がそのとき最大の武器にしているのは、やはり経済です。中国が、最近、銀行に対しても改革をやつたのです。

これは私も驚くべきことですが、一つは貸出し規制の撤廃です。中国の中にある銀行では、今まで自分たちが預金として集めてきたお金の預金残高の七五%を超えては貸しつけてはいけませんよ、ということをやつてきたわけです。中国の銀行にしてみれば預金はたくさんありますから、それでもよかつたのです。ところが、アメリカの

銀行が中国に行つて何かしようと思つたら、預金なんかないですから、あつても少ないものです。貸せるお金が少ないわけです。これを撤廃されると突然貸せる金がふえるわけです。そういうことをやりました。

最近、さらにもう一つ、中国で100%民間出資の銀行をつくつてもいいですよと言つたのです。これは、アメリカの大金融界は、まさにハゲタカのことく狙つてているところです。TPPでもだいぶ日本の郵貯が狙われました。保険も狙われました。しかし今、目の前にもつとおいしい肉がぶら下がつたのです。日本の郵貯もすごいですが、あつちにはもつとたくさん預金があります。保険はまだほとんどないがことく、あそこに行つて保険をやつたらやりたい放題かもしません。

アメリカにとつてはおいしいものが見えてくると、さすがに南シナ海でぶつかりそうでも、じやあ、自衛隊やつてよ、俺たちやらないがらとか、そなつたり、できるだけ中国とはぶつからないようにしようとか、こうした状況になつてくるでしょう。中国が変な軍事拡張をやつたり、サイバー攻撃を仕掛けても、文句は言うけれども、だからと言つて決定的に経済政策をやるとか、そういうことはしないはずです。むしろ、握れることころは握るという手に出できます。こういうことになつてしまふのです。これは中国の思つづばかもしれません。ですから、ある意味では大変なのです。そのしわ寄せをもし日本が食らうとすると、一番大変です。アメリカと中国が仲よくなつて、けんかをする部分は日本にお任せとか何とかといふことになると、中国が軍事力を強調していきます。そうした時に自衛隊はもつと頑張つてください、フィリピンも行つてください、場合によつては韓国も行つてくださいと。アメリカ軍はもし必要であれば、自衛隊が壊滅したころにやつてきて助けてあげますなんていうことになつたら困るわけです。しかし、そういうふうにならないとも言えません。今、中国はそれを狙つています。アメリカ

は強いことを言つてゐるけれども、結局やりたがらないと、そういう状況になつてゐます。ですから、さつきはアメリカに対抗して、ヨーロッパをうまく引きこんだみたいな話をしました。その一方で、アメリカに対してもニンジンをぶら下げる手なずけようとしている、これが中国のやり方です。

最初に申し上げました。中国というのは日本の十倍、十倍の人がいるということは、賢い人も十倍いるということなのです。これは本当に悩ましいことではございません。知能指数で高い人もいるのです。もちろん、物すごくできの悪い人もいるのです。十倍いるということの怖さということが……。例えば、日本に中国人がよく来て悪いことをやります。カードを偽造したり何とかしている。ああいう知恵を持つてゐる中国人というものは、悪い人でも飛び切り悪いのがいるわけです。たくさんいるから、そういう飛び切り悪いのが出てくるのです。もっとだめな泥棒とかいるけれども、そ

れは日本へ来ないのです。賢い泥棒が來るのです。そういう数が多いということの中には、それだけ優秀なものがいる。優秀なものが自分たちの国のためにいろんな戦略とか権謀術数、孫子の兵法の国ですから、いろんな権謀術数を働いて、世界中の国に対してもいろんな仕掛けをしてくるときに、どうやって立ち向かうか。単純なやり方では立ち向かえないのです。ともかく私たちからしてみると、孫子の兵法に戻りますが、「彼を知り己を知れば百戦して殆うからず」です。相手、敵を知ります。ともかく、何を考えるのにもわからなくてはいけません。そしてこっち側の立場も、どう出れば相手がどう出てくるかわからないのです。

一番まずいのは、相手が何をするかわからない、こつちがどうしたらいいかもわからない。それが一番まずいのです。ですから、こういうふうにしたら相手がどう出てくるか、相手がどう出てきたらこつちはどう出るか、これをある意味ではしつかりと戦略的に練つて、それも安全保障だけでは

なくて、経済の分野も含めて総合的な対中国戦略というものをしてかりと持たないと、行き当たりばつたりでは太刀打ちできません。やられたら怒るとか、そういうことだととてもやつていけないのです。これがこれからまさに日中関係の未来志向、これからの中日関係に必要なことになるであります。どういうのが、私の持論でございます。

大体時間もまいました。A-I-Bからだいぶ離れてしましましたが、お話を申し上げました。あとはまた御質問いただいて、答えさせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

○佐々木氏 突然の御指名で、サウジアラビアと中国の関係、サウジアラビアとアメリカの関係、そして、サウジアラビアと日本、その他の関係といろいろ切り分けることができるのかもしませんが、こと、オイルとかガスに関することについては、先般来でもお話ししたことでございますが、サウジにとってアメリカの存在は何だったのかな

と。シェールガス革命があり、シェールガスによってOPECを中心とする、その石油価格の体系が大きく崩れるという、これについてはサウジは大きな危惧を抱いたことは事実です。

それと同時に、経済原則に基いてオイルガスが下がってきました。これは、シェールガス、シェール石油がどんどんアメリカを中心にして投資をし、そしてどんどん開発がされました。そうすると、このままだと自分たちのOPEC再生というのが大きく崩れてしまう。この危機感は盟主としてのサウジは持ったはずです。

したがって、どこかでくさびを打ちたい。どんどん下がっていくことについて、もつと下げていよいよということだったと思います。OPECのほかの弱小の産油国は、とにかく価格をキープするために、何とかサウジを中心として減産をしようではないかと。これに対してサウジはノーと言つたわけです。自分たちの産油量はキープするよと。したがって、世界が、これはオイルが余つてく

るねと判断したにでしよう。一遍に価格が下がつて、一時二十ドル台まで下がつたという現象になつたと思います。そのときに、サウジは、当然のことながら、「いいよ、二十ドルでも自分はそれでもやつていけるよ」と言つたわけで、こうなると、さすがの新しいシェールオイルのコストというのがどこにあるのかということになります。

こういうことになると、そんなに安くなつたら開発もできないねということになつて、日本も、

大手商社、あるいは、石油業界が、ぞつてシェールに参画したわけですが、この一年間で大きくマナス、損失をこうむつてリタイアしていくたどいう構図だらうと思います。

ではサウジはどうなんだと、じつとしていればいつかまた上がつてくるよと。これは、当然彼らの狙いでしよう。しかも思惑どおり、今や五十ドルから六十ドルになりつつある。世界は大体七、八十ドルで油が安定すれば、経済的にも全てが丸くおさまると、こういふふうに思つてゐる

でしよう。ただしサウジにしてみると、アメリカが仕掛けたら、これはいつまでもういうふうになるかわからないから、やっぱりアメリカ一辺倒に頼ることとは少し考えないといけないなど。したがつて将来は、中国や何かがどんどん大きくなつてくると、将来の米中の構図がどうなるか。やっぱり、少しこちらのほうにも手をかけておこうと、こういうことでAIIIBに参画を申し出たのでしよう。

アメリカにちょっと刺激的に対応したといふことでしようけれども、今までのサウジとのつき合いの中で、サウジは基本的には中国は嫌いなのです。中国の、ああいう共産一党体制のところと相入れるとは全然彼らは思つてません。したがつて、心底からつき合つう」とはないだらうと思ひますが、これは生きるすべで、お互いに切磋琢磨、どういう方向に持つていくかということなのだらうけれども、心中するつもりはないと思ひます。やっぱりサウジはアメリカ、あるいは、欧米とのつき合

い、そして基本的には日本のほうがサウジは好きなのですが、経済原則からいくと、これからは日本はボシャつていくだろうし、彼らから見ると中國がどんどん台頭していく。日本は余り頼りにならない、中国ともっとともっと手を携えていかなきやいけないな、という現状ではないかと思つています。

恐れ入ります、谷口コーポレーションの谷口様、乾杯の御発声をよろしくお願いいたします。

○谷口氏 僕越ではございますが、御指名いたしましたので、乾杯の音頭をとらせていただきます。きょうは、加藤先生、いろいろと貴重なお話をありがとうございました。何か世界の裏がちよつとわかるようになつきました。中国の動きもだいぶわかつてきましたよな気がします。あと、エジプトとの関係も、もう少し裏を教えていただければ。これも大きな話だらうと思うのですが。日本はこの先どのようになつていくのか、ヨーロッパもどういうふうになつていくのか、これから

がちょっと難しいところじゃないかなと私は思います。それでは乾杯したいと思います。

○佐々木氏 せつかくの機会ですので、きょうぜひお伺いしたいなと思うことが一点ございます。これはA—IIBについてですが、A—IIBの将来というか、日本の立場というか、その辺についてきょう明確なお話がなかつたように伺います。

私がすぐ感じることは、日本はA—IIBには透明性が欠けているとか、いろいろな話をされて、参加しませんが、これは、アメリカの意向に沿つて一緒になつて参加しないという方針を、今のこところとつてているということと思うのです。

日本のプレスとかメディアが盛んに報じているA—IIBに対する日本側のスタンスということを、世界では余り報じられていません。世界ではA—IIBに日本が参加するか参加しないかというの大した話じやないと、このように見受けられます。アメリカが参加しないということに対しても、大

きな課題として各国で報じているようです。

一方、日本に対する目は、どうせ日本はアメリカと一緒になるのだろうと。アメリカが右と言えば右に行くんだ、左と言つたら左に行くのではないの。したがつて、日本は余り相手にしてないとこんなふうに思うのですが、思い過ぎでしようか。○加藤氏　ありがとうございました。お答えいたしました。

先ほど、AIBの将来、透明性の問題、それから、日本がかかわるべきかどうかについては余りお話ししなかつたので、今度はその辺についてお話を申し上げようと思います。

まず、日本がかかわるかどうかというのは、AIBにとつては非常に重要な、大きな要素になると思います。といいますのは、現在の加盟国を見ますと、特に、理事国になるような国をみると、中国、ロシア、インド、こうした国ばかりです。こういう国でつくる銀行って、格付で言つて、どんなによくてもAAです。もらえないかもしね

ません。それだけ格付が低いと、どこから金を持つて、ようにも高い利子で調達しなければならない。貸しつけるのもだいぶ、サブプライムローンじゃありませんが、厄介な、リスクーな融資がふえるのではないか。むしろ、日本が入ることによって格付が上がる。日本が入れば、恐らくAIBもAAAがもらえるのではないかという評価もあります。そういう評価を国際社会ではしていると思つております。

ですから中国は、今、のらりくらり日本がやっていることに対しても絶対に不平を言わないのです。ともかく日本が入ることを歓迎する。その一言しか言ひません。世界じゅうもしかしたら日本は入るかもしれないねと思つています。一番問題のは、AIBの透明性の問題でござります。中国の出資比率が二五%を超えて、三〇%近くございまして、これによつて彼らは、中国は拒否権を握つたという言い方をよくしています。

ですから、中国が自分たちに都合のいい案件以

外は全部断れる。言つてみれば、中国の勢力拡大に役立つものにはどんどん金は払うけれども、そういうものは使わないじゃないか。ですから、そういう意味で、中国が牛耳る、全く不透明な銀行であるという評価がござります。ただ、そこに日本が加わるとがらつと変わるのです。なぜかといいますと、日本がそこに出資する場合に、大体GDPの割合が何かで決めて加わりますと、中国の一五%という出資比率が希釈されて消えるのです。つまり、中国に拒否権がなくなる。ですから、日本が加わることによって、恐らくA I I Bといふのは透明性はより増すと思ひます。

ただ、中国がロシアやインドと結託すれば、三分の一でも四分の一でもどつてしまふでしょうから、そうなつた場合はもちろん日本は言うことを聞かなくちゃならないかもしれません。しかし少なくとも、中国一国の独占状態は崩れます。ですから、そういう意味での日本の参加というのは国際的にも期待はされています。

ただ、逆に言うと、日本側はそれをやつて何の得があるのかというところがござります。A I I Bを透明にするために、あるいは格付を上げるために日本がお金を払うというのではばかみたいな話で、日本のためにならなきや得になりませんので、参加すべきかどうかというのはまた別問題となるでしよう。ただ、日本が入ることによつてA I I Bは格付が上がる、透明性も上がる、中国の拒否権も崩れるという可能性があるということは、大きな意味を持つということだと考えております。実は、アメリカはそういうことも望んでいるかもしれないのです。ただアメリカ自身は、A I I Bに加わるよりも、まずTPPだと。それから、中国との間では投資協定というのをどんどん進めしておりまして、さつき申し上げたように、アメリカは独自で中国市场を開拓しようと。中国の周辺のインフラを開拓するよりは、アメリカは中国自身を開拓したいと、中国の市場を独占したい、むしろそつちに目があります。

ですから中国の周りの、例えばカザフスタンとか中央アジアとか、そういうところで、インフラ投資まで手を貸さなくて、私たちが一番欲しいのは中国市場だよという感じじゃないかと思います。ですから、アメリカもその辺は決して A I I B に対して否定的な態度をとりませんで、A I I B は頑張ってくださいと。アメリカを中心としております IMF、世銀も大いに一緒に協力してやつていきますという立場をとつております。

また、日本のアジア開発銀行も同じでございま

して、A I I B をライバル視するのではなくて、むしろ協力してやっていこうという言い方をしておりまして、ある意味では今後に含みを残していく、中国側も来てちょうどいいという状況が続いております。なぜそうかといいますと、実は A I I B をもつてしても A D B をもつてしまも、アジアの巨大なインフラ需要というものはとても賄い切れないのであります。これはアジア開発銀行が試算した数字でございますが、二〇一〇年から

二〇一〇年ぐらいの間にアジアに必要なインフラの投資額というのは、大体八兆ドルと言われております。それだけたくさんの需要があります。でも、A I I B は、所詮今の出資金で千億ドルですから、とてもとも、まだまだ……。A I I B が逆立ちしても A D B と一緒に何をやつても、それに余りあるほどの需要があります。問題は、それがちゃんと資金を回収できるような問題なのかどうかということになりますから、当然リスクも考えなくてはいけません。

A I I B が登場したことでの意味でいい刺激になりました。ADB(アジア開発銀行)のほうも、今まで敷居が高過ぎたから、もっといろんなところで積極的に投資ができるように少し敷居を下げましようよと、ADB改革というものを進めております。

また、IMFも IMF 改革というのをやって、中国が余り発言権がなかつたものですから、これで怒っていたのです。これはアメリカ議会が

承認しないのですから、中国は相変わらず発言権が少ないので。これもやつぱり変えていく、という動きにつながっていくだろうとおもいます。私は、そういう刺激の意味ではそういう意味がありますし、アスリカや日本が入らなくても、お互いに切磋琢磨することによくなっていくのだろうなど思っています。

ひとところ A-I-B というのは、消費者金融みたいな銀行だとか言われたりしましたが、そういうことではなくて、高い金利をとつて、それでもしかしたら破綻するかもしれないようなどころに貸したりとか、そういうことではないだろうと。やはりそれなりの審査をして、そしてまた、中国はあり余るほどの外貨準備がありますから、どこかでやるでしょうし、中国自身がもし独占して何かやりたいと思へば、A-I-B でなくて、先ほど申し上げたようなシルクロード基金というので自分たちで直にやります。よその国に何も言われないでやれるようなシステムでやります。そういうと

ころでやつてくるでしょうと、いうことで、A-I-B にはもう少し透明性のあるような役割を期待してもいいのかなと考えております。お答えになつたかどうか、将来でも、申しわけないですが、2 年後、3 年後、期待したようなすばらしい銀行になつているのか、それとも、やっぱりあちこちで変なばかりやって、焦げ付きばかりとなるのか、これは A-I-B が実際にどう動くか見てみないとわかりません。ただ、常任理事国が、ロシア、インド、中国という状況ですと、ちょっと私も心配でございます。

○加藤氏 実は、中国があそこで港の建設とコンテナヤードを請け負つていたら、緊縮財政のあおりを食つてとまつちやつたのです。

それで、もしヨーロッパがこれでへそを曲げて支援をしなくなつてしまふと、いよいよ困つたときは中止で出していくということがありまして、そのようなことになつたときに、これは大変なこと

なのですが、A-I-Bの最初の案件があそこにあるのじやないかという、そんな話がちょっと漏れ伝わってきています。それはさすがにまずいだろう。これだけ世界中が大騒ぎして、IMFも延滞ですから、事実上デフォルトしちゃって、まさにEUのほうからも絶縁状を突きつけられているようなどころに貸しつけるなどというのは、相当な覚悟がなければできないので、まさに看板をけがしてしまったかもしませんが。何か中口が結託してそういうことをやつたりすると、A-I-Bの看板は傷つくかもしれません。でも、そうなるのじやないかといううわさも聞いております。

会の主催で経済使節団を構成して、いち早く北京に行つたことがあります。田中角栄さんが日中國交正常化を達成した、たしか三年後ぐらいになります。四十一名のデリゲーションを組んで、幸いにして北京に着きまして、それで、国際貿易

中央委員会といふところの大会堂で歓迎式典に臨みまして、そのときに王揚底庭という副主席が出てきました。まだ貿易も盛んでないところですから、我々が行つたときに、向こうの高官から、日中合弁企業をつくりたいという気持ちでいるので、日本的企业の皆さんからぜひ力を貸してほしいといふ申し出がありました。今から三十二、三十年前になります。当時の中国の人口が九億七千万と記憶しております。そういうふうに教え込まれてきたものですから、今、十三億、たつた三十年余の間で二億もの人口が爆発的にふえたということになるのでしょうか、統計がどの程度の信憑性があるかわかりません。

そういうような状況で、一人っ子政策を中国がとつております。日本は逆に、そういう政策はどちらくとも人口減少に拍車がかかっています。ますます国力の差がついてくるのじやないかなど。先生が先ほどおつしやられたように、十三億という人口は、もしかするとそれ以上の人口の中国は、

日本の人口の十何倍にもなるわけです。将来ますます格差が開いてくる可能性があるということ。

それから、未開発地域がまだたくさん中国にあるわけです。非解放地域というのが当時ありますて、まだ古い時代のしきたりを尊重して、古い生活様式で暮らしているという部落があります。このところは公開されてないので、非解放地域と言つて、観光客、いわゆる私どものような、目的を抱えていった団体でも視察はできなかつたと、そういうつた状況がありました。

安井謙さんがそのとき参議院議長をやつておつて、私どもの会の顧問をしていましたので、その親書を携えて行つたところ、大変喜ばれまして、田中角栄さんが来た後、これだけの経済親睦団体が来てくれたということで大歓迎を受けたのですが、その後、たしか昭和経済会でも二、三の企業が中国と合弁企業をやりましたが、潰れてしまつたのです。というのは、中国の商慣習は、そのときは素朴で、落としたものは必ず届けられるとい

う、好ましい良俗があつたくらいですが、今は逆に、他国を侵略するのを全然顧みず、狼藉をつくしているというような風評ですが、こういつた中国のA-I-I-Bと一緒に一方的な力の関係を誇示するような、こういう「二面外交」というのがどんなものなのかなど、どこまで維持されていくもののかなというような懸念がなきにしもあらずなので、そういうつたところはどのようにお考えでしょうか。

○加藤氏 私も大変懸念しております。中国がやることというのは、今まさに、力で現状を変えようなどという、やつてはならないような禁じ手に出てきている。昔はそうじやなかつたのです。やりたくてもできなかつただけかもしぬませんが。ただ、一つだけ申し上げられるのは、中国が表で言つてはいることと中でやつてていることがだいぶ違うということです。おとなしかつたころというのは、中でめちゃくちややつていたわけです。特に、文化大革命とか、中で闘争をやつていまして、

数千万の人が亡くなっている。餓死とか、鬪争で
です。だから、世界市場の中で自国民を數千万人
も殺した人は、ヒットラーでもないし、スターリ
ンでもない、毛沢東だ。世界で一番多くの自国民
を殺したのは毛沢東だと言われているくらいです。
しかし、それが表には余り出てこない。そんな状
況でございました。今は逆に空虚張りしております
して、外に向かってぎやんぎやん言つてはいるので
すが、中がめちゃくちゃです、はつきり言つて。

まことにろさから申し上げると、今、高齢化社会
の話を言わされました。現在で中国に六十五歳の
お年寄りが一億人ぐらいいます。人口的には十四
億ぐらい。三十年ぐらい前にいらっしゃったとき
に九億と言つていたのですが、なぜ人口があえた
かといいますと、一つは、寿命が長くなつたので
す。昔は、ます殺し合いをやつて、数千万も死に
ますからね、早く死んじやう人もいるわけです。
それに加えて、医療とか、比較的近代的なものが
農村まで広がつていきました。石鹼とか、本当に

……。昔は石鹼もなかつた。それが、石鹼がよう
やく農村なんかに行きわたるようになる。それだ
けでも随分寿命が伸びて、それから、ペニシリン
などもふえまして、その結果、まず一人子政策
をしながらも、物すごい勢いで人がふえたわけで
ます。一人子政策自体は一九八〇年代ぐらいか
ら実際に始まつてあるのです。始まつて、その後
の人口のふえ方というのを、逆に言いますと、一
人子政策をやつてあるわけですから、寿命が延
びたから人がふえているということしか考えられ
ないわけです。

では、この後どうなるか。二〇五〇年の状況で
申し上げると、恐らく四億人ぐらい六十五歳以
上になる。国の三分の一ぐらいです。日本もそう
なのですが、数が多いというのはある意味で大変
なこととして、四億人の御老人を抱えてどうする
のだという話です。

中国は、実は、今が盛りなのです。十年持たな
い。ここから先は下り坂です、ある意味でです

ね。ですから、例えば、日本で介護とか老人関係、高齢化社会に向けていろいろと頑張つておられる企業は、これから中国が儲けどきのいい場所になる。四億人の老人があふえてくるのです。今、一億人ですが、四倍になります。逆に言いますと、戦争で強がついていても、余り元気のいい兵隊さんはいなつてしまふわけです。ですから、今みたいなことはもう持たないです。十年持たないと想います。実際に財政省の人が言つていましたが、六年七七年しか持たないと言つっていました。この六、七年以内に中国がしっかりと経済基盤を固められなければ、中国は永遠に先進国になれない。むしろよく言われている、中進国のわなとか中所得層のわなとか言われておりますが、中南米とか、あるいは、東南アジアのように、ある程度行つたところでもうそれ以上伸びずに経済はとまつてしまう。そういう状況になりながら、恐るべき高齢化社会を迎えるということになります。

日本も高齢化社会が問題になっています。年金

の問題もあります。これから減らされるとか大騒ぎしていますが、向こうはそもそも年金などというのはほとんどない。ないと言つたら怒られます。国有企业に勤めた人はそれでももらえる。しかし農民、自営業、こういった人たちは、全く日本のような国民年金制度はありませんので、自分で生きていくしかないのです。そういう人たちはどうするか。現実に四億人のうちの三億人ぐらいは多分大変なことになります。そうすると、しようとしないから、死ぬまで働けというシステムになるのです。倒れたら終わり、死んでくださいということでしようか。中国が今日目標にしているのは、二〇一〇年とそれから二〇四九年と言われていますが、そのあたりがもう限界です。そこから先は一途に転がり落ちていくと思つていただいたほうがいい。ですから、もし中国に進出して、何か稼げると思つて、稼ごうと思ったら、この十年が勝負です。そこから先は、まさに、養護関係とか介護関係とか医療とか、そつちのほうは儲かるかもしれない

ませんが、そうでないものは余り期待しないほう
がいいと思います。ということで、今はあちこち
に問題を起こして、とんでもない、悪い中国の、
思いたくない状況ですが、そのうち内部からぼろぼ
ろと崩壊していく可能性があるという人もあります。
むしろ逆に、日本がそういうところを助けてあげ
るよと言えば、中国は、多分、日本をもつともつ
と大切な国と見てくれると思います。日本の持つ
ている、特にこれから高齢者社会に対するいろんな
な技術、本当にバリアフリーという考え方すら今
までなかつたところが、今始めているわけですが、
そういういろんなノウハウをまだ中国には導入で
きるところがたくさんありますので、そういうと
ころでもこれから期待はできるのですが、ただ、
強い中国、怖い中国というのは、二十年後、三十
年後はありませんというひともいるのです。中国
自身もだいぶそれはわかつていて、実は、戦
争する気は余りないので。戦争したら中国は一
発で潰れます。例えば、日本に一発ミサイルを撃

つただけで中国共産党は潰れる、これは間違いあ
りません。一気に中国の経済というのは信頼を失
い、吹き飛んでしまいます。日本と戦争できませ
ん。局地的なものが仮にあつたとしても、すぐに
抑える。むしろ、彼らが今やろうとしているのは
サイバーです。サイバー攻撃とか、あるいは宇宙
とか、そういうところで今までアメリカが独占し
てきたようなところに入り込もうとしています。
これは痛し痒しで、アメリカ自身も随分すごいこ
とをやっているわけです。世界じゅうの盗聴をや
つていているわけです。例えば、フランスの大統領が
みんな電話を盗聴されていたとか、それから、ド
イツのマルケルさんも盗聴されていたとか、よく
そんなことができるねという感じですが。

今、アメリカとイギリスは組んでいますが、世
界じゅうのあらゆる通信はほとんど傍受できるシ
ステムをつくっている。そこに中国が少しずつ食
い込んでいくて、この前、向こうの名簿か何か、
政府の名簿を盗んだとかいつて、アメリカが物す

ごく怒るかと思つたら、アメリカはようやくそこまで来たかと言つたという話。何だという話ですが、その世界で火花を散らしてくれる。日本には余り来なくて、日本でも悪さをするのですが、日本の社会保険の何かを盗んだとかやっていますが、あんなもの盗んでもどうにもならないのですが、そういうことを彼らなりにやつて、そんなところで少しばかり悪さをすると想います。多分、中国自身は本気で戦争をするつもりはないのだと思ひます。できないです。やつたら終わりということをわかつております。ですから、アメリカなんかもそれをわかついて、余り中国に対して厳しく言わないのです。最近、口では言つているのですが、行為としては、いいかげんに俺の後ついてくるのをやめよと、いう感じでござります。はつきり言いますと、中国が今やつてることとは、全て二十年前にアメリカがやつたことなのです。衛星破壊にしても、それから、電話の盗聴にしても、通信傍受にしても、ハッカーにしても、ほと

んど既にやつた後を一生懸命まねして、お兄ちゃんがやつたのを弟が一生懸命真似してやろうとしているのと同じような状況で、今つくっている兵器も、ミサイルにしても何でも、最近はドローンも一生懸命つくっているみたいですが、みんなお兄ちゃんのまねをしてつくっている。そんな状況でございます。

文責 事務局 佐々木誠吾

わが回想記

早稲田大学名譽教授

堀江 忠男

ユートピアは手に届く所に

この国では、男も女も、働く人はみな仕事をする。午前中に三時間労働、昼休みは二時間、午後の労働も三時間、夕食後は家族の団欒。余暇は、肉体的な奉仕や精神の自由な活動と教養にあてられる。この国の人びとは、そこには人生の幸福がある、と信じているのだ。

さて、わが国は田高・ドル安という数字の魔術によって一人当たりG.N.P.（国民総生産）で米国を追い抜いたことは確実、スイスに次いで世界第二位になるようだ。

これは地球に現存する国の話ではない。一五六六年、トマス・モアが描いたユートピアの生活ぶりである。

十六世紀初頭、英國や歐州大陸は封建制末期、

王と僧りよと貴族の圧政下に人民大衆が貧困と戦争にあえいでいた。その時代の夢である。

だが、それから五百年近く経ついま、人類の一部は、ユートピアに近い生活を実現している。ある国では、現在週三十八時間前後、ユートピアより二時間長いだけで、労組は昨年の春闘で三十五時間制を目標とした。

昼休みは二時間、午後の労働は二時間半ないし三時間で原則として残業はしない。だから「奉仕や自由な活動、教養」にあてる時間が十分あり、そのための体育競技場、美術館、オペラ・ハウスなどを完備していく料金も安い。……これは、実は西ドイツの話である。

だが、生活の実態はどうか。働きすぎで勤労者の家庭は、内容的に崩壊ないし空洞化している。

とくに東京など通勤往復二時間、残業が夜九時、十時まで、という毎日では、夕食後の一家庭の「生水準」ではなく、生活の余裕度、充実度で測定したら、日本の順位はたちまち、世界の数十番目に転落するだらう。

「ふう、ありやまだから、こんど銀行、郵便局その他の金融機関が来年一月から完全週休一日制に踏み切る方針を決定したのは喜ばしい。公務員もまた来年一月から月二回の土曜開庁が予定されている。

これらを突破口にして、すべての業種で完全週休一日制が実施される日の早く来るのを期待したい。ただし、その代わりに平日の残業を多くするなどということにならぬよう心がけてほしい。

そろそろ結婚シーズンに入つて、教え子の結婚式によく招かれる。企業の社長や重役などの来賓の祝辞は、たいてい——夫は企業戦士として疲れ切つて帰宅するのだから、妻は心からいたわって

やつてほし——という話である。夫に「仕えよ」とは、まさか言わないが、実質的にはそれと大差がない。男女平等、男女均等雇用法の時代に逆行するものだ。

だが財界人にそういうスピーチをさせるのも元はといえば、働き過ぎのせいである。わが国もユートピアに近い生活を本気で目ざすべき時であろう。

(88・3・19)

ソ連は「名譽ある撤兵」をしうるか

「われわれはアフガニスタンから撤退する。しかし、大使館の屋根から飛び立つヘリコプターのソリにつかまつて逃げだすよつなかまな真似はしない」

「ワシントン・ポスト」紙のペシャワル(ペキスタン)特派員は、ソ連の高官がこう語った、と

伝えている。

アフガニスタンの平和回復をめざすジュネーブのパキスタン・アフガニスタン間接交渉は、目標の十五日目に調印にはいたらなかつた。そうなつていれば、ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長の声明どおり、五月十五日から撤兵開始のはずであつた。しかし、時期は若干ズレこんでも、撤兵は必ず実施されるだろう。ロギノフ・ソ連外務次官、アフガナシエフ・ソ連労機関紙「プラウダ」編集長らがそれを言明している。

ソ連はなぜ撤退に追いこまれたのか。一九七九年末、アフガニスタン社会主義政権の内紛に乘じて、「アフガニスタンの友人に依頼され、同国の民主化を援助する」建前で出兵したソ連は、勇敢で民族的な誇り高い回教徒である一般国民の反発を受け、ゲリラ戦に悩まされて「点と線」を守るのがせいいつけだつた。

ソ連軍は、国民の抗戦意志をくじくためにこんなことまでした。小型爆弾をヘリコプターでバラ

まいた。市街地なら時計やオモチャ型、農村なら果実や野菜型のものなどで、誤つて踏んだり拾つたりすれば、手や足を吹き飛ばされる。不具者を大せい作つて、地域の経済に負担をかけ、あるいは国外へ逃げだすように仕向けるねらいだつた。

(本欄 84・2・25 参照)

一九五四年、ベトナムの独立を否認しようとしたフランス軍は、ディエンビエンヌで潰滅した。そのあとを受けて米軍が「枯葉作戦」などの非人道的な戦いをしたが、これも敗退、米国人の心に大きな痛手を残すことになつた。

現地の国民党から恨まれ、憎まれている軍隊が撤退するとき、停戦協定が全面的に守られる保証はない。最終引き揚げ部隊は大使館の屋根からヘリコプターで飛び立つことになりかねない。

一八三八年、イギリスはロシアの勢力がインド

天上を駆ける獅子

に及ぶのを予め阻止しようと、アフガニスタンに出兵。それを簡単に征服したが、その後、アフガン諸部族のゲリラ活動に悩まされ、ついに一九四一年十二月、アフガニスタンとの間に撤兵協定を結び、翌年一月六日、W・エルフィンストーン少将の率いる一万六千五百人の将兵と家族が首都カブールから、現在のパキスタン領ペシャワルに向けて出発した。その間、けわしい山間部でゲリラに襲撃され、殺され、捕虜にされ、あるいは寒さで凍死して、国境近くのジャララバード英軍守備隊に生きてたどりついたのは、外科医W・ブライドンただ一人であった。

(88.3.25)

「蛇を握り殺した。

成人してから十二の冒險をする運命となるが、その第一回が化け獅子退治。ゼウスの神殿に近いネメアの谷に住んで人間を襲う凶暴な化け獅子をこん棒でなぐりつけ、両手で首を締めて殺した。ゼウスはヘルクレスの手柄を記念して、化け獅子

太陽が西に姿をかくし、やがて全天を暗闇が支配する。そのころ天頂に近い真南の空に輝いているのが獅子座である。一等星レグルス、二等星デネボラ、それに三等星四個、その他多数の星から成り、黄道第五座として、春を代表する星座だ。

この獅子は、ギリシャ神話では英雄ヘルクレスに退治された化け獅子とされている。浮気な大神ゼウスが人間の女アルクメナに生ませたのがヘルクレス。彼はゼウスのきさきヘラの憎しみの的となつた。ヘラはゆりかごに寝ているヘルクレスのところに蛇を三匹送つたが、さすがに英雄のたま

を天にあげた。

獅子の頭部を成す七つの星（レグルスを基点に北へ数える）を英語では Lion's Sickle という。日本の草刈り鎌とはちょっと違つた形、ソ連の国旗にハンマーと組み合わされている、あの大きなわん曲した鎌である。

日本ではこの同じ星の列を、岐阜県西部や京都府舞鶴市あたりで「樋かけ星」という。樋をかけたる金具の形に見立てたものだ。

「大鎌」をさらに北へ延ばし、小さな星をいく

つか加えると、巨体ひだりをくねさせて天に昇る龍の姿に見える。中国では軒轅と呼んだ。これは、黄帝の氏名で、帝が龍に乗つて昇天したという伝説に拠つたもの。

さて、獅子座のアルファ星レグルスは、全天二十個の一等星のなかで、ただ一つ、黄道上にある。したがつて、日食や月食があるように、月にかくされる」とがある。「これを「星食」といい、肉眼でみることができる。

今年の十二月二十八日、午前四時から五時ころにかけて、中国、四国の西部、九州、沖縄では、レグルスが月のかげにかくれる。満月後、五日目なので、月の輝いている面に入つてかくれ、出る時は暗い面から出て来る。

黄帝は涿鹿の野で蚩尤たけのくという怪物とその一族を相手に鬪つた。蚩尤は風の神、雨の神を使って、煙を吹き、霧を張つて、行方をくらますので、黄帝は指南軍（手をあげていつも南を指す人形をのせた車）を発明し、怪物ともを追跡して、退治し

た。

黄帝が高齢になつたある日、一匹の竜が天から下りて、そばへ寄つてきた。「天帝がわしを召される使者だ」と、竜の背にまたがつた。竜は彼を乗せて天へ昇つていつた……。

もうひと月近くたつと、レグルスは西に傾き、乙女座の一等星スピカが南天の正面に来る。スピカとはラテン語で麦などの穂の意味だ。春の終わりと夏の始まりを告げる星である。（88.5.7）

講演会記録

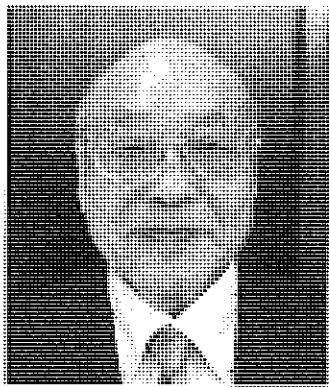
理事長

本日は井浦先生にお越し頂きました。

一期一会

井浦コミュニケーションセンター

井浦 康之



万年青年、私がこの間、井浦先生から『幾つになられましたか?』と訪ねられて、とつさに38才と答えましたら、『いや、私は28才です』と先手を打たれてしまいました。事の次第は、それほどに矍鑠としていらっしゃいます。万年青年の井浦先生に今日は、企業家であり、商人である以上、それなりの志社会貢献を果しながら利益を上げて行くことは、存続のための目的であり手段であります。それ以上にこの世で生きて行くための必須の条件であります。もちろん金儲けも大事でありますが、それ以上に心身の健康について、あるいは意欲について、それから価値観について、幸福とは何かと云う、普段考えられないような事がらについて、今日は重々お話しを受け承りたいと、このように思っております。井浦先生、ひとつ宜しくお願ひいた

します。

井浦

改めまして、こんばんは。気持ちのすつきりするご挨拶をうけたまわり、有難うございります。只今ご紹介頂きました株式会社井浦コミュニケーションセンター、井戸の井、浦和の浦、の井浦康之でございます。株式会社といいましても個人で、一人でやっておりますので意気軒高なところがあつて常に燃えております。

昭和経済会さんとはとても長いお付き合いでです。理事長の前の段階から40年余になります。お世話になつております。
ここに私のプロフィールがありますが、どんなことをやつているかと云うと、人材育成コンサルタントという事で、いろんな企業さんの社員研修です。幹部研修、営業マン研修、新人研修等をやっております。

例えばブリヂストン、ブリヂストンはタイヤのメーカーですが、23%は化成品です。化成品というのはスポーツジムとか、体育館の床だとか、お風呂の施設とかのことです。そこ全国の販売店の社長さんに、僕がブリヂストンの会社の研修をしたのです。その担当者から僕に是非話してくれと頼まれました。そんなに知名度は高くありませんから、知らない人は知らないが、知つている人は知つているのです、ですから、私の事を知らないそこの部長さんが、『大丈夫かねそんな人に頼んだりして』と云つたらしいのですが、大丈夫ですよ、と云つてくれたのです。私も駄目ならやめても結構ですからといったのです。場所は東京駅の近くなのです、そうしたらおかげ様でお話しを聞かしてくれと、六社の社長様から来てくれと云われまして。そんなこともあつたりしたので、それでは僕の手掛けた企業を一部ご紹介しましよう。

アルプス電気、IBM、日立製作所、日本電気、パナソニック、富士通、三菱電機、東芝、三菱重工業、本田技研、正興電機興業、横浜ゴム、キヤノン、朝日ガラス、ブリヂストン、富士フィルム、その他等、そうした会社の幹部研修をやらせて頂いております。

アルプス電気という会社ご存じの方いらっしゃいますか？片岡さんが今社長でいらっしゃいます。一代目です。片岡さんは42才の課長の時に私の研修を受けていたのですね。毎年年賀状を交換しております。今年の年賀状で嬉しかったのは、こんなことが書いてあつたのですね。「井浦先生の研修を受けたのは42年前です。先生のおつしやた事はまだしつかり覚えてます。」こんな年賀状が来て大変嬉しく思いました。

僕は自己紹介と云つておりますが、皆さんに最初、年齢を聞こうと思っています。四十代はいますか。居ますね。いいですね。三十

代はいませんね。五十年代の方、素晴らしいですね（笑）。では六十代の方、そうですね。素晴らしいですね。七十代の方、居ないですか？まだひよっこなのでですか？（笑）私は昭和3年3月生まれです。そうです87才になります。自己紹介の時はこのように云っております

名前は井浦康之。井戸の井、浦和の浦、徳川家康の康、五木博之の之、年齢87才、身体は50才、心は20才、これですね。私のキャッチフレーズです。いいですか、若さと年齢は関係ないので。実を云うと私は速く80才になりましたかつたのです。ある所で講演致しましたら、そこで聞いた女性の方から電話がありまして、会いたいと云うのです。小さな事務所を小岩に持っていますので、そこまでいらしゃつたのです。そして「先生あの言葉はショックでした」と云うのです。女性ですから年を取りたくない。若さがなくなつ

てくる。しかし先生は早く80才になりたいと。何故か理由を聞きたいというのです。お判りですか？たとえば皆さんが79才になりました。お幾つですかあ～？と訊ねられたら、79才です。そうすると70という数字が先に頭に入るのです。そこで、七十代ですと。あと一年で80才でしよう。相手の方は七十代だと思っておられる。七十代後半でしよう。生かされて、生かしていますけど。今日は何のお話をさせていただきこうかと思つたのですね。先ほど佐々木理事長さんから立派な紹介を頂きましたが、皆様には失礼ですが、質問させてください。

一つ目・何の為にこの世に生まれてきたのでしょうか？・・・何のために！

二つ目・今何をしてどのようにして、生きていらっしやるのでしょうか？

三つ目・あの世に行く時に何を残して、あの世に行くのでしょうか？

N H K もすごいですね、スウェーデン映画

この三つ、考えたことがある方、いらっしゃいますか。あまり無いですね。生まれたくて生まれたのではないのです。お父さんとお母さんが愛しあって生まれたのです。で、皆さんの中に、いいですか、一人っ子の方いらっしゃいますか？失礼ですが。一人っ子の影には、二千億の方が死んでいます。意味が判りますか。私たちはなぜ子供が出来るか知つてます？ 男性、女性、お父さん、お母さん、が愛しあつてそして子供が生まれたのです。卵子はたった一個です。精子は沢山あります。ある医学博士に聞きました。大体人間はどの位愛し合うのですかと聞きました。平均二千回なのです。あなたなら三千回（笑）失礼いたしました。そういうのです。変な話をして済みません。一回の精子の数が一億なのですつて。ということは二千回で二千億個ではないですか。

で生命の誕生までを全部映したのです。男性、女性と・・性器に入り精子が入ります。ズー^ト行つてきて途中でもつて無くなったり、横道にそれたりして、卵子のところでバーツととりつくのです。それを放映したのです。スウェーデン映画です。NHKも大したものだと思いました。ここまで映すとは思つてもいませんでした。私は記憶鮮明に覚えています。その中のたつた一匹でしよう。どけどけと云いながら元氣のいいのがボーンと一匹入つて行つたのが皆さんでしよう。

卵子と結合して目ができる、口ができる六十数億の細胞ができ、人間の生命の誕生ができた。人間として生まれたのです。これねえ僕は粗末にしてほしくないです。

明治生命から依頼がきました。私は一期一会の言葉が好きなのです。人生実に出会いではありませんか。一期一会の意味は「存知だとおもいますが、二つあるのです。これはもとらつしやるという人はかなりレベルが高い

もと千利休が、茶道（ちやどう）と、さぞうじやないのです。ちやどうと呼びます。僕はさぞうと云つていたのですが、たまたま「利休」という映画がありました。亡くなつた三國連太郎が主演だつたのです。その時、さどうでなくて、ちやどうと云つたのです。だから利休が云つているのだから間違いはないでしよう。最近、ちやどうと云つていいのです。千利休が残した言葉と云われています。お茶をたてる方、お茶を頂く方、あなたの場合は今日これつきりしかないかもしません。お茶会と云うのは二時間位ですか、よく判りませんが、そのひとときを楽しく、お互いの思い出に残る会にしようということで、出来てることらしいですね。人と人との出会いと云うのは、いいですか、自分の人生を変えられることがある。相手の人生変えられることがある。今日こうして会合にいらっしゃるという人はかなりレベルが高い

方々ですね。かなりいろいろな勉強をなさつていい。体験をなさつていい。会社を背負つていらつしやる。素晴らしいと思います。

僕は学校も出ていません。今の中学校も出ていません。今は六年間が小学校、三年間が中学校、で後三年間が高校、大学、短大、専門学校とあるのですね。僕は昭和三年生まれですから、旧制中学校、そこに行くんです。旧制中学校へ五年間行けない子供達は、尋常高等小学校へ入るのです。ぼくは実は旧制中学へ行きたかったのです。そんなに成績も悪い方ではなかつたので。僕の学校は文京区の千駄木小学校です。六年生になつた時に、先生がこんな紙をくれます。家に帰つてお父さんには、父親に、進学するかしないか書いてもらつてこいと。旧制中学校に行のなら、進学と書いてくればよい。しないのならばなしと。僕は父に紙を出しました。お父さん僕は必ず公立の学校に受かるから進学したいと希

望を云つたのです。東京はまだ東京市でした。市立と云うのです。公立の学校に受かつたら安いぢやないですか。そこに絶対一発で受かるから、とお父さん進学と書いていいですかと、聞いたのです。今でも覚えています。寂しそうな顔をしておやじは、そんなお金はないよ、と云つたのです。父は事業で失敗して、二畳と六畳の長屋ですよ。井戸があつて、長屋があつて、ガスも水道もないのです。想像付きますか。ガスも水道もない所に七人も住んでいたのです。想像つきます。二畳と六畳の長屋に七人。僕の仕事は水汲みでした。今思うと亡くなつた母は大変でしたね。六人分の食事を作るのでしよう。そして後の茶碗の洗い方が大変ぢやないですか。これぞーと僕がやつてました。高等小学校を卒業しました。就職しなくてはいけません。学校行くお金は無いのですから。そこで日立製作所亀有工場に就職しました。戦車のキャタピラを作りま

した。鋳物です。職工です。職工さんです。いいですか。今の日立は皆さん社員でしよう。正式採用。昔は社員と工員は分れているのです。僕らみたいに現場の鋳物職工は、工員なのです。夜学出ても一生工員なのです。ですから、これで以て僕の人生いいのかなあと思つたのです。たまたま僕は戦車の操縦ができますから、免許もつてゐるのです。（笑）持つてゐるのですね。戦車の操縦は車の免許が先にいります。車の免許証は終戦のあくる日です。昭和20年8月16日に品川の鮫洲で免許をもらいました。今でも覚えていいます。免許取つてからずーと運転して、皇居の方へ行つて終戦のあくる日です、天皇陛下に挨拶に行つたのです。そうしたら、うーん云つてもいいのかなあ？ 陸軍大尉が割腹しました。僕の目の前でこうやつて、こうやつて、あれう思い出すと何とも言えないですよ。天皇陛下申し訳ないと云つてずーと短刀を見

て、こうやつてこうやつて血がバツーと出ました。そんな時代だったのです。で、なんでも今のがあるかと云うとずつーと今まで小学校だつたのですけども、たまたま車の免許を取つたので。そうすると戦車を作つていたのを、戦車の場合、ハイドバンといつてブルドーザーに改造したのですね。そのオペレータをやつたのです。写真も持つていますけど、その時、たまたま工場長の運転手が足りなくなつて、やつてくれと頼まれました。車の免許を取つたら、運転したいじやないです。か。当時ガソリンはなかつたのです。皆さんご存知ですか？ 松根油、松の根つこの油、日本の陸軍が使つていたのです。ですから油がないで、東京都内は木炭車が走つてました。木炭車、本当ですよ。木炭で走るのです。僕は乗つてるのだから。只、馬力がないのです。だから坂道になるとお客さんが後ろから押すのです。ただガソリンがないから木炭でバ

スが動いたのですから、僕は乗っていたから判るのです。そんな時代がありました。当時日立製作所は軍需工場でしたから、戦車を作つていましたから、ガソリンの支給が終戦後あつたのです。4台の車がありまして、運転手は4人いました。まだ僕覚えています。黒澤さん一番年上で52才、海老原さん32才、長谷川さん28才、その次が僕で21才。僕が一番若いもんですから、緊急会議があつたら僕の所にくるのです。家でなくて寮にいましたから。実は僕の家は爆弾が落ちたのです。

昭和20年3月に、今の千駄木の近くに250kgの爆弾が直撃に、僕の長屋に落つこちました。日立に勤めて帰ってきたら家がない。大一きな穴があいてました。直径30cmぐらいいです。驚いたのは防火用水がありまして、コンクリートの中に水が入っているのです。防火用水が前の家の屋根に上がつていました。爆風はすごいです。私の家族は空襲警報

が鳴りだして、近くに「しんどう」といつて原っぱがあつたのです。大きい原っぱに三つの防空壕がありました。そのうちの一つに私の家族が行くのです。そのうちの二つに爆弾が落ちたのです。直撃です。250kgの爆弾です。私の家族の防空壕だけが助かつたのです。いつもどうせいつかどこでも死ぬんだからと姉だけが、いつも避難しないで押入れの中の布団の中に首を突っ込んでいたのです。その日だけは、私も行こうかなと云つて助かつたのです。そんなことがありました。

それで工場長の運転手をやつした時に日立の寮に居ましたか、うちの父が爆弾が落ちた時にね、前に道路があつて、防空壕があつたのです。うちの父が入つている時に爆弾が落ちたので圧縮されて、材木が当たつて右の肋骨を六本折つたんです。でも、父は興奮していましたから、その時分、谷中に僕の叔母がいました、その身体で叔母を探しに行きました。

た。そうしたら、叔母の家は直撃弾を受けてやられてました。そこで父はガクつときて歩いている時に、救急所があるでしょう、介護する所の。そうしてら、あんたよく歩いてこられたね、右の肋骨六本も折れますよ。それを聞いて又、ガクつとしてしまったのです。家がないものですから、爆撃にやられてしまって、友達が疎開して留守なので、友達の家へ行き、そこにお邪魔したのです。そうしたら空襲警報が鳴るたびに家の台所を掘つて防空壕をもつてたのですが、父は動かすと痛い肋骨折れているから。痛い痛いと。どうにもしようがないから、実家が新潟の新津なので、そこに家族皆疎開していたのです。その次が3月10日の東京大空襲です。高崎から東京の空が真っ赤に見えたのです。その位ひどかったです。そういう事があつて、僕は日立の同僚のお父さんが東京電力で東電の田端と云う所で、その時から東電はすこかつたの

ですね。その防空壕はものすごく立派でした。ちょっとやそっとでは爆弾落ちても平気なのです。そこへ父を送り出してから、泊まって、あくる日の朝、外に出たら全部焼けました。父が居た家も焼けているのです。何かうちの一家は運がいいのかどうか知りませんけど、そんな事がありました。

寮にたまたま居るときお風呂に入つてました。夜、庶務課から千葉で別の会社の方と緊急会議だと云つて、僕に連絡が来るので、当時、亀有は田んぼしかないのです。とばとぼ歩いて工場長を迎えて歩いて行くと、他の経営者の方達も緊急会議だと云うから皆集まつて来るのです。どんな事をやつているのかと思つたら、女性の方ごめんなさいね。女遊びなのです。懇親会なのですよ？ 運転手さんここで待つててくれと。6畳位の畳の擦り切れた所に火鉢一つ、冷たいお茶があるだけです。2時間位待つてゐるのです。やがて

二、三時頃になると、井浦君帰るよ。とゞ苦勞さん、酔っ払った工場長を連れて龜有まで帰つてきます。奥さんが怖いですか。だって白粉の匂いがするのですよ。芸者さん来ているから、化粧に匂いです。なんでこんな遅くなつてんのよと云いながら奥さんが、井浦さん帰りなさい、大変ねと云つたぐれます。残業手当は出ますからいいのですが、とぼとぼ帰ります。寮に四人居ました。畳があつて、二段ベットがあつて、みんな寝てるぢやないですか。ガタンと戸は開けられないから、そーと入つて静かに静かに入つて布団にもぐり込んで、これが自分の人生なのか?と思つたのです。その時に、たまたま日立の本社から、横田さん、重役の横田さんが龜有に視察に來たのです。そこで自宅まで重役を送つてくれと云われました。大田区の洗足池なんです。山の方でした。運転して行つたのです。その時の事。この本にも書いてあるので

す。私の本ですが、本も16冊書いています。そこで重役に質問したのです。「横田さん?」重役さんが「何ですか?」「ちょっとお伺いしたい事があります。どうしたら貴方みたいになつてゆうゆうと自動車の後ろに座つて乗つていらつしやる事ができるのですか?教えてください。」そしたら即答はなかつたですね。「君は偉くなりたいのかね。」「はい。」バックミラーで見ていたら、うんうんと唸つていただけ、3分位かな、バックミラーで見ていたら。「君名前は?」「井浦です。井戸の井に浦和の浦です。」「井浦君そうか。君は偉くなりたいのか?」「はい。偉くなりたいです」と言いました。そうしたら「偉くなりたかつたら、学問をしなさい。」と言わされました。高等小学校の人間はやつぱり一生工員なのですね。やはりそうか、それでは勉強しなくては駄目だ。それから私は2才から夜学へ通つたんです。都立上野高校

です。都内では一応名門なんです。そこに夜学に行きましたら、なんと定時制は5年なわけです。昭和23年に4年間になったのです、今の定時制は4年制ですからね。夜学ですね、定時制だから。とすると3年生の私はそのまま3年生なんです。4年で済むから上がらないのです。これはおかしいじやないか何で3年を二度やらなくちゃならないんだ。そしたら都立第一高校に4年生の募集があつたのです。そこを受けて編入したのです。上野高校の方がレベル高いですから、簡単に入つてしまつたのです。ですから、僕の卒業証書は都立第一高等学校です。それで大学に行きたくてもお金がないじやないです。これからこの世の中は絶対にアメリカの傘の内にあると直感したのです。英語の勉強を始めました。そして神田のY.M.C.Aの英語学校に通つたのです。3年、本科が2年、上級科が1年で3年間なんです。2年で通訳の検定試験をと

りまして、そこの教頭先生のご紹介である建設会社に入りました、沖縄に行つたのです。日立に入つた時の僕の初任給、昭和17年ですが、4月25日に始めてもらつた給料現金ですが、皆さんいくらだと思います?たつた17円です。17円が僕の一ヶ月の初任給でした。今のお金に換算すると七万位でしょうか。一銭で大福が買えましたからね。10年勤めました。10年勤めて辞める時の給料は1万円だったのです。ところが先生の紹介である建設会社に行つたら、とたんに1万5千円なのですね。基本給が、本給がね。そして1万5千円は全然使わずに済むのです。沖縄は外国ですから。海外手当が付くのです。沖縄に行くと、総額45万、今のお金で45万位貰えるのです。と云うことは、本給の1万5千円はそのまま残るわけでしょう。沖縄に行つた時3万位入りますから、学校に行きました。琉球国際大学英文科第一期生、これ私な

のです。ところが卒業しない内に仕事が終わってしまったのです。そこで日本へ帰つてきました。おかげ様で42才から話方の勉強を初めてから、いろんな事が判つてきて、経験深いですから、いろんな仕事を僕は二四種類やつているのです。会社10社代わったのです。社長と意見が合わないとそこに居ても面白くないでしよう。生意気でも社長を首にすることはない自分が辞めることでないですか。それで自分でもつて好きな事をやろうと思つた時が42才です。おかげさまで、バブルの時は年間300回研修の声がありましてね。江戸川区に所得税2000万納めました。これだけですからね。仕入が無いのです。ところが七年前にですね、ある所に投資しました。サラリーマンの生涯賃金位ですね。いくら位だと思いますか。大学、高校出て定年まで勤めて、給料、ボーナス+退職金ですね。いくら位だとお思いでしよう

か。約2億4000万です。それ以上の全財産を失つたのですね。馬鹿ですね。そいつはテレビに出ました。週刊誌に載りました。新聞にも載りました。でも僕は考えたのです。相手を恨む気はないのです。今でもないです。何故! 僕が甘かったのです。自分がもつとチェックとかするべきだったのです。自分が悪いんですよ。そう思つて僕は彼を許す事になりました。僕の友達6人~7人最初は入つて來るのですよ。後になつてだんだん投資していくんですね。簡単に言えば、ねずみ講ですよ。あの利息の差は日本では余りないでしよう。彼はすごいコンピューターを持つていて、蘭の花なんか置いてあるんです。うまいですね。僕ちょっと遅くなつて、彼は外車を4台持つてましたから。運転手もいるんで、僕が遅くなれば送つてくれるんです、家まで。そんな事をしているので信用してしまつたのです。自分が甘いじやないです。ちょつ

としやくにさわるのは彼を恨む気持ちもないし、もう終わった事はいいじゃないですか。

そしたら不思議なのです。ある所から世界的なグローバルなビジネスがうまい事に4年半前に僕のところに入ってきました。徹底してしらべたら、とんでもない会社で、そこで手がけてきて、おかげさまで来年花が咲きます。おかげさまで。今準備していますので。私87才ですから、90才の時にミリオネアになってしまいますね。何を云つているか判りますか？億万長者になっています。月収1千万。今これからの時代、自民党のファンの方いらしゃればごめんなさい。今の日本政府を頼れますか。最終的に自分の身は自分で守らないといけないではないですか。一番大事なのは人間としてどれだけ魅力ある人間になるか、ここなんです。皆さんにお願いしたいのは、ではどうしたらいいのか？と云うのが、皆さん、ここからが大事なことになります。

す。先ず、

第一番目、人生理念をしつかり持つて下さい。人生理念。いいですか。皆さん方は立派な経営者ですね。経営理念をお持ちですね。経営理念のない会社は危ない。経営理念がどういう理念か使ってみかで会社もいろいろ変わってきます。吉田松陰が云つてます。「志は何か？」これが重要なところです。倫理法人会つてご存知ですかね。倫理法人会。ご存じないですか。中小企業の経営者が週に一度朝の6時～講師を呼んで勉強会やるのです。僕は何回も云つているのですが、そこで云うのですね。「あなた方は経営理念を持つていて、人生理念をもつていいのですか」「人生理念ちは何ですか？」経営理念は、やるのは社長なのですよ。看板下げては歩かないですね。○○会社の社長とか○○会社の部長とかただのおっさんではないですか。ただの女性ではないですか。ということは経営者の前

に人間としての志、理念ですね。これらをしつかり持つてほしい。これを云うとちょっとびくつとされて、私、人生理念なんて考えていない。じやあお前偉そうなことを言つていが、お前の人生理念は何だ。私、本で書いています。この僕の書いた本の中にです。「こころ豊かに生きる」が一番先に書いてあります。これですね。申し上げます。これが私の人生理念です。たつた一人しかいない自分を、たつた一回しかない人生を、人間らしく、こころ豊かに生きる。これが僕の人生理念。それを心に置きながら生き人々と接しています。皆さんにお願いしたい事、勿論今生まれて来た事は凄いことなのです。他の動物ではないのです。ゴキブリでもなければ、馬でもなければ、牛でもない。魚でもない。人間と生まれたことは2〇〇〇億分の1で、兄弟二人なら1〇〇〇億分の1です。どんなに命が大事なのか？くれたのは自分のご両

親です。朝晩風呂に入つても、両親にもう亡くなっていますが、お早うございます。名前を云つてね。今日はこんなことあつて、こんなことあつてど、こんなことあります。又、風呂に入つてから寝る時も、お父さんお母さんありがとうございます。合掌してね、おかげさまで一日過ごすことができました。とこんな方と出会つて、こんな方とお話ししました。と話すと、自分の気持ちも何となく穏かになつてくるのです。私はずつと毎日やつてます。こんなことですがね、是非人生理論をも持つて頂きたい。これが第一条件です。

その為の人間的に魅力はなにか。沢山あるのですが、今日は40分しかないんで、語り尽せないのでですが、皆さん方、自分で今何をやつているのか、いろいろと立場があるじゃないですか。社長とか役員とかあるでしょう。そのなかで、自分はどういう理念を持つて仕事をしているのだろうか、会社の理念とかは

当たり前で、人間としてですよ。そして何を考えどうしたらいいかですよ。一番大事なことは自分の人生に夢をもつてているのか。目標が明確なのは、ここですね。夢を持つていて、そういうことは、そうそう嫌な事があつても明日行くのだという夢があるのでから楽しいではないですか。何かあつても我慢できるのですね。夢がない方と云うのは只、毎朝起きて仕事に行つて、あつと云う間に一年が過ぎてしまふ。87才になつて、あつと云う間に一年が過ぎます。あつと云う間ですよ。僕はそう思つています。二〇代は普通でした。三〇代は急行、四〇代は特急、五〇代は新幹線のこだま、六〇代はひかりになつて、七〇代はのぞみになつてね、もつと上に行くと、飛行機でばあーっと。皆さん自分の年齢を振り返つてみると、そうだと思う。あつという間じやないですか？何をして生きて来たのか？何を残していくんでしようか。これが大事だと僕は思う

ので何かの功績を、自分の人生に残していただければありがたいなあ」と思つていて、その為には自分がしつかりした夢、若しくは目標を持つて、それを達成する為にどうしたいか？何をしたいか？期日をきめる。期日を決めない限りできませんからね。イメージが大切なのです。そこで以て達成してにこにこして楽しいイメージをもつて上がつていただけるのだ。そうでなければただ生まれ一日終わつて、あつという間に一年過ぎて年を取つてしまふんぢやないですか。僕は今、新しい事業に取り組んでいます。人生最後です。そして僕と触れ合う方に恩返ししたいのです。触れ合う方皆さんに幸せになつてほしいのです。僕の夢なのです。特に今の若い方に希望を持つてもらいたい。今の政府が申し訳ないけど、僕は当てには出来ない。ちょっと心配なのです。はつきり云つてね。日本の国をそう思つてます。だから、皆さんは企業です

から政府がどうつて、勿論政府はコントロー
ルしますよ。でもね、自分の力がついたら、
応援してくれるのです。最近僕が云つている
のは、本氣で君やるの！つて。本氣で生きる
の！つて。本氣で生きるのだつたら三つのこ
とあるよ。一つは何か？本氣でやつて、本氣
になつて動くと楽しくなつてくるのよねえ
え。楽しくなつてくるのです。

皆さんお仕事に毎日楽しいですか？ 生
甲斐を持つてやつているのですか？ どれ
だけ相手に影響力を与えているのですか。僕
はそう思うので。本氣でやると楽しくなりま
す。今、私は楽しいです。凄く！ そうおか
げさまで今のこの新しい業界の中で有名人
になつてしましましたね。僕のことが判つて、
大阪で4回特別に招かれたスペシャルゲス
トとして、お話をさせて頂きまして、韓国に
も行きました。韓国で今手がけている業界は、
韓国はもう5年前から仕事をオープンして

いるのです。日本人が毎回行くんです。年3
回位です。その時にスピーチをやつてくれと。
この間大阪に行つたらある女性の方から手
紙が来たのです。「で何故きたのですか。」
「井浦先生のお話しさ韓国で聞きました。」
感動したのです。そして友達を4人連れてき
たんです。大阪にね。そのうち学校の先生が
2人いるのです。何故かというと先生のお話
しはなかなか聞けない。それもたつた千円な
んだから。なかなか聞けないのだから、貴女
聞いた方がいいですよ。」と云われて來たの
ですね。その学校の先生から礼状が來たので
す。そういう話をしましたからね。大事な事
は何か？ 溫かい心を持つ事ではないので
すか。ここに僕の書いた言葉がありまして、
幾つかあるのですが、ちょっとね、持つてき
ましたので読んでみます。

強い心がないと生きて行くのは難しい。し
かし、温かい心がないと幸せにはなれません。

井浦康之。強い心がないと生きて行けないで

さつき言いました。

しよう。いろんな障害があるじゃないですか。失敗とか苦労があつた時にどう受け止めるか。自分の気持ちで変わつて来るのです。なんで俺ばかり苦労するのだ。と思うから辛いのです。神様は、人間に自分で解決できない苦労は絶対与えてくれませんから。解決できる範囲でもつて与えてくれるのですね。重いか少ないか、だつて僕は三億やられたのですから。三億円終つたことはもういいのです。済んだことだからよくよしたつて、しようがないでしよう。まあ理事長にはちよつとご迷惑かけましたがね。問題は先を見て生きて行くことですよ。運が良い男で、それで自分で命を掛けれるような仕事。丁度4年前に全部調べて、アメリカにも6回行つて来ました。韓国にも6回行きましたね。来年、私は今、手がけている仕事で絶対幸せになろうという信念を持っています。本気の話。一つ目、

二つ目の話、本氣でやると必ず道は開けます。本氣かどうかで変わつて来るのです。貴方がたも本氣で何かやれば、必ず道は開けるから、これは実体験で何回もしているから。三つ目、いいですか。これがすごいんだ。本氣でやると頼まなくとも貴方がた、周りの誰かが助けてくれるのです。本氣でやれば必ず誰かが助けてくれる。だつて本氣だもの。助けてやりたいと思わないですか。今までの皆さんの友達関係とか人間関係で、本氣の人を助けたいと思わないですか。会社の社長は本氣でやっている社員を応援したいと思っていませんか。ここなんです。いい加減な奴は置いてかれますよ。

これを三つの本氣と云つています。後、一つ何かトラブルがあつた、壁にぶつかつた時の解決方法を申し上げます。

(次号に続く)

歌の鑑賞

佐々木 誠吾

—*—

○ 男深きフスマの街を故郷としシユトルム
は悲恋のロマンのこしつ 植田重雄

議な程に、シユトルムの悲恋に終つた清らかな恋愛物語の情景が静かに浮んでくるのである。ラインハルトとエリザベートの恋物語は、この一冊の短篇小説を読むだけで充分である。私はそれ以上のことを、今以て、この作家に求ようとしていない。ここに載せた霧深き…、と老いてなは…のうたは、この「みずうみ」の小説の光景をほうふつとさせる余韻を以て胸に迫つてくる。作者の青春をしのぶ心境として、一首が充分に生かされている。

○ 老いてなは卓上ピアノ日毎弾き詩情忘れぬシユトルムなりき

ドイツの作家、テオドール・シユトルムの在りし日の姿を偲んで一首に残したうたである。詩的リアリズムを代表する作家の一人であるが、奇しくも私が高等学院時代の三年生の時に、ドイツ語教師として赴任してきた高木実先生に、シユトルムの小説「みずうみ」だった。冒頭の原文の一頭は今でも暗記して、その詩的な陰影のこもつた文章を口誦する時がある。すると不思

シユトルムの小説「みずうみ」の冒頭は、老人がひとり、晩秋の坂道をほこりをかぶつた靴をひきすりながらゆっくりとした足どりで帰途につく情景描写から物語が始まつている。暗がりの部屋に入つたシユトルムは、疲れた身体を

安楽椅子にもたれながら、静かに暮れてゆく窓ぎわのゆらぎを眺めつゝ老いの寂しさを感じていた。そして、青春時代に過ぎていった恋物語りの場面の回想から始まる。その哀切なひびきが、作者の胸にひびいて、シユトルムの在りし日を自分の陰影に重ねあわせて、晩年を迎えた作者の一文学者、一歌人としての物哀しい一首にも感じてくる。

- 豊かな繩文の甕を貰でまして神今もなほ
「」にまどるむ

—*

- 苗出しは流産せぬよう慎重に水溢さぬよう
光りが照らす

松田治男

日本の農作業は日本民族の精神歴史に大きな影響力を持つて、これほど纖細に生活に根ざし

生かされてきている事例は、他の国々には見られない特徴である。田植え一つを取つてみても昔からその動作は機微に徹し、作法を重んできた。その諸作は、人間の身体全身をのばし切つて詳細であり、そのまま静かな能の舞いに通じてくると、作者は見透している。鋭い観察、洞察力である。

- 農業は垂直水平学ぶ技お能の文化も幾より
始まる

例えば懸命に農作業を終えたあとの労働の快よい快感は、団らんの席で人間的な心の通ひあう場所になつて、生活のはつらつとした意欲につながつてくる意味合いがある。休憩のお茶の一杯で会話がはずみ、喜びをわかつ合う時間が与えられて、勤労と休養と団らんの一体感が具現されるわけである。これが発端で又、収穫の喜びにつながつてゆく。このリズミカルな精神

性の連続が、作者のうたから学びることがで
きる。それは日本人の生活表現となり、文化
の根底をなすものと解釈したい。

○ 休憩のお茶一杯で 蘇^{よみがえ}り新たな意欲が団欒
のあとで

—*

○ 山道を登り峠に妻とたち木の間に眺む尾瀬
沼はら 佐々木誠吾

大清水を通つて尾瀬沼に入るコースがある。
雪どけ水のきれいなせゝらぎが、尾瀬沼にそそ
ぐころである。春まだ浅い湿原には、冬の眠り
からさめた樹々や草花の芽生えが、その息吹が
感じられる頃である。妻と連れ立つて、早春の
尾瀬沼の木道を朝早く渡り歩いてゆく気分は幸
福感に浸つて、そのまま広々として澄み渡つた
天地の間を逍遙する気分になる。山道を登つて

木の間に見た尾瀬ヶ原の湿原は、白くおおつて
いた霧が払われて、広々と見渡せた。しばらく
すると至仏山が白い雪を嶺に残したまま、現わ
れてきた。喜びにみちた感動の瞬間である。

○ 上越の空にさまよふひとひらの雲の行方に
思ひ託せむ

尾瀬を表題としたうたに、上越の地名が重な
らないかも知れないが、特定の場所に限つたも
のでなく、山連みのある澄み切つた空を思い出
して頂ければよいと思つてゐる。合評会で、地の
理に詳しい出席者に指摘された。浮雲と云うと
何かはかない、悲しみのこもつた余韻を感じて
くるが、一片の雲の空をゆく光景には、何かし
ら浮力と飛翔力のようなものがあつて、遠くま
で運んで行つてくれるようにも感し時もある。
自分の希望、あこがれ、期待といったものを雲
にのせて自然界の力に悠然と託してみたい気持

ちになる時もある。いろいろな託し方があつて面白いと、勝手に詠んだりしている。

○ 朝ぎりの晴れ行くあしたほのぼのと雲間に出でし燧岳かな

—*—

○ 淡雪は寺の屋根よりすべり落ちのどかな春のしじま破りぬ

野田 尚

淡雪でも積もり重なると、屋根を重くおさえることになる。一首には、冬の間の雪国の原風景が浮んでくる。春が近づいて暖かみを感じる

頃には、屋根に積もった雪が静かにとけはじめる。静かな眠りから、かすかな音のきこえる動きの世界への移行である。お寺の屋根に薄くおつた雪も少しつつ、しづくとなつて地面に落ちていたが、耐えきれなくなつた雪が音をたててすべり落ちた。その瞬間の音をとらえて、春のしじまを破つて、動きはじめた深羅万象であ

る。「静から動へ」と作者の心のゆらぎを感じられた。

○ 水張りし田圃を渡る風涼し稻の成長楽しみとなる

並々と水の張つた水田に、田植えの終えた一連の作業のあとは、仕事をなしとげた充実感が湧いてくる。汗のあと拭つて、田んぼを渡るそよ風に身をひたし、あとは稻の成育を丹精こめて見守るだけである。秋の稻刈りと、豊かな収穫までを見通して、休息する作者の清冽な心境と期待がこめられている。

○ ゆっくりと登りつめけり隨神門ふりかえ見ればあじさいの列

—*—

○ メジロ来て梅の花の蜜を吸う枝から枝へ移りながらも

倉橋雄行

満開の蠟梅と、こんもりと咲くしだれ梅の光景が、作者を花の香り豊かな世界にいざなってくれる。その句ひに小さな目を丸くして、春を告げるメジロの姿が梅の蜜を吸いに訪ねてきている。鶯の声は聞こえても姿が見えず、鳴き終るとすぐに遠くへ飛んでしまって、メジロは、鶯色をした丸い身体を身軽るに、枝から枝へと飛びかって、梅の花の間を楽しく遊んでいる。そこが何とも云えず可愛らしい。枝から枝へと移りながらと、作者はその動きを素朴にとらえて、いとほしく感じてゐるのである。梅の花と香り、メジロの組み合わせが、優しい作者の心と趣きを限りなく感じさせる。

て楽しむが、紅梅は白梅の清楚さに比べ、つやかさがあつて、何となく情念の思いがたゞよう。濃く目に映りやすいので、花が重なつているようにも見えて、なお妖艶である。作者のそうした思いが強く響いてきて、「赤く、赤く」と云ひ切れない思いで云い返している。先の「枝から枝へ」と表現し、ここでも「赤く、赤く」と云ひ重ねて、響きは絶妙である。

○ 前庭に紅きしだれ梅咲ける美しく地に屈かんばかりに

——*

○ わが足のおもむくままの登り下り花見上げれば空も花いろ 渋谷宮子

○ 紅梅が重なりて咲く七重八重に木木一杯に
赤く赤くと

紅梅を見かけるのは、この時期、簡単なようではある。白梅は普段、觀桶と一般に称し

奈良の吉野山の「さくら」は日本有数の名所の花で、「しろやまさくら」を始めとして、三百

種以上のさくらが約三万本もあると言われている。春の季節には、尾根から尾根に、谷から谷に咲き誇る。吉野の花見に作者は赴くままに和歌を詠み、豪華絢爛の花の峰々を逍遙して夢想に耽るようである。行けども行けども尽きぬ花の峯、「さくら、サクラ、桜」と口誦し心境と情趣を吐露してやまない。歌い上げて十六首。花の夢路を通り世界である。吉野の千本桜と云われるようの一目見て千本の桜の花が折り重なり、あたかも花の東の映像となる疑締される。紀の川の南、から大峰山脈につづく尾根づたいの全長八キロの道のりである。金峰山寺を中心と点在する寺々、西行法師ではないが、「願はくば花の下にて春死なむその如月の望月の頃」と詠む心醉にうなづける。下千本、中千本、上千本と、花見は四月初めから終りまで、順を追つて楽しむことができる。上千本の「雲井の桜咲きにけり」と、作者の優雅な心境が限なく表現されて秀れている。

○ 花見よりなだりに生ぶるさわらびを探る男
のあり谷のま近に

花より団子とまではいかないが、作者の目には滑稽に映つたのかも知れない。しかし、峯の桜から谷へ下りると、そこにも谷から谷へ続く千本桜である。清水の流れに、さらわびを探る男の影があるのも優雅な一服の絵にうつる。

○ 谷ふかみ散る花びらのはかなさを見つつ下
りたりみ吉野の山

—*

○ 満月の明るき夜なり朝二時日覚めてまろき
月を見るかな

新川美恵子

祈りのあと、静かな床についた作者である。

清冽なものの音の調べに目がさめたら、煌々とした満月が、紺青の海を渡る夜の空に気付いた。まさしく神の誘いである。こんな清らかな、澄み切った月を見のがす手はあるまい。勿体ないと云う主イエスの、「恵みと癒しの贈りもの」ともうけとめる。

朝三時に起こされて、思わず空を眺めた月にしつとりとどう酔し、夜のじしまに手を合わせて、主に祈りを捧げる作者の敬虔な姿を思い浮べて、深く共鳴を禁じえない。清澄な窓べに月の光が差しこんで、あたりの静寂さに一層の際立ちを覚えて、深遠な世界である。

○ 星座の名を知らぬは悲しき姪の子に星座の絵本を送らむと思ふ星座の本はいづくにあらか

静寂のうち沈むじまをついて紺青の夜空を静かに渡る月を詠む作者は、そこに高貴な神の存在を知つた。その思いは広漠とした天空に及び、無限の宇宙に、散らばる無数の星々に及んだ。やはり三位一体の世界に、その意義と存在に描きない崇高の念を寄せている。その思いを後世に引き継がせたい。できたら、その絵本を子供たちに贈りたい、とする作者の焦せる気持ち、暖かい心情がほとばしる一首である。何にもまさる教えがこめられている。

○ 赤銅しゃくどうの夕陽の沈むおりに金の夕陽を静かに見つめてゐたり

—*—
○ 笛鳴きの窓の眺めに匂の生れし治癒の兆しの生き生きと
高橋さよ

姉君の病床の様子と窺えるが、窓に聞く鶯の初めての声に感動し、一句を吟じた姉の氣梓と表情に、生き生きとした活力がよみがえったような確信を得て、作者の喜びが伝わってくる。鶯の初音は、ういういしく、春の躍動を感じるが、その力は、病床の身の繊細な神經に敏感にはね返つてくる。病いの治癒は、自然現象の巡りを告げる音に、敏感に反応し、神經を鼓舞するものである。初鳴きに一句を吟じた姉の満足感も、充実したものとして詠まれていて心くばりとやさしさが窺えてさすがである。

では細まかな種子を播くのとは違つて、何かしら重量感のあるものである。

種芋を二つに切つて、切り口にわらの灰をつけて土の中に埋める。一週程たつと、芽が四五本出てくるが、確か、二本位に剪でいする。春先になると、丹精こめた証しに、大きな芋が沢山収穫できる。新じゃがとして店頭に並ぶ。作者は、種芋を埋めたあとに、やわらかな慈雨の音をきいて、畑のしめりに安堵の念を詠みあげた。母へのいたわりと、神への感謝の念が自然と表現されている。

○ やわらかき雨音を聴く夜明け前昨日じやが
いも埋めおえし母

○ 初川の急な流れにつばくらめ水面すれす
れ朝のすばやさ

じやがいものの種を畑に埋めて、畑作業をすませた母、例年巡りくる仕事の一つである。種芋を耕した畑のうねに植える仕事は、畑仕事とし

—*—

- 四月雪夢見たその日に舞い降りて寒さと
冷たさ聖さの中なり

角田章予

四月の頃は桜を始めとして、さまざまな花が咲き、鳥がさえずり深羅万象、生き生きとしてよみがえる季節である。人々の心も浮き足立つて行楽の日を迎へ、新しいスタートに立つ。そうしたなかで、雪をとり上げた作者の意図を深く考えてみたくなる一首である。眠りのなかにあるものすべてが目覚めて、眠りと静寂な世界に惜別を含めて深くさぐると、冬の聖さに改めて身を置く実現の姿が、夢を引き合いに出して暗示的である。雪の白さ、それは空から舞い下りてくる精靈に、作者は神秘的な思いを絶ち難く、惜別の情をひしひしと感じさせてくる。

- 「さよなら」と書けばなんともあつけないメール時代の活字の虚しさ

現代文明の最先端を、生活の中で実体験して痛烈な批判をなげかけている作者の姿がある。導管である。我々は溢れる情報のなかに日常生活の身を置いて、ともすると自我の存在すら忘却するなかにある。機械化された生活、通宿機化された生活意識の外で自分が定型化されていることに気がつくと、おののきすら感じてくれる。メールは、その簡易さと利便性で、没価値の方策、手段で、人間としての暖かみが失なわれている。情の通じなくなつてゆく虚しさは、不可避かも知れないが、やはり「さよなら」と文字で書いて、距離を置きたいものである。分りやすい現代批判の一昔である。

○ どれほどに地球の粗度が上がつても私の
中身はこじえたままだ 田中貴意

直訳的、直情的な表現が、むしろ若いエネルギーの表現発露で強烈なパンチを受けて、作者

の作品にのけぞつてしまふ時がある。時々ぐさりと胸をつかれて、我が身を振り返つて、又、改めて一首を読み返してみると、形、姿を変えないままで襲つてくるので、身構え気味になる。貴恵さん、そんなにしからないでくれと、思わず我が身に気付き、極めて現実的に訴えてくるのである。文字通り文学国語の「感情移入」の響きを伴つてくる。私の中身はこじえたまゝだと、主張するあたりが、現実の社会に向けられてくる。自分の周辺に、苛立ち、反信・裏切り、逆襲、反撃を加えてざまあ見ろと、心中を証し、叫びたい事象が余りにも多いことに気付く。しかし、落胆、絶望に墮ちず、起きあがる力は、天とのもの、才知と才能、気力と胆力が最後に

勝利する。私の各位のうたの鑑賞は、勝手気儘で申し訳ないとと思うが、貴恵さんの作品には、奥深い期待を込めて、若々しいエネルギーを我々に与えてもらいたいと思う。

○ 喜寿を越え道を振り返る頃合いに生きづらい日々を笑えるように

作者は攻撃的表現形式を使つて、人間の深層に迫り、瞬発力を放つ一首が豊富である。かくも鮮明に対象をつかみ、くだき、えぐり出し、真実に迫る技法に、私は脱帽である。喜寿の年を選んで未来を想定し、笑つて過去を振り返る姿を想像する。人生に自信を持ち、楽観的、希望的に対象をとらえ、思索する人でない限り、かかる思考は不可能である。

○ 光明を探してやまぬこの日々を打ち碎か
ねば夏は来るまい

昭 経 俳 壇

三 郎

獅子舞のあとに二人の子が続
き

笛鳴きのたどたどしさや孫二人

テレビより吾子の陽気な初笑ひ

十字架に立冬の陽のやわらかき

勢ぞろひまゆ玉静かに揺れてをり

仰ぎ見る富士の高嶺や初ひかり

くもりなき心と同じ今朝の富士

ダニー・ケイ映画のホワイトクリスマス

悟 風

太平の世は明けにけり初明り

忘れたきことは忘れず忘年会

ひいらぎの知らずに咲きて匂ひけり

消して灯を皆覚めている除夜の鐘

やれることやるだけやつて大晦日

冬の蝶豊廊下に影落とし

何もかも良くなる気配初詣

芒原虚子のうしろに蹤いて行く

去年今年株価上昇見立てかな

柴又の寅さん消える煤払

猿の目を気にかけている猿廻し

京に降る北山しぐれ茶室越し

桂林の山紫水明寒満月

指折りて五七五とす初句会

表札の夫婦別姓日脚伸ぶ

京子

剣太郎

おのづから口に念佛去年今年

比叡山雪路を千日回峰行

寒昂人生誤算つきまとう

丑三つの山の湯の隅雪女

生かされることの嬉しく福寿草

二日はや箱根駅伝はじまりぬ

長谷川

空の色澄み定まりて菊薫る
供華の菊聞き仏の灯になじむ

温暖化彩の褪せたる紅葉かな
哲学の径の逍遙紅葉散る

東山ねねも眺めし紅葉かな
醍醐寺の残りの紅葉惜しみけり
晩菊に一人住ひの写経かな

初時雨はらから遠く住み古りて

尼寺に人影もなし神無月

富貴男

長崎の港に雨の夜鷹蕪麦
狩終えて鬼一匹阿蘇の宿
職搜す青年の列降誕祭
友人の便りうれしき古稀の春
めでたさや古稀と年賀の重ね膳
初鴉夢の続きと又寝入る
串本へ連絡船や初霞

座禅組む島の影絵の冬障子

幼稚園に父のサンタが集まりし

蓬菜を飾る旧家の門構え

山人

蓬菜に威儀を正してあがりけり

暴落にふてくされ寝る玉子酒

玄関に得意然たる飾り日

熟睡は菊正宗に蕎麦湯かな

どんぐり

冬立つや百姓名刺の骨休め

番台の親爺は鼻歌着ぶくれて

潮騒を遠くに鮫鱗の吊るし切り

麦を蒔く男体山のふもとにて

社会鍋三越前の人往き来

田舎よりみやげに如何がと山牛蒡

頭領が先づ箸を入れ祝ひ膳

冬耕のあとにさびしや牛一頭

後記隨想

佐々木誠吾

誕生日会

10月4日に、われら家族一同と親戚が集まつて、目黒の香港園で皆の誕生日を祝つてにぎやかに行われた。企画したのは娘の明子である。日ごろ超多忙な仕事の現場を淀みなくこなしていよいよを見て、今日の催しを恐縮して、感謝しながら家内と一緒に家を出た。12時半からの祝宴である。一応、9月から12月までに生まれた人を対象に一括して、お祝いするという建て前である。該当者が当日八名に及んで、縁起よく、末広がりでめでたい話ともなつた。出席者に孫たちがにぎやかに加わっている上、女の子ばかりだったので会場の雰囲気は可愛らしく賑やかであり、席は自然と華やいだものとなつた。このところ野暮用に追われて不自然

な状態を感じている小生だが、久しぶりの昼からの酒によつて、むしろ好調な気分で騒ぐことが出来た。と云うのも、10月4日が小生の誕生日なので、文字通りこの日の主賓役を務める次第であったが、さりとて別に格式張つたことも強いられず、香氣に淡々と若者と子供たちの仲間入りをして飲食を楽しむことが出来た。おじさんはいくつになつたのと姪に訊かれて38才と答えて知らんぷりしていたのである。先だつても、日本印刷の吉永君が原稿を取りに来たときに、誕生日の話になつて、僕は「一体いくつぐらいに見えるかね」と聞いたところ、真剣になって小生をじつと見つめていたあと、「五十年代中ごろですか」と云うので、「實に鋭い觀察力だね、当たらずとも遠からずだ」と云つたのである。そばで聞いていた職員が、ニヤニヤしながら笑つていた。人間、気持ちの持ちようで表情はどうにでも変わるものだというのが、小生の若い時からの信念である。正解に

近い吉永君に感謝して、又働く意欲がわいてきたのである。

誕生会の祝宴は大きな丸テーブルを囲んで、いろいろな料理があんさんで出てきた。気前いい明子が主宰するものだから、景気づけにビルが弾む。弟の和ちゃんは鎌倉に住んでいるが、隣の席だったので話が弾んだ。つい昔の話に話題が及んで、いろいろなことが懐かしく思い出された。そこで二人の会話が、みんなの参考になつて、小学生ながら受験に臨む孫もいたりしたので、参考のつもりで話を交わし合つていた。しかし話し合つているうちに、胸にジーンとくるものがあつた。单なる思い出話ではない。いかにして生きていくかと云う、少年時代に真剣になつて体験した貴重な話であつたからである。僕らの小さい時には腹をすかしながら疎開先を転々として、いかに勉強に打ち込んでいったか、一寸の光陰軽んづべからずだといふことになつて、二人の学校時代に触れた思い

出話に花が咲いた。二人はたまたま小学校は地元の浅草富士小学校に通つており、私が2年生の時に親もとを離れ水戸に疎開した。弟も一緒にきて、親戚に預けられた。

当時は学校ぐるみで行つた集団疎開と、個人的に縁者を頼つて行つていた縁故疎開と云う形で行われていた。私はたまたま父の兄弟が水戸で松藤と云う百貨店を經營していたので、米軍の空襲を逃れるための疎開先として、其処を頼りに家族がその後世話になるようになつた。疎開してからも転校が重なつて、小学校はほとんど通わなかつたも同然である。だからその当時の思い出はないし、語りたくもない。東海鹿島灘が近かつたために、沖合に来た米艦からの艦砲射撃、機銃掃射、空襲などに会い、とどめは水戸市をB29が夜間に飛来して焼夷弾を雨あられの如く落とした。その炎の延焼のなかを一目散に逃げたのである。そして敗戦だ。九死に一生を得て、悲惨な戦争を終え、廃墟の敗

戦を迎えた。そのため水戸からさらに奥地に疎開していくことになり、袋田、大子と云つた過疎地にまで居宅を変えて行つた。少年時代だから行く先々でいろいろな経験を積むことが出来ていい面もあつたかもしれないが、一つ一つ鮮明に思い出すことはない。

戦後、朝鮮に帰国するという人から六反歩の田畠を父が買つて、水戸から三里ほどの在にある飯田村に住み百姓を始めた。コメを食べるための父の思い切つた知恵であつた。母と我々四人兄弟が、不慣れな百姓生活を始めた。父は我々を残して、一足先に東京に戻つていった。この百姓生活から、この村の芳野小学校に弟と通うことになった。事情があつて私は三年後の夏に一面焼け野原となつた浅草に戻つてきて、父と一緒に生活を始めた。芳野村小学校で、将校帰りの若い教師の学習指導に反対してストライキを起こし、クラス全員で授業をボイコットする事件が起きた。今でいう体罰なんていう

ものではなかつた。厳しい教練と、厳格な叱責であつた。軍隊生活を将校として加わつて、戦後間もなく除隊して教師についた。筋金入りの血氣溢れる教師であつた。叱責は気を付けに従い、歯を食いしばるように命じられると、いきなり右の鉄拳が生徒の顔面の頬に飛んだ。小さい体は左にすつ飛んで倒れた。しかし生徒はすぐ立ち上がるよう命じられた。大きなあざを作つた生徒もいた。こんな場面が数回、我々の目前で平然と行われた。犠牲になつた友達は、その後ショックで体の不調を訴えるものもいたが、昔から権威に弱い風潮があつたりして泣き寝入りだつた。僅かしかいなほかの教師も、見て見ぬふりだつた。村の者たちも振り向くこともなかつた。

戦時中の考え方も残つていて、軍人さんとか、役人さんとか、先生のやることはすべて正しいと、信じ切つていていたからである。失礼ながら、親御さんたちの意識が低いこともあつた。これ

に抵抗して小学校四年の生徒たちが自主的に立ち上がって、問題解決に取り組んだのである。授業放棄のストライキを起こしたのである。前日にクラス討論会を開いて、衆議一決した。教育の現場では、神国日本の復活を心から信じきつて、若者ははやる思想をいまだ払しょくしきれなかつたのである。翌日登校した朝から、黒板に暴力反対、軍国主義反対と大きく白墨で書き残して教室を出て、裏門から数キロ離れた戸田村のため池まで逃げたのである。弁当だけはそれぞれが持つて出た。子供ながらに勇気のいつた決断であった。真剣に熟慮した結果であつた。終日校外で様々な経験を積んで、夕方私たちは全員無事に教室に戻ってきた。そして覚悟の上ではあつたが、事態は思わぬ展開となつていた。父兄が学校に呼び出され、教師らとの話し合いが行われていた。我々は、放課後の時間として教室に残るように指示された。呼び出された父兄たちは校長室に集まり、教師と父兄の

間で話し合いがなされていたはずである。小一時間ほどたつてから教師は教室に姿を現した。終始無言で教壇に直立姿勢で立っていた。我々も全員がたたされたまま立つていたが、無言で不動の姿勢を取つたまま立つていたが、静かに首謀者は誰だと静かに口を開いた。波を打つたように教室は静かだつた。誰も告げようとはしなかつた。小さな貧しい小学校である。四十人ほどの小さな男子クラスである。確かに私がその頃の級長をしていたはずである。共同決議で決心して行つた行為だから、全員が首謀者だというお互いの意識があつたのである。しばらく時間と、動きが止まつていたようであつた。そのじまを破つて自分が前に進んで出た。

当然の行動である。貧しい服装は泥だらけであつた。教育の場から暴力を締め出すことが目的だったから、やましい思いは全くなかつた。だから生徒たちの主張は単純に暴力反対、軍国主義反対だったのである。予想はしていたかもしけれ

ないが、教師はまさかといった表情をして私をじつと睨みつけていた。自分も、氣を付けの姿勢を命令され、そのあと鉄拳が飛ぶことを覚悟して口を堅くつぐんでいた。殴れるものなら受け立つと無抵抗主義で立ち向かっていた。腹は減っているし、普段ろくなものしか食べていないので痩せこけている。それに持病のぜんそくである。歴史に登場してきたガンジーの思想は力があった。夏場の長い昼間の明かりが暗くなつてきて、外から不安そうに教室のなかを覗く父兄の姿があつた。窓の外の下は、沢山の草花が植えてある花壇である。又長い時間が過ぎて行つた。月の光が教室の窓から差し込んできたのが唯一の慰めであった。怒りに満ちて対立していた雰囲気が、わずかに緩んできた。教師の高ぶつた意識も、和らいできたようである。

日本、軍国日本の塊であつた。完膚なきまでに打ちのめされ、悲惨な結末を齎した戦争の反省に立つどころではなかつたのである。再び軍神日本の復活の日を夢見て、純粹に本気になつて考へていたことであつた。教師の神国日本の再起を期す信念が、教育の現場から自分の持つ精神を子供たちに植え付けてたたき上げようとする信念を持つた教師が、まだそこにあることが、問題であった。小さいながらも、貴重な経験を積んだ子供の考えが、其処にあつた。あとで分かつたことであるが、この熱血漢の若い教師と立ち向かって、お袋が生徒の行動を良しとして、世の中が変わつていること、教育の教えも変わつていかなければならぬことを諄々と説くようにして話しあつたそ�である。

わたしは短い文の中で一気呵成に初めて當時のことをしゃべりまくつたが、こうして公にしたのは初めてである。生徒の誰一人として、あの事件について今まで余り口に出して語る

ことはなかつたのである。そのことを不思議に思つてゐる。戦後幾度どなく、いろいろなどころで自らの主張を通すための手段にストライキが使われてきた。学生運動もそうであつた。しかし戦後間もなく、小学校四年の生徒が、素朴ながら軍国主義反対を叫んで授業ボイコットをして教師に立ち向かつたことは、混乱の戦後の歴史に明白に残されてもいいと思つてゐる。しかも小学校四年生の時だから、なおさらである。小学校時代は学校を転々として落ち着いて勉強するどころではなかつた。兄の兄弟はいつも学徒動員に駆り出されて、ようやく落ち着いたと思っていたら、三里先までの水戸までゲートルを巻いて茨城中学、水戸商業へ大方は徒步で出かけていた。辺鄙で貧乏な村だから致し方ないが、バスは出たりでなかつたりしていところである。私と弟は、飯田の我が家から芳野村小学校まで、自分で編んだ草鞋を得意げに履いて通つていたが、学校はその後廃校になつ

て平屋建ての校舎は取り壊された。もはや思い出のあの時の姿は見ることが出来ない。私的に資金を出して保存しておきべきだと、今になって思つてゐる。ただしあの時の芳野村小学校での出来事は小さなことかもしれないが、戦後日本を象徴する出来事として意義深く、私の記憶の中に息づいていることである。心の中では日本を動かした大事件だと、その意味を自分なりに評価して、何かの折にはいつも回想して自分を鼓舞しているのである。

授業ボイコットのストライキ事件を起こして、自分の周りの雰囲気は、それとなく感じ取つてゐた。早くこの地を去るべきだと自分なりに思つてゐた。生徒たちを不穏な行動に扇動したとして、私が表沙汰になつていくようであつた。学校はもとより村全体が、こうした騒ぎを起こしたことに神経をとがらした。あの時、聰明な母は我々を擁護して、その若い血氣盛んな教師に立ち会つて話し合つた。その態度は不動

の富士山を思わしめるに十分で、自分で云うのもおこがましいが立派な母の態度であった。母は責任も感じて、お前は一足先に東京へ帰れと私に云いつけた。このまま私が村にいることは私にとつて良い結果を齎さないと判断したのである。しかし母は、私の行なつたことについて咎めることはなかつた。正しいとは言わないが、悪いことはしていないと確信があつたからである。その時のお袋の胸の思いを考えると、いつも考え無量の心境になるのである。敢えて小学校時代のこと回想してみたのも瞬時であつたが、弟の和ちゃんがいたこと、小学生になる孫たちがいて、中学受験で目を丸くした毎日を送つていること、そんなことが重なつて、飲まず食わずで過ごして勉強どころではなかつたことを引き合いにだし、そんなに勉強に血眼になる必要もなく鷹揚に過ごすことも大事だということを云いたかつたのである。そして思い切り遊びまくつて、少年少女時代を朗

らかに過ごすことも長い人生では大切なことを云いたかつたのである。

上京して富士小学校に再入学した。その後遅れて弟も東京に帰つてきた。百姓を三年間続けて家族がみんな一緒に東京へ帰ることが出来た。百姓の生活をしたこととは、とても有意義であつた。弟とは中学校が早稲田中学で一緒だつた。小生はこの時、学業成績は低空飛行でいつも嫌な思いをしていたので、思い切つて学校を変えて高等学院の受験に挑戦して新天地を求めていった。しかし弟の和ちゃんは学業成績の結果がいつも素晴らしいかった。兄弟でありながらどうしてこうも違うのかと自分で疑問に思つたくらいである。全校学年別の試験でいつも上位五本の指に入つていて、兄貴としても自慢の弟であつた。だから彼はそのまま高校に進み東大をめざし法学部に進み、目的を成就し、社会に出てからも出世街道を篤進することになつていった。

名門の大商社に入りロンドンなどを廻つて重責に就いたが、抜擢されてサウジ石油の社長に就任、業績を拡大して功績を収めた。商社マンとは云いながら、温厚な性格と善良な人柄が慕われて、優秀な部下に恵まれて行つた。サウジアラビアは特殊な国柄であつて、国柄はもとより、個人的な人柄から能力、人脈、出身まで精査する厳しい国柄である。ましてやサウジの王様と親交を深めることは、至難の業であるらしい。学生時代から東大の誦曲のクラブに所属し今以て師範の力量である。しかし、あくまで趣味の域を出す、近所の人たちに時折無料で教えているそのうである。この文化的、伝統的芸能が王様に気に入られて披露したりしたそどうである。サウジ石油の会長の後顧問を務め、退任後は推されて大商社の社長にもなれるはずであつたが固辞し、教育こそが日本の発展の基礎であり原動力であるとし、懇請されて、静岡理工科大学の理事長に就き商社的感覚を以て経

営に臨み、大学を大きく発展させていった。話がそれてしまつたが、学業時代を振り返れば、順風満帆の道は、もちろんそれなりに努力していたことであり、結果であつた。弟から「あの時の誠ちゃんの学校を変えた決断は正しかつたね」と云うこと席上初めて聞いて、ぐつと胸にくるものがあった。やはり弟は少年ながら、あの時はそう評価していくくれたかと感銘深く思ったのである。「それじやお父さんさんはその頃どうだったの」と娘が尋ねたのである。自慢するほどのこともないが、思い切つて学校を変えようと云う私の思惑は的中した。思惑は、決して思惑ではなかつた。水を得た魚のように、自分の気持ちを十分に發揮して、悔いのない学業時代を真剣に、愉快に充実して過ごすことが出来たのである。高等学院は、聞くところの旧制の専門学校のような雰囲気であつた。教室に見える教師は皆大学から派遣されてきた。レベルの高い教授陣であつて、豊かな学問・知識に

恵まれた授業に浴することが出来た。たとえばその道の権威、文芸評論家の浅見淵先生、哲学者の樺山欽四郎教授など、優れて雲の上の存在のような人物であつたが、親しくその教鞭に浴することが出来た。当時のことを書きだしたら学徒青春のペンが止まらなくなつて、湧水のように出て来る。それほどに青春時代の思いでの我が高等学院は、ジャンクリストフの思いと同様に希望と憧憬の学舎であつた。負け惜しみではないが、東大に行かなくて良かったと思つてゐるところである。と云うのは、おそらく月並みなサラリーマンになつて首尾よく定年を迎える、隠遁生活みたいな惰性に走り、金なんてもそ食らえとばかりにしやれ込んで、晴耕雨読には程遠くぶらぶらした毎日を過ごし、早くから足腰を痛め、挙句に認知症状になり・・・なんて想像したりするとじつとしていたれなくなるからである。群れに入るの仕方がないとしても、群れにおぼれて自分自身を見失うこ

ところそ恐ろしいものはない。そんな時に、何かあつたりすると、実存哲学者の樺山欽四郎・老教授の姿が浮かんできて、早熟だつた福井と二人で受けた時の授業を思い浮かべるのである。福井はその後母校の文学部教授になつたらしいが、どうしたかなあと思つてゐる。

(次号に続)

10月4日

日本の新聞をにぎわした快挙

(TPPの妥結と、ノーベル医学生理学賞)

10月6日の新聞各紙の一面をにぎわした記事は、TPP（環太平洋パートナーシップ）協議の合意と、日本人のノーベル賞受賞の朗報である。

環太平洋経済連携協定、別名、TPP交渉が10月5日、米アトランタで開催中の参加12の関係国・閣僚会合で合意にこぎ着けた。5年半に及ぶ協議であつたが、お互いに互譲の精神を發揮して粘り強く協議に臨んだ結果であり、名実ともに国内総生産（GDP）で世界の四割を占める巨大経済圏が、アジア太平洋地域に生まれることになった。世界歴史に刻む快挙であり、現実の世界に及ぼす影響には限りないものがある。これに依つて国内において当面かつ、傾向的問題（少子高齢化と人口減少、国内の経済活動の縮小）を抱える日本の経済的活路が一

方で見いだされたものとして、大いなる希望を持つて海外に飛躍し、内外ともに活性化した経済活動の可能性を求めていけることが出来るようになつた。日本が参加を表明して2年半、政府並びに各省庁の努力と尽力に敬意を表したい。甘利経済産業大臣の日夜の奮闘にも敬意を表したい。誠に「苦労様であつた」。

協定は、日本のみならずアジア太平洋地域の将来にとつて大きな発展と成果をもたらすもので、その成果と果実は、関係国とその国民に等しく享受されるものである。協定は又、強固にして確固たる平和連携の地域拡大につながり、無益な紛争の除去に供するものの大である。そうした意味で、安全保障上、極めて重要な要素も持つてゐることを認識すべきである。経済でがつちりと、お互いが連携されているから切り離しようがない」とになる。そのいい例が、戦争と対立、混乱を続けていたヨーロッパにEUが誕生したことである。関税撤廃の自由貿易

拡大は、モノ、ヒト、カネの交流に限らない。

モノの貿易に限らず、資本投資、知的財産、環境、労働など幅広い分野に広がりを以て、21世紀の経済活動を拡大していくルールを構築につながるものである。無論、各国にはメリット、デメリットがあることは言うまでもない。だからこそ交渉の過程で各国の互譲の精神が發揮されたのであり、妥協と歩み寄りが出来たわけである。

国内の凸凹は、各国の努力によって早晚修正されながら漸次、地ならしが出来て収束し、更に経済圏と参加国の発展の道を互いに享受できるものとなるはずである。日本の農業、酪業は、ものすごい風雪に向かっていくだろうが、重要五品目の米、麦、乳製品、牛、豚肉等があるが、政策的にカバーし、そのうち農業分野においては、外国には真似のできない独特、且つ高品質な商品を以て競争力をつけていくことであろう。日本の食料品に対する外国からの評

価は、質と安全性を含め実に高いものがある。日本の集約的農耕には、外国人の追随を許さぬものを持っている。日本独自の製品を開発して、国際競争力をつけて市場に挑戦していく意欲が繊細で器用な日本人の、農業専従者の資質に潜在的にあると信じている。

妥協と互譲精神を發揮して土壇場までもつれあいながら、最終的に決着したことは人間の英知の勝利であり、歴史的快挙であった。12か国の連携で生まれることになった巨大な経済圏は、ゆるぎない結束のもと、新たな平和的共同体を太平洋地域に構築し、経済的繁栄に向かって進んでいくことが出来、もろ手を挙げて祝福賛辞したい。

ノーベル医学生理学賞に大村智氏

北里大学特別名譽教授大村智氏がノーベル医学生理学賞を受賞した。八十歳のかくしやくとした現役教授である。授賞の栄誉を称え、心から慶祝申し上げる。

説明によると、授賞の対象となつたのは寄生虫病の治療薬（イベルメクチン）開発である。

大村教授は、この治療薬のもとになつた物質を発見した。その物質の化学構造を変えて応用したのが、治療薬のイベルクメチニンである。その名を河川盲目症と云う。アフリカや中南米などの熱帯地方で流行し、猛威を振るつてゐる難病で、寄生虫病の感染症で広がりやすい。患者の24割が失明すると云う恐ろしい病気であるが、イベルメクチンは、その難病の特効薬として画期的な効果を發揮し、今日において広く治療に供されているものである。教授はマラリアの治療に関する原始材料を、土壤の中の微生物

から発見し、其処から新たな化合物を発見して治療に有効な薬品の開発にまでの道筋をつけたのである。医学に係わる研究成果は、医薬会社と深くかかわつてくるので、特許料もかさんで莫大な金額で取引されると聞くが、大村さんはそうした収入を世のため人のために惜しみなく、広く公の活用に使つていいといわれる。人柄の推して知るべしである。

この治療薬は感染症に苦しむアフリカの貧しい地域で、年間3億人の人々に使われて、患者を失明から救つてゐるのである。なんと素晴らしい人類社会への貢献度であろうか。大村さんは「研究者になつても、どうしたら世の中の為、人のためになるかなと考へてきた」という。教授がアフリカの訪問先のガーナで子供たちに囲まれて笑つてゐる写真が、今朝の日本経済新聞の二面に載つていた。その時の子供たちの笑顔は、その目は、皆今日の青い秋空を仰ぐように澄んで、明るく光つてゐた。この一枚

の写真で、教授の受賞はもう一つ、ノーベル平和賞である。

身近な事例を以て人類に貢献する医学の道を、情熱を以て地道に切り開いていく教授の姿こそ尊敬に値するものはない。われわれ日本人が、そして人類が誇りとすべき朗報を、お互に喜び合いたい。

10月6日

文化の日

11月3日は文化の日である。穏やかな晩秋の日差しに恵まれて、絶好の行楽日和となつた。この時期は七十二候でも、楓葉黄と云う。「もみじつたきばむ」と読むが、季節は冬が迫つて木々の一葉ひとはが黄色や紅色に染まつていく風情の頃である。この日は、1946年、昭和21年に日本国憲法が公布された日で、戦争と悲劇を体験した国民が、眞に平和と文化を

重視して再建に取り組む姿勢を内外に示した記念すべき日であり、2年後に定められた国民の祝日である。画期的であり、文字通り世界に冠たる平和的、文化的憲法の神髄を示したものとして誇るべきものがある。心から祝福したい。テレビニュースを見ていたらこの日、マレーシアのクアラルンプールで加盟10ヶ国からなる東南アジア諸国連合の国防会議が開かれた。最近中国がしきりと南沙諸島の岩礁の領有権を主張して埋め立て工事を進め来ている。そして案の定、12カイリの領海を主張してフィリピンやベトナムと対立して小規模の衝突を繰り返してきている。エスカレートして緊迫の度を高めてきているが、会議では中国の海洋進出に警戒を強める国々が多く、軍事的に偶発的な衝突も懸念されている。日本も他人ごとではないということで、最近は安保法改正の論議を待つまでもなく、周辺も俄かに備だしさを禁じ得ない状況である。そこでアメリカも面子に

かけて、中国に待つたをかけてきた。アメリカは中国が主張する造成した島の12海里主張の既成事実化を阻止すべく、イージス艦をその海域に派遣して国際法違反だとして中国を軍事的に牽制している。これに中国は猛反発しているが、お互いに自制してにらみ合いと云つた状況である。冷静に対応しているといった方が良いようである。もつとも新鋭兵器を装備したアメリカのイージス艦には、中国といえども到底太刀打ちできないことは中国自身がよく知つてのことである。迂闊に手出しをすることはできない。アメリカが軍事的力に優勢に立つて中国をけん制し、中国の暴走を不可能にする点で地域の安定に尽くしていることは明らかである。

東南アジア諸国の意見も国によつて見方が違つてきていて。フィリピンやベトナムは中国と対立しているが、ラオス、ミャンマー、カンボジアなどは態度を保留しており、他は中国と

の関係が密接なこともあつて中国寄りである。核心的なところは、やはり米・中の対立構造である。この地域が第二のシリアになつてはならぬので、アジア諸国連盟は、目先にとらわれて失策のように賢明な協議と対応が求められる。この日にはアメリカ国防省のカーター長官と、中国国防省の常万全国防相が会談を行つて打開策を講じているところである。険悪な状態ではないが、早く事態の収束策を講じてもらいたい。今の東南アジア諸国もそうであるが、世界の問題は経済一点に絞られている。折しも日・中・韓の首脳会談も成就されて日韓関係の改善が期待されているところである。流れに逆らつて、南沙諸島で下らぬ軍事衝突を惹起せしめるような時局ではない。中国はもつと経済に主力を注いで、日米との経済促進を図らないと、減速はますますマイナス方向の展開となつて、国益に反すること多大である。

先月の中秋の名月が過ぎて、紺青(こんじよ)うの空にかかる十五夜を眺めながら、盛んに鳴く秋の虫の音を聞く夜が、その後も続いた。久しぶりに秋の夜を落ち着いて楽しむことが出来た。明けて先日の日曜の朝、拙宅に出入りの庭師がやつてきて、11月3日の文化の日に庭に入りたいと伝えてきた。まだ先になるが、休日なので合点だと云わんばかりに即答した。そんなことがあって、約束通り文化の日に、拙宅の庭に植木屋が入った。大木造園の親方と若い弟子の2人が作業服を身に着けて、ともかく粋な出で立ちで朝早く見えた。教会に見える金城さんの紹介で、3年前から拙宅の庭に見て植栽した樹木の手入れをしてもらっている。癖がなく人柄のよい人で安心している。一般的に仕事人とか職方衆と云うと、とかく職人気

質を以て、寡黙(かもく)で無愛想で一本気な人をつい連想してしまうが、使われている人はどちらかくとして、親方となるとさすがに苦勞人だけあって人当たりはいい。いい人に当たれば、安心して仕事をお願ひできるということにもなる。家に出入りする職方と云うことで親しみも大事であるから、そうした面で兎に角神経を配ることにもなる。教会で家内が親しくしていれる金城さんの紹介で来た植木屋の親方は、全体に明るく人柄もやさしく、一目で信頼できる人とお見受けした。その時以来、庭の仕事についてはお任せしてお世話になつてている。一軒家で所帯を構えたりしていると付き合いやら、維持管理があつたりして、きちんとした職方、仕事師がどうしても必要になつてくる。1人で生活しているとしたら大間違いで、いろいろな人の手助けがある。だから家に出入りする職方衆には、いろいろな仕事師が居る。植木屋さんに限らず、家に出入りする大工さん、電気、水道な

ども然り、信頼できる人間関係が大切なことは言うまでもない。

約束した日に雨が降らなければいいがと思つていていたが、11月3日は、期待通りに秋晴れの穏やかな日和となつた。庭師にとつては絶好の仕事日和である。朝早く、軽トラックに乗つて颯爽と見えた。親方は子分一人を連れてきている。瀬宅では贅沢に凝つた植木があるわけではないので、余り面倒な作業にはならないはずである。紺地の腹掛けをまき、脚絆をしめて青縞の地下足袋を履いて、同じく紺地の鉢巻を絞つて頭に結べば、出で立ちは十分である。剪定（せんてい）ばさみを腰元に差し、梯子とアルミ三脚を庭に持ち込んで、全体を見回した後、作業に取り掛かった。低い植え込みから剪定をはじめるとパチン・パチンという剪定鉄の音が小気味よく聞こえてくる。多少の枝は小さいのこぎりで切り落としながら形を整えていく。自分の背丈より高い樹になると、素早く梯子を移動

して、適当に枝を払いながら見るからに手際が良い。別に外郭を見ながらやつてているわけではないのに、いつのまにかすつきりとした形に仕上がっていくから、植木師の感覚には素晴らしいものがあると思つてしまふ眺めていた。梯子から降りると自分のやつた仕事を確かめながら、幾分距離を置いて植栽の全体像をじっと見て、納得がいくと次の植栽に移つていく。美的感覚を發揮している様子が仕事のしていく様子で分かる。庭師の無言で成し遂げていく業の結果を見て、熟練の度合いがはつきりした。切り落とした枝は、下に敷いた青シートの上に落とし、地面に降りた時には、それをすぐさまくるめて、車の荷台に運び込んでいく。散らかしながらやつていると、あとの掃除に厄介だからである。手際よい仕事運びであり、さすがに無駄がない。七つ道具がまんべんなく揃つて、適宜使い分けながらやつてている結果でもある。我々素人では、太刀打ちできない。

拙宅では庭の一部を割いて、庭畠としてわずかばかりの菜園を楽しんでいる。これはむしろ贅沢な趣味である。上を見ればきりがないが贅を尽くした本格的な庭園だつたら、そんな泥臭いことはできない。従つて、もともと贅沢で高価な植木は植えていない。もっぱら雑木と称するものである。松に至つては手入れが肝心で、松の一本一本を指で細かく分けむしりて摘んでいくようなものだから、見ていても飽きが来るくらいである。職人にとっては結構辛抱が居ることだろう。松を一本植えても、あるじとしても目が離せない。その手入れの仕方は植木屋の腕の見せ所であり、遣り甲斐もあるというものが、面倒で手間の掛かる相手である。一本の松だけで2日はかかることがあるらしい。香氣に、根気よくやつていないと、松の手入ればかりは別だと云われている。

木斛(もつごく)の樹にしても同様で、剪定は葉の一枚一枚扱つていくようである。幸いと云

うべきか、拙宅の庭にはそうした手のかかる植栽はないので、豪胆に切つたり伐採したり、大して神經を使わずに済んでいる。今回も五十年は生きてきているだろう桜の木の枝を大胆に払つてもらうことにした。広く貼つた枝は、庭に広く日かけを作つてほかの樹木に影響が出てきていること、目にもうつとうしい感じがしきでいること、桜の花を楽しむ時期は格別なのだが、虫がついたりしたときは駆除に大変なことなどから、太い横枝を切り落としてもらうことにした。仕事師の巧みな所作と、豪快に切り落とすの眺めていたのである。三脚脚立を桜の樹木に寄せて親方がロープを体に巻きつけて、木に登つていった。左腕に電気のごぎりを抱えている。桜の木は五メートル先から大きく二枝に分かれて伸びている。太いところで直径四十センチはあるだろう。体を幹に寄せ付けて体に巻きつけたロープを外して一方の枝に巻きつけて支えとし、伐り落とす片方の幹に巻

いて切った後にそのまま地面に落ちないよう、別の木の枝に吊る仕掛けに括つたのである。切り落とす時に幹が弾まないよう、そこから生えている枝はみんな切り落とした。習いを定めて電のこぎりの歯を当てた。スイッチが入りのこぎりがうなり声をあげながら樹に食い込んでいった。九分通りきり終わると仕上げに手のこぎりで切り落とした。太い幹はロープに支えられて宙ぶらりんとなつたまま静かに地面に寝かされた。こうして次々と太い枝が電気のこぎりの圧倒的な力の前に屈して、地面に山積みに寝かされた。すごい量である。あとには太い幹が一本、涼しげにたつて、天空には青空が広々として光っていた。

幹のてっ�んには、わずかに葉のついた枝が小さな房のような形で残されていた。このわづかな枝が来年の春になると、桜の樹木が水を吸い上げ力となって、又呼吸をし始めて生き返るというのである。このわづかな枝を残しておか

ないと、水を吸い上げることが出来なくなつて、木は死んでしまうことであった。なるほど理にかなつた説明だと、親方の話を聞いて領いていたのである。この力のいる、技術を要した作業を、親方一人でやりのけてしまつたのは驚いたのである。弟子は黙々として地べたの植木を刈り込んでいたが、時折、親方の指示が飛んで、それに従つてわずかに動くのみで、このこうした大仕事にはほとんど手を貸すようなことはなかつた。やはり熟練を必要とする作業があつて、そうした時には親方自身が先頭に立つて、ある時には自分でこなしていくときもあることが分かつた。下手をして弟子が怪我もされたら一大事だからである。今回は、こうして全体に庭の繁茂した樹木を全て丈を短くしてもらつたがゆえに、庭が明るくなり広々とした感じに早変わりして、我々の気持ちもすつきりしたのである。親方が笑いながら、茗荷が沢山出ていますよ、秋みようがですね、と云わ

れて、妻がここにこしながら早速さるを持つて
摘みに出てきた。茗荷(みょうが)の畑を刈つた
りしないでよかつたわねと云いながら、秋の収
穫を楽しんでいた。

それにしても季節の巡りは速いものである。
記録的猛暑に悩まされた今年の夏が、人の生活
からすっかり忘れ去られている。貰う手紙には、
早や向寒の候と記されて来ている。そういえば
朝夕の冷え込みが気になつてきて、少しずつ冬
に向かっているのがわかる。異常気象と云つて、
今年の冬は厳しい寒さとなるのだろうか。それ
が地球温暖化の改善に役立つものなら、これも
また良しとするところだが、大自然の摂理は、
人の勝手に思うようなわけにはいかないらし
い。たとえば近年、縮小しつつある北極の氷河
が大きく元に戻つてくれたりして、自然界のバ
ランスを都合良く保つてほしいものである。そ
れには巨大になりすぎた自然への、人間の作為

による過度な干渉でを排除していく知恵が必
要がある。

いつのまに寒さ覚えて山茶花の咲きてこぼ
れる頃となりけり

11月3日

一本の大根

帰宅後風呂から上がつた私に「おいしそうな大根でしょ、こんな大きな大根が何と百円よ」と家内が台所から見えて得意そうに話しかけてきた。まつ白なみずみずしい大根を持ち上げてみせていく。太くて長く、見るからに立派である。確かに眼が覚めるような大根だ。しかもたつた百円か。「そこまで大きくするのは大変だなあ」と、思わずため息をついた。一本の大根を見て、大根づくりに精を出す農家の苦勞がしみじみと湧いてきたのである。丹念に畑を耕し肥料をやり、種をまき土を寄せ、暑さ寒さの気候に堪えて、労働を通じた体力の消耗も大きいにあるだろう。小さい時に疎開先で百姓をした経験がある私にとって、土を相手に働く農家の苦勞がすぐに浮かんできた。勿論当時と違つて、今は農業技術の近代化が普及して、特段の進歩を遂げている今日、比較にならない生産性

の高さを誇つているものの、大地を相手に働く農家の人の気持ちは一緒であろう。昔も今も、大根には変わりがないからである。

収穫時を迎えて大根を抜く作業、綺麗に洗つたりして出荷するまでの作業は一貫して大変な労働である。多くの時間を割き、労力を使い、流通機構に乗せて市場に出荷するわけである。わずかな庭畑を耕して四季折々の野菜の収穫を楽しんでいる自分だからこそ、大根一本にかけた農家の人の苦労のほどが分かるのかもしれない。変などころで何となく自分を誇らしく思ったのである。良い土で、深くまで柔らかなものでないと、大根はこんなに大きく育たない。半年、時には一年をかけた生産者の意気ごみの結晶である。拙宅の庭では、いくら丹念に手入れをしてみても、こんな立派な大根を作ることが出来ない。出来た大根は、しかも一本百円である。自分だったら千円でも売れないと、愛おしく感じて売ることはできない。

一瞬ではあるが、都会の人たちの為、言うなれば多くの消費者のために、新鮮で栄養たっぷり

のおいしい野菜つくりにいそしむ農家の気持ちを、共有するよりも思えたのである。仲買業者を通して、産地から運ばれ、そして消費者の手に渡るわけである。そして今夜の夕食の添え物にも、好物の大根おろしがついてくるはずである。食べ物がおいしく口にはいるまでには、何人の人の手を通して届くわけである。なんと複雑な人間の労力と、物流の過程を通して運ばれてくるのかと思うと、たかが大根一本と軽んじるわけにはいかない。家内が大根を褒めちぎって私に差し出すのも、むべなるかなと思つたのである。多くの人たちのこもった意氣込みを感じないわけにはいかない。だから一本の大根が、斯くも美しく輝いて見えたわけである。しかも百円である。

七五三のお祝い

11月3日は勤労感謝の日で休日である。おかげで三連休となつた。24節気では、この日は小雪に当たる。寒いはずである。この日から急に寒くなつたような感じで、出かけるに際し妻から初めてオーバーを出してもらつた。

朝から曇天模様の日であつたので、終日肌寒い一日となつた。それでも幸いなことに雨となりず、良かつた。この日は孫の麗ちゃんが、7歳になつて七五三のお祝いをする日になつていた。晴れ着姿を着るのを待ち遠しくしていたので、我々も又その喜びの綺麗な姿を見るのも楽しみにしていた。姉の佳ちゃんも一緒に晴れ着姿で出て来るらしい。私の娘の拝借ものである。拝借でも、生きていた母が奮發して作ってくれたものだから、上等品である。着物の生地は、鹿の子の絞りである。

11時に妻と一緒に家を出た。自由が丘から大井町線に乗り大岡山でおりて、そのまま南北線に乗り換え高輪曰金台まで直行、わずか20分足らずで白金台駅に着いた。3番の改札口を抜けて通りに出ると、3分ほどのところに氷川神社がある。幾多の火災に見舞われてきた神社であるが、日本武尊をまつてあるというゆかりのある古い神社である。鳥居をくぐって広い石段を登つていくと、高台にある氷川神社は周辺が高層ビルに囲まれているものの、広い境内であつて、古い大木が沢山茂つていて、静まり返る雰囲気に自ずと厳肅な気持ちを抱かせるものがあつた。広い境内を進むと正面に本殿が厳かに鎮座ましまして。上品で且つ豪壮な趣きの建物である。白金の氷川神社にお参りに来るのは、過去三回ある。お正月と、孫の佳ちやんの七五三のお祝いにもこの氷川神社に來た。だから何となくなじみ深く、親しみを感じるのである。11時少し前についたが、途中で

娘の明子に会つて一緒に境内に入つたが、既に嫁さんのご両親も来ていて、みんながめでたく落ち合えたのである。長岡剣太郎夫妻に会うのも久しぶりである。剣太郎さんは王子製紙の副社長を務めた後、中越ペルプの社長を務めその後に退職して10年近くになるだろうか。悠々自適の身である。健康に恵まれていて、外国旅行に時間を費やして楽しみを持ち、ゴルフにもはげんでいる。俳句の句作にも励んで、句作は既に名匠の域である。昭経俳壇の投句者で同志である。その他、知られざる趣味を沢山持つていて、違ひない。好きな酒を初めとして、誠実で温厚な人柄が、気に合っている。長岡夫妻は極めてシンプルな出で立ちで見えたが、この日は小生らは威儀を正して正装し、初めて出したオーバーを着てこの日はやつてきたのである。このオーバーはいろいろとお世話になつた関根常雄さんが丹念に仕立ててくれたもので小生が大変気に入つていて。さすがに立派な

才能を持った画家だけに、仕事ぶりも個性があつて完璧である。これを着ると小生が「ずーっと若く見えていいわよ」と妻が云うので、今日も若やいだ気持ちで着てきた次第だ。

氷川神社の本殿に案内されて、みんなにが並べられた椅子にそれぞれが腰かけて、神主が現れるのを待つこと一分ほど、恭しく正装した高齢の神主が威儀を正し私たちを神殿中央に迎えてくれた。神主が一同を祓い清めて、重々しく祝詞を告げてくれた。本殿に神主の声が朗々として響いて、素直に聞くことが出来た。難しい言葉が告げられていたが、それをじつと清聴してよく解釈して聴くことが出来た。この日の主役の麗ちゃんは、きれいに着物を着こなして、髪形も可愛らしく結い上げて、髪にはかんざしや飾り物が華やかに付けてあつた。神主が「こちらにいらっしゃい」と云うと、立ち上がりて恥ずかしげに、アヒルが歩くような恰好をしてよちよち歩きをしながら寄つてくる様子に神

主が真似をして、顔を左右に振つて見せて喜んでいる。立ち舞う様子も子供らしく、神主が惚れ込んで、はしゃいでいるようにも見えた。神主には有難く、手厚く丁寧な祝詞をして頂いた。記念撮影には、息子の友人で女子ラクロスの選手で後輩のKさんが付きつきりで写真を撮つていってくれた。神主も親切に、わざわざ本殿の引き戸を開けて下さり恐縮する次第であつた。Kさんは写真のプロだそうである。如何にも好々爺とおぼしき神主は、最後まで笑みを絶やさず「みなさん、お元気でね」とやさしく、温かい言葉を以て結んでくれて私たちを見送つてくださつたのである。時計は1時半を回つていたが、一連の行事は思い出深いものとなつた。そのあと楽しい昼食をとるために、我々一同は近くの白金台の都ホテルの会場に向かつた。多忙の中、お祝いに見えてくれた明子は、この後の会社の仕事のため私たちと別れて、中座して神谷町にあるテレビ東京に出かけて行つた。親

が云うのもおかしいが容姿端麗、利発で、氣立
てのいい娘である。(続) 11月23日

都ホテルは氷川神社を目黒駅方向に行つた
途中にあり、すぐ近くにあつて徒歩でも行ける
ところであった。ちょうど来合させたタクシー
を掴まえて長岡夫婦と一緒に行つたが、息子家
族は自分の車に乗つてホテルに向かつた。娘の
明子が、仕事の都合で途中で帰つてしまつたこ
とが残念に思われた。久しぶりに会つたものだ
から、積もる話もあつたりして楽しく話を聞き
たかつたのである。妻は比較的連絡を取り合つ
てゐるらしいが、私はそうした時間が取れな
くて明子には済まないと思つてゐる。元気では
つらつとした様子を見届けて、安心した。車で
2分足らずの都ホテルは、いつの間にかシェラ
トン都ホテルと名前が変わつてゐた。京都にも
床しい建物で都ホテルがあつたが、それと同じ
系列だから、ひよつとすると京都にもローマ字

で頭に名前が付けられているかもしねれない。雰
囲気としては似つかわしく思えないが、最近は
いたるところでローマ文字が氾濫して、日常生活
になじんできたとはいゝ読みにくい場合も
往々にしてある。そのシェラトン都ホテルは、
ロビーから向かつた正面のラウンジが広々と
しており、ラウンジ全面が日本庭園で埋め尽く
されて、奥深い四季折々の風景を楽しむことが
出来る。隣の人芳園の敷地続きになつてゐるの
で、こんもりとした築山が一段と風情をにじま
せているのが奥ゆかしい。この日は、専ら樹木
の紅葉が鮮やかに楽しむことが出来た。三連休
が穏やかに続く中で、館内は結構な客人でにぎ
わつてゐた。今までにもたびたび立ち寄つて用
を足したりしていたが、いつも落ち着いた
雰囲気があつて、日本らしい雰囲気が生かされ
ていることは結構なことである。

11月2日

謹賀新年

西山御殿の静か在侍まい

徳川光圀公の禮が有ります。

平成二十八年元月

公益財團法人 德川ミュージアム

理事長 德川 高士



太平洋興発株式会社

取締役社長 佐 藤 幹 介

〒110 東京都台東区元浅草二丁目六番七号

電話 ○三一五八三〇一一六〇一
FAX ○三一五八三〇一一六一三
マタイビル六階

株式会社谷口コーポレーション

代表取締役会長

谷 口 八 稔

東京都中央区銀座三丁目7番2号

電話 ○三(三五六四)九四一八
FAX ○三(三五六四)九四一九

弁護士 富 純 司

平和と自由を標榜する会の発展は
世界につながる

税理士 松 下 敏 雄

有限会社 日本橋会計事務所
税理士法人 日本橋税経センター

〒100-0006 千代田区有楽町一の十二の一

新有楽町ビル十階十三号

TEL ○三一三二四一六〇八一

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町三ノ三ノ六
人形町ファーストビルB三階

TEL ○三一三六六二一七七〇一

会員を募集しております

昭和経済会は、昨年、創立八十周年を記念して、各種の啓蒙、啓発活動会員相互の親睦、協力を進め、その職責を活発に進めてきました。その確たる基礎に立ち、会員各位の生活の向上と、企業活動の拡大、充実に寄与し、公益社団法人としての責務を發揮してきました。

公私経済の発展に尽力する当会の趣旨にご賛同いただき、奮ってご参加ください。そして、切磋琢磨して時代の波を乗り切り、チャレンジ精神を發揮して、内外に雄飛されることを望みます。尚、申し込み要綱は事務局に申し付け下さい。

一月一日

公益社団法人 昭和経済会

理事長 佐々木 誠吾

役員一同

会員を募集しております

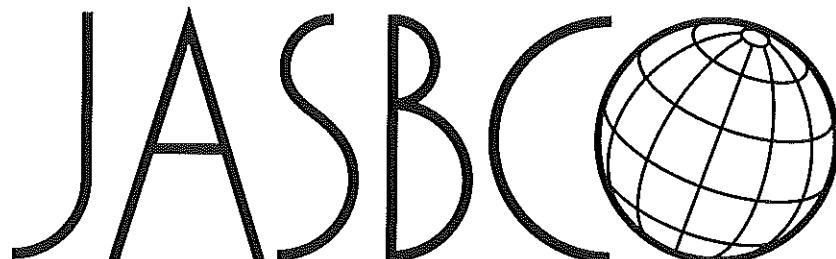
短歌同人誌、淵ではうたを詠む同志を募集しています。未経験の方は懇切丁寧に指導し、後は自由闊達に自らを表現してみて下さい。

五七五七七の妙なる調べに、古来から永々として続く文化の香りに、逍遙してみては如何ですか。淵は、大歌人、會津八一の系譜に、早稲田大学名譽教授で文学博士で、且つ歌人植田重雄教授が創刊し、六十年の歴史を誇る名門です。現在、昭和経済会の理事長、小職が主宰しています。

隔月で淵を発刊しています。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

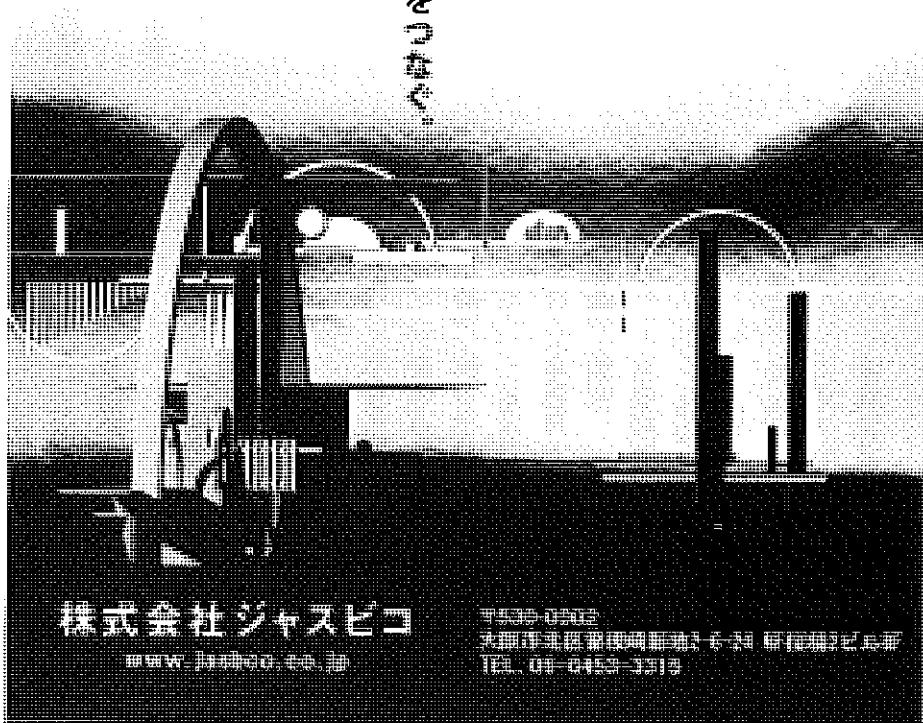
短歌同人誌 淵 主宰 佐々木誠吾

事務局 03-6820-6111



JAPAN SOCIAL BUSINESS CONSULTING

ヒトと地球、
地域と企業、
日本と世界をつなぐ



株式会社 ジャスビコ

www.jasco.co.jp

〒539-0325
大阪府守口市守口橋通2丁目1番地
TEL 06-6454-2312

月刊誌掲載者・昭和経済 論文（敬称略）	原田正二	大正大学教授
昭和五十三年（平成二十七年十二月）	豊田雅孝	当会顧問
大内義一 早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）	安井謙	当会顧問
荻原伯永 （株）日本経済社 日経専務	窪田真也	第一勵業銀行産業調査部長
牛場信彦 外務省顧問	宝生あやこ	劇団手織座
広瀬嘉夫 NHK解説委員	山本幸助	通産省産業政策局長
安井謙 参議院議長	山田勝久	通産省商政策局国際経済部長
加藤寛 慶應義塾大学教授	岡松壯三	通産省電子政策課長
豊原兼一 NHK解説委員	村山祐太郎	鈴木金属工業㈱会長
斎藤栄三郎 参議院議員	堀江忠男	当会理事
岡村和夫 NHK解説委員	寺島祥五郎	早稲田大学名誉教授
石井義昌 勝桂川精螺製作所 社長	安井謙	当会顧問 自民党最高顧問
糸川英夫 組織工学研究所所長	田山晃	参議院議員
宮本四郎 通産省産業政策局長	元 読売新聞政治部次長	元 税務大学教官 税理士
豊田雅孝 （社）日本中小企業団体連盟	鈴木三子郎	大蔵大臣
安井謙 前参議院議長 自民党顧問	竹下登	
大来佐武郎 對外経済関係 政府代表	福田赳夫	衆議院議員
藤原弘達 政治評論家		
堺谷太一 作家		

齊藤榮三郎	商學博士 法學博士 文學博士	水谷研治 東海綜合研究所 理事長
河野洋平	參議院議員	バツラフ・ハベル 日本經濟新聞 マニラ市局長
前川春雄	前 日本銀行總裁	平野憲一郎 日本經濟新聞 マニラ市局長
黒田眞	通商產業省 通商政策局長	吉田和男 京都大學教授
堀江忠男	大月短期大學學長	石川忠雄 廉應義塾大學名譽教授 學長
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘 元首相
鈴木俊一	東京都知事	中山素平 日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	米國企業公共政策研究所 所長	北岡伸一 立教大學教授
目良浩一	東京國際大學教授	島田晴雄 廉應義塾大學教授
行天豊雄	東京銀行會長	吉田和男 京都大學教授
吉川洋	東京大學教授	塩野谷祐一 一橋大學名譽教授
竹中平蔵	慶應義塾大學教授	官沢喜一 元首相
加藤寛	慶應義塾大學教授	山田伸二 N H K解說委員
原田和明	三和綜合研究所 理事長	石井明 東京大學教授
鶴武彦	政府稅制調查會會長	加藤寛 千葉商科大學長
大山昊人	東京國際大學教授	伊藤裕章 朝日新聞ワシントン特派員
元 N H K解說委員	小宮隆太郎 東京大學名譽教授	青山學院大學教授
企業コンサルタント	井浦康之	

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ岩本 ランコ・インター・ナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジェームス・D・ウォルフェルソン
奥野正寛	東京大学教授	世界銀行総裁
橋本大二郎	高知県知事	山口光恒 慶應義塾大学教授
福川伸次	電通総研研究所所長	シモン・ペレス イスラエル外相
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	岡崎久彦 元駐米公使 駐タイ公使
清水啓典	一橋大学教授	ポール・サミュエルソン 経済学者
高橋伸彰	立命館大学教授	大野健一 政策研究大学院大学教授
中谷巖	一橋大学教授	佐々木和男 サウディ石油化学㈱社長
金大中	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド 米国防長官
佐和隆光	京都大学教授	イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
茅陽一	慶應義塾大学院教授	竹森俊平 慶應義塾大学教授
吉田和男	京都大学教授	山本清治 経済評論家
榎佳之	東京大学 医科学研究所 大学院教授	朱建榮 東洋大学
高橋伸彰	立命館大学教授	アレクサンドル・パノフ 駐日ロシア大使
月尾嘉男	東京大学教授	林光夫 ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事（前 理事長）日系ブレース基金理事
北岡伸一	東京大学教授	ハワード・H・ベーカー 駐日米大使
石原慎太郎	東京都知事	山本清治 経済評論家

スティーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名譽教授
山口義一 立教大學經濟學部教授	東京大學客員教授	
公文俊平 多摩大學情報社會學研究所所長	曾根泰教	
伊藤元重 東京大學教授	平野雅章	
アルビン&ハイディ・トフラー 米未來社會學者	早稻田大學教授	
中曾根康弘 元首相	若田部昌澄	
ハワード・H・ベーカー 前駐日米大使	山内昌之	
竹森俊平 慶應義塾大學教授	大西隆	
岡部直明 日本經濟新聞 論說主幹	浜田純一	
加藤寛 千葉商科大學學長	中西寛	
山口光恒 帝京大學教授	高木新二郎	
斎藤惇 産業再生機構 前社長	東京大學總長	
渡辺智之 諸富徹	京都大學教授	
土屋堅二 京都大學准大學教授	野村證券顧問	
山崎正和 入江昭	ハーバード大學名譽教授	
福江等 一橋大學教授	林良造 東京大學教授	
前ナザレン神學大學學長 クリストイーナ・アーマージャン	一橋大學教授	
井深記念塾ユーライ 伊藤元重 東京大學教授		
今井賢一 スタンフォード大學		
大田弘子 経済財政担当相	名譽シニアフェロー	

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 獻	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居文朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 満博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	カナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	国際協力機構（JICA）理事長
山内昌之	東京大学教授	田中素香	中央大学教授
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	駐日韓国大使
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	神戸大学教授
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	東京大学准教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
松本 紘	京都大学総長	若宮啓文	朝日新聞主筆
大西 隆	東京大学教授	中沢克二	日本経済新聞社 中国総局長
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長		

猪木武徳	青山学院大学特任教授	有田 哲文	朝日新聞編集委員
長山浩章	京都大学教授	柴田 直治	朝日新聞国際報道部
石川城太	一橋大学教授	竹森 俊平	慶應大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授	磯田 道史	静岡文化芸術大学准教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト	橘川 武郎	一橋大学教授
篠崎彰彦	九州大学教授	伊藤 元重	東京大学教授
翟 林瑜	大阪市立大学教授	山内 昌之	明治大学特任教授
横山 彰	中央大学教授	白石 隆	政策研究大学院学長
小林慶一郎	一橋大学教授	土屋 英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
原 真人	朝日新聞編集委員	戸田 悅造	懸賞論文 優秀賞
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	青山 康二	早稲田大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授	瀬口 清之	キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
須藤 繁	帝京平成大学教授	今井 賢一	スタンフォード大学名誉シニアファロー
翁 邦雄	京都大学教授	田中 伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
下斗米伸夫	法政大学教授	宮本 雄二	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
吉川 洋	東京大学教授	菅原 宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
渡辺 博史	国際協力銀行副総裁・元財務官	白石 隆	政策研究大学院学長
澤田 康幸	東京大学教授	野中郁次郎	一橋大学名誉教授
北岡 伸一	国際大学学長	矢作 弘	龍谷大学教授

有吉	一橋大学教授
御厨	貴 東京大学先端技術研究センター教授
伊藤	邦雄 一橋大学教授
大村	敬一 早稲田大学教授
御厨	貴 放送大学教授
山内	昌之 明治大学特任教授
葛西	伸一 国際大学学長
北岡	敬之 J R 東海名譽会長
岡崎	哲二 東京大学大学院経済学研究科教授
山内	昌之 明治大学特任教授
池上	朗 東京工業大学
山崎	榎本 中央大学大学院経済学研究科教授
山内	和仁 東京大学教授
石川	健治 東京大学教授
三田	桂子 大阪市立大学准教授
戸堂	康之 早稲田大学教授
松永	誠広 武藏野大学文学部部長
実	哲也 日本経済新聞社論説委員長
御厨	貴 東京大学名誉教授
山内	昌之 東京大学名誉教授
北岡	伸一 国際大学学長
伊藤	元重 東京大学教授
川島	真 順一 日本経済新聞社編集委員
西條	郁夫 朝日新聞アメリカ総局長
滝	順一 青山学院大学教授
山脇	志英 良治 産業技術総合研究所理事長
榎原	中鉢 浩二 慶應義塾大学准教授
中鉢	良治 同志社大学教授
山脇	野村 吉川 洋 東京大学教授
榎原	遠田 岩井 淳哉 日本経済新聞社記者
中鉢	晋次 東北大学教授
西條	敬之 J R 東海名譽会長
滝	青延 N H K 解説委員
山内	和弘 京都大学教授
山内	千晶 一橋大学教授
山内	昌之 東京大学名誉教授

福元 竜哉	読売新聞社記者	齊藤栄三郎	科学技術省長官
吉川 洋	東京大学教授	柿沢弘治	衆議院議員
大村 敬一	早稲田大学教授	浜田幸一	衆議院議員
清家 清	慶應義塾大学義塾長	木元教子	評論家
大橋 弘	東京大学教授	岡松壮三郎	通産省電子政策課長
中川 淳司	東京大学教授	稻川泰弘	通産産業省政策局
石川 城太	一橋大学教授	藤原弘達	政治評論家
櫻川 昌哉	慶應義塾大学教授	山本幸助	通産省産業政策局長
竹中 平蔵	慶應義塾大学総合政策学部教授	岡松壮三郎	通産省生活産業局長
水野 裕司	日本経済新聞社論説副委員長	山田勝之	通産省国際政治部長
当会・講演会 講師（敬称略）	鈴木幸夫	NHK解説委員長	テレビ東京解説委員長
昭和五十三年～平成二十七年十一月	山室英男	通産省宇宙産業室長	衆議院議員
堺屋太一 作家	佐野忠克	寺島祥五郎	当会理事
栗栖弘臣 統合幕僚長	河野洋平	長富祐一郎	大蔵省官房審議官
加藤寛 慶應義塾大学教授	中沢忠義	吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長
糸川広洋 組織工学研究所 所長			
大来佐武郎 対外経済担当大臣			

天谷直弘	(財) 産業研究所 顧問	岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長
鈴木俊一	元 通産省審議官	水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長
黒田眞	東京都知事	有馬朗人	東京大学総長
上野明	通商産業省 通商政策局長	松本和男	経済評論家
前川春雄	野村総合研究所 主任研究員	大山晃人	NHK解説委員
大山晃人	前日本銀行總裁	野村総合研究所副理事長	元 日本銀行理事
野坂昭如	作家	松永信雄	外務省顧問 前 駐米大使
堀江忠男	通産省産業政策局	霍見芳浩	ニューヨーク市立大学大学院教
梅沢節男	産業政策局総務課長	村松啖	慶應義塾大学名誉教授
田川誠一	国税庁長官	飯田健一	NHK解説委員
森 亘	進歩党代表 衆議院議員	L・A・チジヨーフ	駐日ロシア連邦大使
藤井康男	東京大学総長	大山晃人	元NHK解説委員
水城武彦	龍角散社長	東京国際大学教授	メディエーター(人間接着業)
大山晃人	NHK解説委員	小浜維人	NHK解説委員長
齊藤栄三郎	国務大臣 科学技術厅長官	青木匡光	メディエーター(人間接着業)
内田 満	早稻田大学教授	紺谷典子	(財) 日本証券經濟研究所
			主任研究員

原田和明

三和総合研究所
朝日新聞編集委員

副島隆彦 経済評論家

テレビ朝日ニュース・ステーション

パールシェアード ベアリング投信投資顧問
(株)日本株運用ヘッジ兼ストラジスト

大山晃人

元 NHK解説委員
木村時夫

早稲田大学名誉教授
山田伸二

NHK解説委員
中村敦夫

参議院議員
原田和明

井浦康之

井浦コミュニケーションセンター
当会理事

三和総合研究所特別顧問
西澤宏繁
東京都民銀行頭取
龜井静香
衆議院議員
山田伸二

水谷研治

東海総合研究所 理事長
東京国際大学教授

NHK解説委員
武者陵司

ドイツ証券チーフストラジト
川崎真一郎

第一生命経済研究所 主任研究員
金子一義

目良浩一

筑波大学 臨床医学系内科教授

國務大臣
山口義行

NHK解説主幹
山田伸二

立教大学教授
岩國哲人

千葉商科大学教授
斎藤精一郎

山下龜次郎

筑波大学付属病院副院长

衆議院議員
浅井隆

上智大学教授
経済ジャーナリスト

岩田規久男

立教大学教授
前 出雲市長

立教大学教授
岩田伸二

第一生命経済研究所 主任研究員
伊藤 達也

久保亘

大山晃人

立教大学教授
山口義行

NHK解説主幹
山田伸二

東京国際大学教授

高木新二郎

千葉商科大学教授
斎藤精一郎

NHK解説委員

吉田春樹

和光経済研究所理事長
高木新二郎

千葉商科大学大学院教授
斎藤精一郎

山田伸二
吉田春樹

和光経済研究所理事長
高木新二郎

千葉商科大学大学院教授
斎藤精一郎

山田 伸二	N H K 解説主幹	山内 進	一橋大学学長
社会経済学者 エコノミスト	板垣 信幸	熊野 英生	第一生命経済研究所首席エコノミスト
佐々木和男 学校法人静岡理工科大学理事長	元三菱商事㈱本部長	五十嵐 敬喜	三菱UFJリサーチ
サウディ石油化学㈱前社長	経済評論家 株式評論家	N H K 解説委員	&コンサルティング 執行役員
三原 淳 一洋	元モスクワ支局長	加藤 青延	N H K 解説委員
山田 伸二	N H K 解説主幹	井浦 康之	(株)井浦コミュニケーションセンター
中谷 元	元防衛庁長官 衆議院議員	竹内 明日香	(株)アルバ・パートナーズ
林良 造 東京大学教授	元經濟産業省 経済産業政策局長	五十嵐 敬喜	三菱UFJリサーチ
渡辺 喜美 みんなの党代表 衆議院議員	&コンサルティング 執行役員		
山崎 淑行 N H K 科学文化部 記者			
中谷 巍 一橋大学教授			
ロバート・フレドマン			
月尾 嘉男 東京大学名誉教授	経済評論家・エコノミスト		



春日野にて

會津八一

かすがのにおしてるつきのほがらかに
あきのゆふべとなりにけるかも

かすがののみくさをりしきふすしかの

つのさへさやにてるつくよかも

うちふしてものもふくさのまくらべを
あしたのしかのむれわたりつつ

こがくれてあらそふらしきさをしかの
つのひびきによはくだちつつ
かすがのにふれるしらゆきあすのゞと
けぬべくわれはいにしへおもほゆ

はるきぬといまかもろびとゆきかへり
ほとけのにはにはなさくらしも

(佐々木誠吾撰)

平成二十七年十二月二十五日印刷
平成二十八年一月一日発行

昭和經濟 第六十七卷

佐々木 誠 吾

編集人
兼發行人

印 刷 所

日本印刷株式会社

發行所
事務局

〒104-0016 東京都中央区八重洲二丁目二ノ一
TEL (六八二〇) 6000番

FAX (三三七一) 三一〇四番

e-mail:info@showarec.or.jp/
<http://www.showarec.or.jp/>

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
莊祐新榮宗英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳
男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得謹芳謙郎清郎彥大実夫

講演会の主な講師

(講演時役職) (敬称略)

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小七霍松鈴有大水森堀水藤井大
通財子口井澤坂田島田保國藤良田田浜八見永木馬來谷江城井浦山
省道佐精チジ佐
達一義静宏茂晴隆伸哲一浩和維芳信淑朗武研忠武康康昊
當宣也義二香繁三雄彦二亘人郎一明俊仁浩夫夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東対東東早N龍井N
商蔵務教京應H京和ビHレユ駐村外海稻浦コニュニケH
産省閣大議都治義K雲國合ニロク大合經合角田H
業政總臣大議治大K雲國合ニロク大合經合角田H
省策理・學產經民塾大際研ユ解市使研大濟研大
策研大業院評評解藏シ立・研究学解散
研究再濟銀大大究ス説大外研究学担究学名説
究会臣生學說市所スア学務所當所當所當所當
会メ補機部議行論學論大教理ニテ委大務理總理總
メン佐構教頭教委教事シ員大院顧事大事教委
ババ担担ヨ
||官当授員取家授家員臣長授長ノ長使授問長長臣長長授員長
|

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

公益社団法人 **昭 和 経 済 会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp